

2017～2019（平成 29～令和元）年度  
横浜市立大学地域貢献活動支援事業（協働型）

一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯の社会的孤立予防にむけた仕組みの開発  
事業報告書

2020 年（令和 2 年）3 月

横浜市富岡東地域ケアプラザ

横浜市立大学医学部地域看護学教室・国際総合科学部まちづくりコース

## 目次

はしがき

### 事業概要

I. 背景と目的

II. 方法

III. 結果

1. 地域ニーズ調査Ⅰ（既存資料及びデータベースによる地域診断）
2. 地域ニーズ調査Ⅱ（生活時間・空間・行動調査）
3. 地域ニーズ調査Ⅲ（プライマリーインフォーマントインタビュー）
4. 地域ニーズ調査Ⅳ（キーインフォーマントインタビュー）
5. 地域ニーズ調査Ⅴ（まちあるき調査）
6. 地域事業（ふらっとスペースなみき）のモデルフレームワーク（案）
7. 地域事業Ⅰ（ふらっとスペースなみき in ビアレ）
8. 地域事業Ⅱ（ふらっとスペースなみき in イド藻公園、イガイ根公園）

IV. 総括

### 事業体制

I. 活動組織

II. 活動財源

III. 活動発表

### 付録

- 付録 1 地域ニーズ調査Ⅰ関係資料
- 付録 2 地域ニーズ調査Ⅱ関係資料
- 付録 3 地域ニーズ調査Ⅲ関係資料
- 付録 4 地域ニーズ調査Ⅳ関係資料
- 付録 5 地域事業Ⅰ関係資料
- 付録 6 地域事業Ⅱ関係資料
- 付録 7 活動発表関係資料
- 付録 8 写真

## はしがき

今回、横浜市立大学医学部地域看護学教室、国際総合学部街づくりコースと横浜市富岡東地域ケアプラザとの共同事業を3年間にわたり行い、まとめることができましたことに関係各位の皆様に深く感謝いたします。

シーサイドタウン地区は埋め立てにより作られた集合住宅にほぼ同じ時期に入居した方々からなる地域です。40年近くの時間が経過するということは、そこに居住する方々も40歳分年齢が増えることであり、身体的だけでなく社会的な役割や環境も大きく変化していきます。今後さらに年月が経つにつれ、ハード面からの制約からさまざまな困難が容易に予測されます。そうした困難に立ち向かう地域住民による取り組みは以前から多く行われており、活発な活動は他の地域に類を見ないほどです。

今回行った事業は、私たちケアプラザと横浜市大それぞれの経験と知恵を合わせた事業です。それぞれだけではできなかった取り組みが今回の事業を通じて行うことができ、単独で行うよりも2倍3倍の成果となったと自負しております。取り組みの結果が、地域住民がずっと住み慣れた街でいきいきと暮らしていくことができる一助となれば幸いです。

社会福祉法人 若竹大寿会

横浜市富岡東地域ケアプラザ 成田 真一

# 事業概要

## I. 背景と目的

横浜市金沢区シーサイドタウン地区は、市のニュータウン計画事業により、臨海部の埋立て地に建てられた集合住宅からなる地区（H27年人口：約21,600人；世帯数：9600世帯）である。平成27年時点の65歳以上の人口割合（高齢化率）は、30.7%で市・区平均（22.8%）を大きく上回り、また高齢者のいる世帯の割合は44.0%で同平均（40.0%）を上回っている。住民の約97%は集合住宅に住んでおり、うち3～5階建の住宅は約51%を占め、6階建以上の住宅は45%を占めている。現在、概ね築40年になる集合住宅の多くはエレベーターの設置がないか、あっても各階には止まらないなど、高齢者の外出を困難にしている。外出頻度が週1回以下で一日のほとんどを自宅内で過ごす高齢者の「閉じこもり」は性、年齢、疾患等を調整してなお、歩行機能や認知機能の低下を促し、また身体・心理・社会的健康を低下させ、さらには社会的孤立や認知症の発生リスクを高めることが知られている。わけても一人暮らし高齢者では、他の世帯の高齢者より社会的孤立等のリスクが高く、予防ならびに解決のための地域を基盤とした仕組みづくりは焦眉の課題である。

そこで本事業では、都市団地型小規模コミュニティ（横浜市金沢区シーサイド地区）における、一人暮らし高齢者等の社会的孤立予防にむけた仕組みとして、誰もが気軽に立ち寄り、交流することができるモデルプログラム「ふらっとスペースなみき」を開発し、定性的かつ定量的に評価することを目的とした。

## II. 方法

本事業は、表1のとおり、地域ニーズ調査Ⅰ～Ⅴならびに同調査結果に基づき開発されたプログラム事業Ⅰ～Ⅱからなる。なお、本事業は、横浜市立大学医学研究倫理委員会による承認（A150122012）を受けて実施された。

表1 事業の方法等

事業	対象	方法	期間
1 地域ニーズ調査Ⅰ	当該地域に関する既存資料	資料分析	2017年度
2 地域ニーズ調査Ⅱ	プライマリーインフォーマント	社会踏査 (生活時間・空間・行動調査)	2017年度
3 地域ニーズ調査Ⅲ	プライマリーインフォーマント	エスノグラフィー(インタビュー)	2017年度
4 地域ニーズ調査Ⅳ	キーインフォーマント	エスノグラフィー(インタビュー)	2018年度
5 地域ニーズ調査Ⅴ	当該地域	地区踏査(まち歩き)	2019年度
6 プログラム事業Ⅰ	当該地域住民	プログラム実施および評価	2018年度
7 プログラム事業Ⅱ	当該地域住民	プログラム実施および評価	2019年度

### III. 結果

#### 1. 地域ニーズ調査 I（既存資料及びデータベースによる地域診断）

##### 1) 目的

既存資料及びデータベースによる地域診断を行い、モデルプログラム「ふらっとスペースなみき」（仮称）のニーズのアセスメントをすることを目的とした。

##### 2) 方法

横浜市統計情報ポータルシステム、e-stat（政府統計の総合窓口）等より、人口、世帯、出生死亡、介護の状況等について情報収集のうえ、直近5カ年の経年比較等を行い分析した。

##### 3) 結果

##### (1) 人口に関する変化（表2）

表2. 人口に関する変化（平成22年→平成27年）

指標	平成22年		平成27年		平成22年→27年 増加率
	n	%	n	%	
<b>総数</b>					
並木二丁目	6,027	100	5,667	94.0	-5.9
並木三丁目	4,820	100	4,379	90.9	-9.1
金沢区	209,274	100	202,229	96.6	-3.3
横浜市	3,688,773	100	3,724,844	101.0	1.0
<b>年齢階級別人口・構成割合</b>					
<b>年少人口</b>					
並木二丁目	523	8.7	454	8.0	-0.7
並木三丁目	639	13.3	530	12.1	-1.2
金沢区	26,612	12.8	24,029	11.9	-0.9
横浜市	486,262	13.3	468,535	12.7	-0.6
<b>生産年齢人口</b>					
並木二丁目	4,104	68.2	3,061	54.2	-14.0
並木三丁目	3,393	70.4	2,648	60.5	-9.9
金沢区	135,992	65.3	123,263	61.3	-4.0
横浜市	2,440,385	66.6	2,368,291	64.0	-2.6
<b>老年人口</b>					
並木二丁目	1,392	23.1	2,134	37.8	14.7
並木三丁目	785	16.3	1,197	27.4	11.1
金沢区	45,550	21.9	53,953	26.8	4.9
横浜市	736,216	20.1	865,490	23.4	3.3
<b>後期高齢者人口</b>					
並木二丁目	403	6.7	672	11.9	5.2
並木三丁目	224	4.6	318	7.3	2.7
金沢区	20,130	9.6	24,280	12.0	2.4
横浜市	325,403	8.9	402,549	10.9	2.0
<b>男女別人口・構成割合</b>					
<b>男性人口</b>					
並木二丁目	2,949	48.9	2,744	48.4	-0.5
並木三丁目	2,431	50.4	2,230	50.9	0.5
金沢区	103,351	49.4	99,167	49.9	-0.4
横浜市	1,849,767	50.1	1,855,985	49.8	-0.3
<b>女性人口</b>					
並木二丁目	3,078	51.1	2,923	51.6	0.5
並木三丁目	2,389	49.6	2,149	49.1	-0.5
金沢区	105,923	50.6	103,062	51.1	0.4
横浜市	1,839,006	49.9	1,868,859	50.2	0.3

総人口は並木二丁目 6,027 人→5,667 人（-5.9%）、並木三丁目 4,820 人→4,379 人（-9.1%）であり、金沢区 209,274 人→202,229 人（-3.3%）、横浜市 3,688,773 人→3,724,844（+1.9%）に比べ、人口減少率は高い。

年齢階級別人口・構成割合において、年少人口は並木二丁目 523 人（8.7%）→454 人（8.0%）、-0.7 ポイント、並木三丁目 639 人（13.3%）→530 人（12.1%）、-1.2 ポイントであり、金沢区 26,612 人（12.8%）→24,029 人（11.9%）、-0.9 ポイント、横浜市 486,262 人（13.3%）→468,535 人（12.7%）、

-0.6ポイントに比べ、並木二丁目は割合が低く、減少率は同等、並木三丁目は割合が同等、減少率は高い。

生産年齢人口は並木二丁目 4,104人(68.2%)→3,061人(54.2%), -14.0ポイント、並木三丁目 3,393人(70.4%)→2,648人(60.5%), -9.9ポイントであり、金沢区 135,992人(65.3%)→123,263人(61.3%), -4.0ポイント、横浜市 2,440,385人(66.6%)→2,368,291人(64.0%), -2.6ポイントに比べ、割合が低く、減少率は高い。

老年人口は並木二丁目 1,392人(23.1%)→2,134人(37.8%), +14.7ポイント、並木三丁目 785人(16.3%)→1,197人(27.4%), +11.1ポイントであり、金沢区 45,550人(21.9%)→53,953人(26.8%), +4.9ポイント、横浜市 736,216人(20.1%)→865,490人(23.4%), +3.3ポイントに比べ、割合、増加率ともに高い。

後期高齢者人口は並木二丁目 403人(6.7%)→672人(11.9%), +5.2ポイント、並木三丁目 224人(4.6%)→318人(7.3%), +2.7ポイントであり、金沢区 20,130人(9.6%)→24,280人(12.0%), +2.4ポイント、横浜市 325,403人(8.9%)→402,549人(10.9%), +2.0ポイントに比べ、増加率が高い。

これらのことより、年少人口の低下、生産年齢人口の低下、老年人口の増加(特に、並木二丁目)ならびに人口減少の加速化が推測されることから、地域の「担い手」が減少し、「受け手」が増加することを見据えた(「担い手」と「受け手」の考え方の見直しも含めた)、並木地区の地域(体制)づくりが必要と考えられる。

## (2) 世帯に関する変化(表3)

表3. 世帯に関する変化(平成22年→平成27年)

	平成22年		平成27年		平成22年→27年 増加率
	n	%	n	%	
<b>総数</b>					
並木二丁目	2,281	100	2,240	98.2	-1.8
並木三丁目	1,867	100	1,808	96.8	-3.2
金沢区	86,716	100	86,802	100.1	0.1
横浜市	1,573,882	100	1,635,805	103.9	3.9
<b>世帯構造別世帯数</b>					
<b>単独世帯数</b>					
並木二丁目	295	12.9	370	16.5	3.6
並木三丁目	410	21.9	455	25.2	3.3
金沢区	25,785	29.7	27,757	32.0	2.3
横浜市	531,213	33.8	588,068	35.9	2.1
<b>夫婦のみの世帯</b>					
並木二丁目	680	29.8	730	32.6	2.8
並木三丁目	422	22.6	466	25.8	3.2
金沢区	18,873	21.8	19,607	22.6	0.8
横浜市	321,109	20.4	335,616	20.5	0.1
<b>夫婦と未婚の子からなる世帯</b>					
並木二丁目	973	42.7	827	36.9	-5.8
並木三丁目	749	40.1	610	33.7	-6.4
金沢区	29,392	33.9	27,446	31.6	-2.3
横浜市	499,423	31.7	497,644	30.4	-1.3
<b>三世代世帯等の核家族以外の世帯</b>					
並木二丁目	93	4.1	94	4.2	0.1
並木三丁目	86	4.6	72	4.0	-0.6
金沢区	4,702	5.4	3,849	4.4	-1.0
横浜市	76,941	4.9	66,214	4.0	-0.9
<b>平均世帯人員数</b>					
並木二丁目	2.64		2.48		-0.16
並木三丁目	2.58		2.42		-0.16
金沢区	2.39		2.31		-0.08
横浜市	2.31		2.24		-0.07

世帯総数(平成22年度世帯数に対する平成27年度世帯数の割合)は並木二丁目 2,281世帯(100.0%)→2,240世帯(98.2%), -1.8ポイント、並木三丁目 1,867世帯(100.0%)→1,808世帯(96.8%), -3.2

ポイントであり、金沢区 86,716 (100.0%) → 86,802 世帯 (100.1%), +0.1 ポイント、横浜市 1,573,882 世帯 (100.0%) → 1,635,805 (103.9%), +3.9 ポイントに比べ、増加率はともに微減である。

世帯構造別世帯数において、単独世帯数は並木二丁目 295 世帯 (12.9%) → 370 世帯 (16.5%), +3.6 ポイント、並木三丁目 410 世帯 (21.9%) → 455 世帯 (25.2%), +3.3 ポイントであり、金沢区 25,785 世帯 (29.7%) → 27,757 世帯 (32.0%), +2.3 ポイント、横浜市 531,213 世帯 (33.8%) → 588,068 世帯 (35.9%), +2.1 ポイントに比べ、割合は低く、増加率は同等 (微増) である。

夫婦のみの世帯は並木二丁目 680 世帯 (29.8%) → 730 世帯 (32.6%), +2.8 ポイント、並木三丁目 422 世帯 (22.6%) → 466 世帯 (25.8%), +3.2 ポイントであり、金沢区 18,873 (21.8%) → 19,607 (22.6%), +0.8 ポイント、横浜市世帯 321,109 (20.4%) → 335,616 世帯 (20.5%), +0.1 ポイントに比べ、割合は高く、増加率は高い。

夫婦と未婚の子からなる世帯は並木二丁目 973 世帯 (42.7%) → 827 世帯 (36.9%), -5.8 ポイント、並木三丁目 749 世帯 (40.1%) → 610 世帯 (33.7%), -6.4 ポイントであり、金沢区 29,392 世帯 (33.9%) → 27,446 世帯 (31.6%), -2.3 ポイント、横浜市 499,423 世帯 (31.7%) → 497,644 世帯 (30.4%), -1.3 ポイントに比べ、割合は高く、増加率は低い。

三世帯世帯等の核家族以外の世帯は並木二丁目 93 世帯 (4.1%) → 94 世帯 (4.2%), +0.1 ポイント、並木三丁目 86 世帯 (4.6%) → 72 世帯 (4.0%), -0.6 ポイントであり、金沢区 4,702 世帯 (5.4%) → 3,849 世帯 (4.4%), -1.0 ポイント、横浜市 76,941 世帯 (4.9%) → 66,214 世帯 (4.0%), -0.9 ポイントに比べ、割合、増加率ともに同等である。

平均世帯人員数は並木二丁目 2.64 人 → 2.48 人, -0.16 人、並木三丁目 2.58 人 → 2.42 人, -0.16 人であり、金沢区 2.39 人 → 2.31 人, -0.08 人、横浜市 2.31 人 → 2.24 人, -0.07 人に比べ、平均世帯人員数は多く、同様に減少傾向であるが、減少率は高い。

これらのことより、総世帯数の減少、平均世帯人員数の減少、単独世帯数および夫婦のみ世帯数の維持もしくは増加は、市区を上回る推測できることから、世帯の縮小を見据えた (単独世帯における家族の考え方を含めて)、並木地区の地域 (体制) づくりが必要と考えられる。

### (3) 65 歳以上の者のいる世帯に関する変化 (表 4)

表 4. 65 歳以上の者のいる世帯に関する変化 (平成 22 年 → 平成 27 年)

	平成 22 年		平成 27 年		平成 22 年 → 27 年 増加率
	n	%	n	%	
<b>総数</b>					
並木二丁目	950	41.6	1,314	58.7	17.1
並木三丁目	562	30.1	791	43.8	13.7
金沢区	30,501	35.2	35,506	40.9	5.7
横浜市	487,666	31.0	568,164	34.7	3.7
<b>世帯構造別世帯数</b>					
<b>単独世帯数</b>					
並木二丁目	132	13.9	197	15.0	1.1
並木三丁目	80	14.2	130	16.4	2.2
金沢区	7,451	24.4	9,514	26.8	2.4
横浜市	132,016	27.1	170,739	30.1	3.0
<b>夫婦のみの世帯</b>					
並木二丁目	413	43.5	581	44.2	0.7
並木三丁目	222	39.5	322	40.7	1.2
金沢区	10,689	35.0	12,731	35.9	0.9
横浜市	159,504	32.7	185,392	32.6	-0.1
<b>夫婦と未婚の子からなる世帯</b>					
並木二丁目	239	25.2	333	25.3	0.1
並木三丁目	125	22.2	182	23.0	0.8
金沢区	5,126	16.8	6,009	16.9	0.1
横浜市	79,624	16.3	91,748	16.1	-0.2
<b>三世帯世帯等の核家族以外の世帯</b>					
並木二丁目	70	7.4	77	5.9	-1.5
並木三丁目	73	13.0	62	7.8	-5.2
金沢区	3,872	12.7	3,280	9.2	-3.5
横浜市	60,197	12.3	53,608	9.4	3.0

65歳以上の者のいる世帯数（総世帯における割合）は並木二丁目 950 世帯（41.6%）→1314 世帯（58.7%），+17.1 ポイント、並木三丁目 562 世帯（30.1%）→791 世帯（43.8%），+13.7 ポイントであり、金沢区 30,501（35.2%）→35,506 世帯（40.9%），+5.7 ポイント、横浜市 487,666 世帯（31.0%）→568,164（34.7%），+3.7 ポイントに比べ、割合、増加率ともに高い。

65歳以上の者のいる世帯における世帯構造別世帯数（65歳以上の者のいる総世帯における割合）において、単独世帯は並木二丁目 132 世帯（13.9%）→197 世帯（15.0%），+1.1 ポイント、並木三丁目 80 世帯（14.2%）→130 世帯（16.4%），+2.2 ポイントであり、金沢区 7,451 世帯（24.4%）→9,514 世帯（26.8%），+2.4 ポイント、横浜市 132,016 世帯（27.1%）→170,739 世帯（30.1%），+3.0 ポイントに比べ、割合は低く、増加率は同等である。

夫婦のみの世帯は並木二丁目 413 世帯（43.5%）→581 世帯（44.2%），+0.7 ポイント、並木三丁目 222 世帯（39.5%）→322 世帯（40.7%），+1.2 ポイントであり、金沢区 10,689（35.0%）→12,731（35.9%），+0.9 ポイント、横浜市 159,504 世帯（32.7%）→185,392 世帯（32.6%），-0.1 ポイントに比べ、割合は高く、増加率は同等（微増）である。

夫婦と未婚の子からなる世帯は並木二丁目 239 世帯（25.2%）→333 世帯（25.3%），+0.1 ポイント、並木三丁目 125 世帯（22.2%）→182 世帯（23.0%），+0.8 ポイントであり、金沢区 5,126 世帯（16.8%）→6,009 世帯（16.9%），+0.1 ポイント、横浜市 79,624 世帯（16.3%）→91,748 世帯（16.1%），-0.2 ポイントに比べ、割合は高く、増加率は同等（微増）である。

三世帯世帯等の核家族以外の世帯は並木二丁目 70 世帯（7.4%）→77 世帯（5.9%），-1.5 ポイント、並木三丁目 73 世帯（13.0%）→62 世帯（7.8%），-5.2 ポイントであり、金沢区 3,872 世帯（12.7%）→3,280 世帯（9.2%），-3.5 ポイント横浜市 60,197 世帯（12.3%）→53,608 世帯（9.4%），+3.0 ポイントに比べ、並木二丁目は割合が低く増加率は同等（微減）、並木三丁目は割合、増加率ともに同等（微減）である。

これらのことより、65歳以上の者のいる世帯数及び割合が急増し、かつ6割は単独と夫婦のみであることから、世帯の高齢化、世帯の介護予防（要介護状態となったときに家族介護への期待が難しくなる）、独居予備軍としての夫婦のみ世帯への対応ならびに夫婦と未婚の子世帯への着眼が求められると考えられる。

#### （4）就学前の子どもがいる世帯に関する変化

平成 22 年→27 年における就学前の子どもがいる世帯数（総世帯における割合）は、並木二丁目 159 世帯（7.0%）→126 世帯（5.5%），-1.5 ポイント、並木三丁目 191 世帯（10.2%）→143 世帯（7.9%），-2.3 ポイントであり、金沢区 7,816（9.0%）→6,791 世帯（7.8%），-1.2 ポイント、横浜市 149,810 世帯（9.5%）→143,799（8.8%），-0.7 ポイントに比べ、割合、増加率ともに同等（微減）である。

平成 22 年→27 年における就学前の子どもがいる世帯数（就学前の子どもがいる総世帯における割合）において、夫婦と未婚の子からなる世帯は並木二丁目 139 世帯（87.4%）→107 世帯（84.9%），-2.5 ポイント、並木三丁目 177 世帯（92.7%）→130 世帯（90.9%），-1.8 ポイントであり、金沢区 6,968 世帯（89.2%）→6,072 世帯（89.4%），+0.2 ポイント、横浜市 134,565 世帯（89.8%）→130,650 世帯（90.9%），+1.1 ポイントに比べ、並木二丁目は割合が低く増加率は同等（微減）、並木三丁目は割合が高く増加率は同等（微減）である。

なお、出生に関する変化として、平成 22 年→27 年の 0 歳人口は、並木二丁目 25 人→25 人、並木三丁目 34 人→27 人であり、平成 22 年→27 年における出生数（人口千対出生率）は、金沢区 1,545 人（7.4）→1,386 人（6.9）-0.5 ポイント、横浜市 32,053 人（8.7）→30,022 人（8.1）+0.5 ポイントである。

これらのことより、就学前の子どもがいる世帯数が減少することが推測されることから、同世帯における他世帯からの孤立や地域における次代の担い手ならびに活力が低下することを見据えた対応が必要と考えられる。

#### （5）介護保険認定者に関する変化（表 5）

介護保険認定者数（平成 22 年度認定者数に対する平成 27 年度認定者数の割合）は並木二丁目 164 人→225 人（+37.2%）、並木三丁目 105 人→130 人（+23.8%）であり、金沢区 7,503 人→9,154 人（+22.0%）、横浜市 118,408 人→151,445 人（+27.9%）に比べ、並木二丁目は増加率が高く、並木三丁目は同等である。

介護度別認定者数（平成 22 年から 27 年における全認定者に占める割合の差）において、要支援 1

は並木二丁目 25→49 人 (+6.5)、並木三丁目 13→17 人 (+0.7) であり、金沢区 973→1,322 人 (+1.4)、横浜市 11,543→17,840 人 (+2.1) と比べ、並木二丁目は増加率が高く、並木三丁目は同等である。要支援 2 は並木二丁目 16→27 人 (+2.2)、並木三丁目 12→21 人 (+4.7) であり、金沢区 971→1,074 人 (-1.2)、横浜市 17,183→21,590 人 (-0.2) と比べ、増加率はともに高い。

表 5. 介護保険認定者に関する変化 (平成 22 年→平成 27 年)

指標	平成 22 年		平成 27 年		平成 22 年→27 年 増加率
	n	%	n	%	
<b>介護保険認定者数</b>					
並木二丁目	164	100	225	137.2	37.2
並木三丁目	105	100	130	123.8	23.8
金沢区	7,503	100	9,154	122.0	22.0
横浜市	118,408	100	151,445	127.9	27.9
<b>介護度別認定者数</b>					
<b>要支援 1</b>					
並木二丁目	25	15.2	49	21.8	6.5
並木三丁目	13	12.4	17	13.1	0.7
金沢区	973	13.0	1,322	14.4	1.4
横浜市	11,543	9.7	17,840	11.8	2.1
<b>要支援 2</b>					
並木二丁目	16	9.8	27	12.0	2.2
並木三丁目	12	11.4	21	16.2	4.7
金沢区	971	12.9	1,074	11.7	-1.2
横浜市	17,183	14.5	21,590	14.3	-0.2
<b>要介護 1</b>					
並木二丁目	30	18.3	36	16.0	-2.3
並木三丁目	18	17.1	27	20.8	3.6
金沢区	1,222	16.3	1,684	18.4	2.1
横浜市	17,240	14.6	24,201	16.0	1.4
<b>要介護 2</b>					
並木二丁目	30	18.3	39	17.3	-1.0
並木三丁目	20	19.0	26	20.0	1.0
金沢区	1,549	20.6	1,976	21.6	1.0
横浜市	25,605	21.6	33,263	22.0	0.4
<b>要介護 3</b>					
並木二丁目	17	10.4	27	12.0	1.6
並木三丁目	19	18.1	13	10.0	-8.1
金沢区	1,044	13.9	1,154	12.6	-1.3
横浜市	17,321	14.6	20,662	13.6	-1.0
<b>要介護 4</b>					
並木二丁目	26	15.9	29	12.9	-3.0
並木三丁目	12	11.4	17	13.1	1.6
金沢区	880	11.7	1,101	12.0	0.3
横浜市	15,133	12.8	18,661	12.3	-0.5
<b>要介護 5</b>					
並木二丁目	20	12.2	18	8.0	-4.2
並木三丁目	11	10.5	9	6.9	-3.6
金沢区	864	11.5	843	9.2	-2.3
横浜市	14,383	12.1	15,228	10.1	-2.0

要介護 1 は並木二丁目 30→36 人 (-2.3)、並木三丁目 18→27 人 (+3.6) であり、金沢区 1,222→1,684 人 (+2.1)、横浜市 17,240→24,201 人 (+1.4) と比べ、並木二丁目は増加率が低く、並木三丁目は増加率が同等である。

要介護 2 は並木二丁目 30→39 人 (-1.0)、並木三丁目 20→26 人 (+1.0) であり、金沢区 1,549→1,976 人 (+1.0)、横浜市 25,605→33,263 人 (+0.4) と比べ、増加率はともに同等である。

要介護 3 は並木二丁目 17→27 人 (+1.6)、並木三丁目 19→13 人 (-8.1) であり、金沢区 1,044→1,154 人 (-1.3)、横浜市 17,321→20,662 人 (-1.0) と比べ、並木二丁目は増加率が同等 (微増) で、並木三丁目は増加率が低い。

要介護4は並木二丁目26→29人(-3.0)、並木三丁目12→17人(+1.6)であり、金沢区880→1,101人(+0.3)、横浜市15,133→18,661人(-0.5ポイント)と比べ、増加率はともに同等である。  
 要介護5 並木二丁目20→18人(-4.2)、並木三丁目11→9人(-3.6)であり、金沢区864→843人(-2.3)、横浜市14,383→15,228人(-2.0)と比べ、増加率はともに同等である。  
 これらのことより、介護保険認定者数の増加、要支援1及び2の増加(新規発生)の増加が推測されることから、「自立者」における要支援化への予防、「要支援者」における要介護化への予防に着眼した取り組みの強化が必要と考えられる。

## 2. 地域ニーズ調査Ⅱ(生活時間・空間・行動調査)

### 1) 目的

一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯の社会的孤立予防にむけた仕組み(誰もが気軽に立ち寄り、交流することができるモデルプログラム「ふらっとスペースなみき」:仮称)の開発のため、地域で生活する対象の生活を把握することを目的とした。

### 2) 対象(プライマリーインフォーマント)

並木二、三丁目における一人暮らし高齢者世帯(平成27年総数:327世帯)10世帯10人  
 夫婦のみ高齢者世帯(平成27年総数:903世帯)5世帯10人

### 3) 方法

下記表6の項目についての調査票を訪問留め置き法により配布し、訪問により回収した。GPSについては装着方法が紙面及び口頭で説明され、2日間装着された。

表6 測定方法及び測定内容

方法	内容
(1) 質問紙調査	基本属性 外出頻度 地域見守り自己効力感(Community's Self-Efficacy scale; CSES) 地域コミットメント(Community Commitment Scale; CCS) 最大到達生活空間(Life-Space Assessment; LSA) 社会的ネットワーク(Lubben Social Network Assessment; LSNA6) アパシー(Apathy Rating Scale: ARS)
(2) 生活時間調査	生活時間調査_生活時間 生活時間調査_生活空間 生活時間調査_生活行動
(3) GPS調査	GPS調査_生活時間 GPS調査_生活空間

### 4) 結果

(1) 対象者の基本属性について(全体、独居世帯、夫婦のみ世帯)(表7-1, 7-2, 7-3)

#### ① 平均年齢について

全体では、79.2±4.7(男性79.4±3.2、女性79.0±6.0)歳、独居では、82.3±3.7(男性81.2±2.0、女性83.4±4.9)歳、夫婦のみでは、76.1±3.3(男性77.6±3.3、女性74.6±3.0)歳であり、性差は見られなかったが、世帯では独居のほうが夫婦のみより高くなっていた。

#### ② 居住年数について

全体では、25.8±12.3(男性25.2±3.2、女性26.3±12.8)年、独居では、25.5±12.2(男性24.4±12.3、女性26.6±13.5)年、夫婦のみでは、26.0±12.9(男性26.0±13.7、女性26.0±13.7)年であり、性差、世帯差は見られなかったが、範囲(最小3年-最大36年)に幅があった。

#### ③ 治療中の病気について

全体では、90.0(男性80.0、女性100.0)%にあり、独居では、100.0(男性100.0、女性100.0)%、夫婦のみでは、80.0(男性60.0、女性100.0)%にあった。最も多い疾病は、高血圧55.0%ならびに筋・骨・関節疾患55.0%であり、次いで心臓病20.0%、視覚障害15.0%となっていた。

#### ④ 介護認定について

全体では、45.0(男性40.0、女性50.0)%、独居では、80.0(男性60.0、女性100.0)%、夫婦のみでは、10.0(男性20.0、女性0)%であり、性差は見られなかったが、世帯では独居のほうが夫婦のみより高くなっていた。なお、認定を受けている者(全体9名)のうち、要支援1は、7名(77.8%)、要支援2は、1名(11.1%)となっていた。

表 7-1 対象者の基本属性 (全体)

	全体(N=20)					
	全体(N=20)		男性(n=10)		女性(n=10)	
	度数 or Mean±SD	% or (range)	度数 or Mean±SD	% or (range)	度数 or Mean±SD	% or (range)
年齢(歳)	79.2±4.7	(71.0-88.0)	79.4±3.2	(74.0-83.0)	79.0±6.0	(71.0-88.0)
年齢階級(歳)						
70-74	3	15.0	1	10.0	2	20.0
75-79	7	35.0	3	30.0	4	40.0
80-	10	50.0	6	60.0	4	40.0
性別						
男性	10	50.0	10	100.0		
女性	10	50.0			10	100.0
就労						
あり	1	5.0	1	10	0	0.0
なし	19	95.0	9	90	10	100.0
子ども						
並木地区	3	15.0	1	10.0	2	20.0
金沢地区	4	20.0	1	10.0	3	30.0
横浜市内	4	20.0	3	30.0	1	10.0
神奈川県内	3	15.0	2	20.0	1	10.0
神奈川県外	4	20.0	2	20.0	2	20.0
いない	2	10.0	1	10.0	1	10.0
居住年数	25.8±12.3	(3.0-36.0)	25.2±3.2	12.3 (5.0-36.0)	26.3±12.8	(3.0-36.0)
5年未満	1	5.0	0	0.0	1	10.0
5-10年未満	3	15.0	2	20.0	1	10.0
10-20年未満	3	15.0	2	20.0	1	10.0
20-30年未満	1	5.0	0	0.0	1	10.0
30-40年未満	12	60.0	6	60.0	6	60.0
治療中の病気(複数回答)						
「あり」と回答した者	18	90.0	8	80.0	10	100.0
高血圧	11	55.0	5	50.0	6	60.0
筋・骨・関節	11	55.0	5	50.0	6	60.0
心臓病(心筋梗塞・狭心症)	4	20.0	1	10.0	3	30.0
視覚障害	3	15.0	3	30.0	0	0.0
高脂血症・高尿酸血症	2	10.0	0	0.0	2	20.0
腎臓病	2	10.0	0	0.0	2	20.0
脳卒中	1	5.0	1	10.0	0	0.0
肝臓病	1	5.0	1	10.0	0	0.0
胃・腸の病気	1	5.0	0	0.0	1	10.0
呼吸器	1	5.0	1	10.0	0	0.0
がん	1	5.0	1	10.0	0	0.0
糖尿病	0	0.0	0	0.0	0	0.0
精神	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	4	20.0	4	40.0	0	0.0
介護認定						
受けている	9	45.0	4	40.0	5	50.0
要支援1	7	77.8	3	30.0	4	40.0
要支援2	1	11.1	1	10.0	0	0.0
その他	1	11.1	0	0.0	1	10.0
住まい						
並木2丁目	7	35.0	3	30.0	4	40.0
並木3丁目	13	65.0	7	70.0	6	60.0
住居						
集合住宅	20	100.0	10	100.0	10	100.0
CCS	合計	15.6±4.6 (7.0-23.0)	16.1±4.7	9.0-23.0	15.0±4.7 (7.0-23.0)	
CSES	合計	9.4±5.6 (0.0-18.0)	10.9±5.0	2.0-18.0	7.8±6.0 (0.0-17.0)	
LSA	合計	67.5±26.9 (27.0-120.0)	65.8±29.3	(27.0-120.0)	69.1±25.9 (28.0-100.0)	
LSNS6	合計	12.0±6.0 (3.0-23.0)	12.5±5.8 (4.0-23.0)		11.5±6.6 (3.0-22.0)	
アパシー	合計	12.2±7.7 (0.0-24.0)	13.5±7.9	2.0-24.0	10.8±7.7 (0.0-23.0)	

CCS: Community commitment Scale (Kono, 2012)

CSES:community's self-efficacy scale (Tadaka,2016)

LSA: Life-Space Assessment (原田, 2010)

LSNA6: 日本語版Lubben Social Network Scale短縮版(栗本, 2011)

表 7-2 対象者の基本属性 (再掲, 独居世帯)

	独居(n=10)						
	全体(n=10)		男性(n=5)		女性(n=5)		
	度数 or Mean±SD	% or (range)	度数 or Mean±SD	% or (range)	度数 or Mean±SD	% or (range)	
年齢(歳)	82.3±3.7	(75.0-88.0)	81.2±2.0	(78.0-83.0)	83.4±4.9	(75.0-88.0)	
年齢階級(歳)							
	70-74	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	75-79	2	20.0	1	20.0	1	20.0
	80-	8	80.0	4	80.0	4	80.0
性別							
	男性	5	50.0	5	100.0		
	女性	5	50.0			5	100.0
就労							
	あり	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	なし	10	100.0	5	100.0	5	100.0
子ども							
	並木地区	1	10.0	0	0.0	1	20.0
	金沢地区	2	20.0	0	0.0	2	40.0
	横浜市内	4	40.0	3	60.0	1	20.0
	神奈川県内	1	10.0	1	20.0	0	0.0
	神奈川県外	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	いない	2	20.0	1	10.0	1	10.0
居住年数	25.5±12.2	(3.0-35.0)	24.4±12.3	(7.0-35.0)	26.6±13.5	(3.0-35.0)	
	5年未満	1	10.0	0	0.0	1	20.0
	5-10年未満	1	10.0	1	20.0	0	0.0
	10-20年未満	1	10.0	1	20.0	0	0.0
	20-30年未満	1	10.0	0	0.0	1	20.0
	30-40年未満	6	60.0	3	60.0	3	60.0
治療中の病気(複数回答)							
	「あり」と回答した者	10	100.0	5	100.0	5	100.0
	高血圧	6	60.0	3	60.0	3	60.0
	筋・骨・関節	6	60.0	4	80.0	2	40.0
	心臓病(心筋梗塞・狭心症)	2	20.0	1	20.0	1	20.0
	視覚障害	1	10.0	1	20.0	0	0.0
	高脂血症・高尿酸血症	1	10.0	0	0.0	1	20.0
	腎臓病	1	10.0	0	0.0	1	20.0
	脳卒中	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	肝臓病	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	胃・腸の病気	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	呼吸器	1	10.0	1	20.0	0	0.0
	がん	1	10.0	1	20.0	0	0.0
	糖尿病	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	精神	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	2	20.0	2	40.0	0	0.0
介護認定							
	受けている	8	80.0	3	60.0	5	100.0
	要支援1	6	60.0	2	40.0	4	80.0
	要支援2	1	10.0	1	20.0	0	0.0
	その他	1	10.0	0	0.0	1	20.0
住まい							
	並木2丁目	3	30.0	1	20.0	2	40.0
	並木3丁目	7	70.0	4	80.0	3	60.0
住居							
	集合住宅	10	100.0	5	100.0	5	100.0
CCS	合計	12.5±3.2	(7.0-17.0)	12.8±3.3	(9.0-17.0)	12.2±3.6	(7.0-15.0)
CSES	合計	5.8±4.3	(0.0-14.0)	8.4±4.6	(2.0-14.0)	3.2±2.0	(0.0-5.0)
LSA	合計	50.2±22.5	(27.0-96.0)	44.0±18.4	(27.0-68.0)	56.3±26.6	(28.0-96.0)
LSNS6	合計	8.1±4.1	(3.0-14.0)	9.4±3.8	(4.0-14.0)	6.8±4.3	(3.0-12.0)
アパシー	合計	18.3±4.9	(7.0-24.0)	20.4±2.5	(17.0-24.0)	16.2±6.1	(7.0-23.0)

CCS: Community commitment Scale (Kono, 2012)

CSES: community's self-efficacy scale (Tadaka, 2016)

LSA: Life-Space Assessment (原田, 2010)

LSNA6: 日本語版Lubben Social Network Scale短縮版(栗本, 2011)

表 7-3 対象者の基本属性 (再掲, 夫婦のみ世帯)

	夫婦のみ(n=10)					
	全体(n=10)		男性(n=5)		女性(n=5)	
	度数 or Mean±SD	% or (range)	度数 or Mean±SD	% or (range)	度数 or Mean±SD	% or (range)
年齢(歳)	76.1±3.3	(71.0-82.0)	77.6±3.3	(74.0-82.0)	74.6±3.0	(71.0-78.0)
年齢階級(歳)						
70-74	3	30.0	1	20.0	2	40.0
75-79	5	50.0	2	40.0	3	60.0
80-	2	20.0	2	40.0	0	0.0
性別						
男性	5	50.0	5	100.0		
女性	5	50.0			5	100.0
就労						
あり	1	10.0	1	20.0	0	0.0
なし	9	90.0	4	80.0	5	100.0
子ども						
並木地区	2	20.0	1	20.0	1	20.0
金沢地区	2	20.0	1	20.0	1	20.0
横浜市内	0	0.0	0	0.0	0	0.0
神奈川県内	2	20.0	1	20.0	1	20.0
神奈川県外	4	40.0	2	40.0	2	40.0
いない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
居住年数	26.0±12.9	(5.0-36.0)	26.0±13.7	(5.0-36.0)	26.0±13.7	(5.0-36.0)
5年未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5-10年未満	2	20.0	1	20.0	1	20.0
10-20年未満	2	20.0	1	20.0	1	20.0
20-30年未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0
30-40年未満	6	60.0	3	60.0	3	60.0
治療中の病気(複数回答)						
「あり」と回答した者	8	80.0	3	60.0	5	100.0
高血圧	5	50.0	2	40.0	3	60.0
筋・骨・関節	5	50.0	1	20.0	4	80.0
心臓病(心筋梗塞・狭心症)	2	20.0	0	0.0	2	40.0
視覚障害	2	20.0	2	40.0	0	0.0
高脂血症・高尿酸血症	1	10.0	0	0.0	1	20.0
腎臓病	1	10.0	0	0.0	1	20.0
脳卒中	1	10.0	0	0.0	0	0.0
肝臓病	1	10.0	1	20.0	0	0.0
胃・腸の病気	1	10.0	0	0.0	1	20.0
呼吸器	0	0.0	0	0.0	0	0.0
がん	0	0.0	0	0.0	0	0.0
糖尿病	0	0.0	0	0.0	0	0.0
精神	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	2	20.0	2	40.0	0	0.0
介護認定						
受けている	1	10.0	1	20.0	0	0.0
要支援1	1	10.0	1	20.0	0	0.0
要支援2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
住まい						
並木2丁目	4	40.0	2	40.0	2	40.0
並木3丁目	6	60.0	3	60.0	3	60.0
住居						
集合住宅	10	100.0	5	100.0	5	100.0
CCS	合計	18.6±3.7 (13.0-23.0)	19.4±3.4 (15.0-23.0)	17.8±4.2 (13.0-23.0)		
CSES	合計	13.4±3.8 (7.0-18.0)	13.4±4.5 (7.0-18.0)	13.5±3.3 (9.0-17.0)		
LSA	合計	84.8±19.0 (56.0-120.0)	87.6±20.1 (70.0-120.0)	81.9±19.7 (56.0-100.0)		
LSNS6	合計	15.9±5.1 (8.0-23.0)	15.6±6.0 (8.0-23.0)	16.2±4.8 (10.0-22.0)		
アパシー	合計	6.0±4.0 (0.0-12.0)	6.6±3.7 (2.0-12.0)	5.4±4.7 (0.0-12.0)		

CCS: Community commitment Scale (Kono, 2012)

CSES: community's self-efficacy scale (Tadaka, 2016)

LSA: Life-Space Assessment (原田, 2010)

LSNA6: 日本語版Lubben Social Network Scale短縮版(栗本, 2011)

### ① CCS (地域コミットメント≒志向性や帰属感) について

全体では、15.6±4.6 (男性 16.1±4.7、女性 15.0±4.7) 点、独居では、12.5±3.2 (男性 12.8±3.3、女性 12.2±3.6) 点、夫婦のみでは、18.6±3.7 (男性 19.4±3.4、女性 17.8±4.2) 点となっており、性差は見られなかったが、世帯では、横浜市の平均 (H26 年度 65 歳以上) 14.0 点に比較して、独居では低く、夫婦のみでは高くなっていた。

### ② CSES (地域見守り効力感≒地域の担い手としての自信) について

全体では、9.4±5.6 (男性 10.9±5.0、女性 7.8±6.0) 点、独居では、5.8±4.3 (男性 8.4±4.6、女性 3.2±2.0) 点、夫婦のみでは、13.4±3.8 (男性 13.4±4.5、女性 13.5±3.3) 点となっており、男性の方が女性より高く、世帯では、横浜市の平均 (H26 年度 65 歳以上) 11.8 点に比較して、独居では著しく低く、夫婦のみではやや高くなっていた。

### ③ LSA (Life-space assessment≒最大到達生活空間) について

特定高齢者(70.7 点) 1) に比べ、全体 (67.5 点) はやや狭く、夫婦のみ(84.8 点) では大幅に広く、独居(50.2 点) では、大幅に狭くなっていた。

### ④ アパシー (≒意欲の低下)

地域住民(13.8 点) 2) に比べ、全体(12.2 点) は近似していたが、夫婦のみ(6.0 点) では低く、独居(18.3 点) では高くなっていた。意欲低下者 (16 点以上) の割合は、夫婦のみでは 0%、独居では 80% であり、地域住民 43.0% 2)、脳卒中患者 32% 3) の割合より高くなっていた。

## (2) 生活時間調査 (表 8)

### ① 生理行動について

全体では 693 分 (男性 646 分、女性 740 分)、独居では 713 分 (男性 629 分、女性 796 分)、夫婦のみでは 673 分 (男性 662 分、女性 684 分) であり、2015 年における 70 歳以上男性 678 分<sup>4)</sup>、70 歳以上女性 665 分<sup>4)</sup> に比べると、いずれの世帯も男性は短く、女性は長い。また独居は食事時間 (89 分) が短く、一方で睡眠時間 (499 分) が長い。

### ② メディア

全体では 387 分 (男性 469 分、女性 304 分)、独居では 409 分 (男性 490 分、女性 328 分)、夫婦のみでは 364 分 (男性 448 分、女性 280 分) であり、2015 年における 70 歳以上男性 423 分、70 歳以上女性 416 分<sup>4)</sup> に比べると、いずれの世帯も男性は長く、女性は短い。

### ③ 家事行動について

全体では 121 分 (男性 74 分、女性 168 分)、独居では 131 分 (男性 82、女性 180 分)、夫婦のみでは 111 分 (男性 66 分、女性 156 分) であり、2015 年における 70 歳以上男性 86 分、70 歳以上女性 222 分<sup>4)</sup> に比べると、いずれの世帯も男女ともに短い。

### ④ 文化活動

全体では 53 分 (男性 64 分、女性 41 分)、独居では 18 分 (男性 36 分、女性 0 分)、夫婦のみでは 87 分 (男性 92 分、女性 82 分) であり、独居世帯で短い。

### ⑤ 趣味活動

全体では 96 分 (男性 90 分、女性 101 分)、独居では 46 分 (男性 80 分、女性 12 分)、夫婦のみでは 145 分 (男性 100 分、女性 190 分) であり、2015 年における 70 歳以上男性 85 分、70 歳以上女性 64 分<sup>4)</sup> に比べると、独居女性が著しく短い、ほかは長い。

### ⑥ コミュニケーション

全体では 37 分 (男性 17 分、女性 56 分)、独居では 30 分 (男性 10 分、女性 50 分)、夫婦のみでは 43 分 (男性 24 分、女性 62 分) であり、2015 年における 70 歳以上男性 15 分、70 歳以上女性 20 分<sup>4)</sup> に比べると、いずれの世帯も男女ともに長い。

## (3) 生活行動 (GPS) 調査

生活圏について、全体では並木 1~3 丁目内 10 名、金沢区・市内・市外 10 名、独居では並木 1~3 丁目内 7 名、金沢区・市内・市外 3 名、夫婦のみでは、並木 1~3 丁目 3 名、金沢区・市内・市外 7 名であり、独居と比較し、夫婦のみでは、生活圏が広い者が多くなっていた。

並木 1~3 丁目内に生活圏のある 10 名についてみると、①自宅より 500m 以内 (3 名)、②自宅より 1km 未満 (2 名)、③自宅より 1km 以上 (4 名) の大きく 3 グループに分けられた (1 名は GPS 測定できず)。

表8 対象者の生活行動

単位：分

調査項目	全体			独居			夫婦		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
睡眠(夜/昼含む)	470	490	450	499	506	492	441	474	408
睡眠以外の休息(のんびり/ぼんやり含む)	42	21	62	60	30	90	23	12	34
生理 家庭または飲食店での食事	128	111	146	89	71	106	168	150	186
行動 清潔(洗面/着替え/入浴等)	40	23	58	41	22	60	40	23	56
医療(受診/内服/ケガの手当等)・介護	13	2	24	24	0	48	2	3	0
<b>小計</b>	<b>693</b>	<b>646</b>	<b>740</b>	<b>713</b>	<b>629</b>	<b>796</b>	<b>673</b>	<b>662</b>	<b>684</b>
メディア テレビ/ラジオ	323	375	270	372	444	300	273	306	240
読書(新聞/雑誌/カタログ含む)	31	33	29	25	22	28	37	44	30
インターネット	33	61	5	12	24	0	54	98	10
CD・テープ・ビデオ・DVD観賞	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>小計</b>	<b>387</b>	<b>469</b>	<b>304</b>	<b>409</b>	<b>490</b>	<b>328</b>	<b>364</b>	<b>448</b>	<b>280</b>
消費 買物	57	55	59	85	84	86	29	26	32
理・美容院/マッサージ等	8	16	0	0	0	0	16	32	0
他(クリーニング/移動/清掃等)	67	73	61	43	63	22	91	82	100
<b>小計</b>	<b>132</b>	<b>144</b>	<b>120</b>	<b>128</b>	<b>147</b>	<b>108</b>	<b>136</b>	<b>140</b>	<b>132</b>
家事 食事の支度/片付	68	51	84	78	66	90	57	36	78
家屋内外の掃除	20	7	32	23	12	34	16	2	30
洗濯/アイロンがけ/衣類の繕い等	21	0	42	22	0	44	20	0	40
庭仕事/ガーデニング	1	1	0	0	0	0	1	2	0
他(ペットの世話/家計簿管理/家屋修繕等)	13	15	10	8	4	12	17	26	8
<b>小計</b>	<b>121</b>	<b>74</b>	<b>168</b>	<b>131</b>	<b>82</b>	<b>180</b>	<b>111</b>	<b>66</b>	<b>156</b>
勤務(勤務先での食事・休息/残業含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通勤/移動	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>小計</b>	<b>0</b>								
趣味 スポーツ観戦/舞台・美術・映画鑑賞等	16	16	15	0	0	0	31	32	30
ハイキング/つり/登山	7	14	0	0	0	0	14	28	0
散歩/体操/スポーツ	29	33	25	13	26	0	45	40	50
屋内活動(手芸/彫刻/絵/囲碁/楽器等)	44	27	61	33	54	12	55	0	110
他	2	3	0	0	0	0	3	6	0
<b>小計</b>	<b>96</b>	<b>90</b>	<b>101</b>	<b>46</b>	<b>80</b>	<b>12</b>	<b>145</b>	<b>100</b>	<b>190</b>
文化活動 講演会/講習会/稽古	0	0	0	0	0	0	0	0	0
読書/執筆/学習等	10	19	0	17	34	0	2	4	0
自治会/市民活動/宗教団体での活動	30	21	39	1	2	0	59	40	78
親族での活動(法事等含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他	13	24	2	0	0	0	26	48	4
<b>小計</b>	<b>53</b>	<b>64</b>	<b>41</b>	<b>18</b>	<b>36</b>	<b>0</b>	<b>87</b>	<b>92</b>	<b>82</b>
コミュニケーション 家族との会話	0	0	0	0	0	0	0	0	0
友人・知人との会話/パーティ/宴会	32	14	49	20	4	36	43	24	62
電話	3	3	3	6	6	6	0	0	0
メール/ライン/チャット	2	0	4	4	0	8	0	0	0
手紙を書く	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>小計</b>	<b>37</b>	<b>17</b>	<b>56</b>	<b>30</b>	<b>10</b>	<b>50</b>	<b>43</b>	<b>24</b>	<b>62</b>
他者の世話 親の世話(介護/相談含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
配偶者の世話	0	0	0	0	0	0	0	0	0
息子・娘の世話(介護/相談含む)	3	6	0	6	12	0	0	0	0
孫の世話(宿題の手伝い/送迎/受診含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の者の世話	7	0	13	0	0	0	13	0	26
<b>小計</b>	<b>10</b>	<b>6</b>	<b>13</b>	<b>6</b>	<b>12</b>	<b>0</b>	<b>13</b>	<b>0</b>	<b>26</b>
本調査協力 空欄	13	17	8	10	20	0	15	14	16
	32	18	46	39	32	46	25	4	46
<b>合計時間</b>	<b>1,571</b>	<b>1,544</b>	<b>1,597</b>	<b>1,529</b>	<b>1,538</b>	<b>1,520</b>	<b>1,612</b>	<b>1,550</b>	<b>1,674</b>

### 3. 地域ニーズ調査Ⅲ（プライマリーインフォーマントインタビュー）

一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯の社会的孤立予防にむけた仕組み（地域における集いの場における立寄コミュニケーションプログラム：仮称）の開発のため、地域で生活する対象における交流の様相を記述することを目的とした。

#### 1) 対象（プライマリーインフォーマント）

並木二、三丁目における一人暮らし高齢者世帯（平成27年総数：327世帯）10世帯10人  
夫婦のみ高齢者世帯（平成27年総数：903世帯）5世帯10人

対象者の自宅または富岡東地域ケアプラザ内の個室にて、インタビューを実施した。

#### 2) リサーチクエスト

「一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯における地域との関わり合いとはどのようなものか」

#### 3) インタビュー内容

- ・ 地域における交流について
- ・ 交流に関連した健康づくりについて
- ・ 交流に関連した地域づくりについて

#### 4) 分析

インタビューで得られた内容について、意味内容ごとにコード化し、コード内容を分類整理し、サブカテゴリ及びカテゴリを抽出した。

#### 5) 結果

##### (1) 対象者の概要（表9, 10）

調査に応じた対象者の概要は表9及び10のとおりである。年齢は、75歳～88歳、居住年数は、7年～35年、全10名中、8名に治療中の疾患があり、高血圧が最も多くなっていた。

表9 一人暮らし高齢者の概要

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
性	女	男	男	男	女	女	女	女	男	男
年齢	75	78	83	81	85	85	84	88	81	83
(居住年数)	(35)	(18)	(35)	(34)	(28)	(34)	(33)	(3)	(7)	(30)
治療中疾患	心疾患 筋・骨格障害	循環器・呼吸器疾患 筋・骨格障害	心疾患 筋・骨格障害	循環器疾患 がん 筋・骨格障害	循環器疾患	循環器疾患	腎疾患	循環器疾患 筋・骨格障害	筋・骨格障害	循環器疾患

表10 高齢夫婦のみ世帯の概要

	A		B		C		D		E	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
年齢(居住年数)	76(5)	71(5)	74(34)	72(34)	76(36)	76(36)	80(19)	78(19)	82(36)	76(36)
治療中疾患	脳卒中	高血圧	高血圧	心臓病 腎臓病	高血圧	高血圧 心臓病		高血圧	視覚障害	筋骨・ 関節疾患

##### (2) 一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯における地域との関わり合い（表11, 12）

一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯における地域との関わり合いの様相は、表11及び12のとおり世帯間において、一人暮らし世帯：「つながりが薄れる」「地域活動への責任感が薄れる」「周囲との距離が広がる」等のサブカテゴリ、夫婦のみ世帯：「役回りが地域とのつながりをもたらす」「間合いを保ってつきあう」「自治会組織の一員として孤立予防に取り組む」等のサブカテゴリにより表された。

表 11 都市部における一人暮らし世帯の地域との関わり合いの意味

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
<b>利便性と関係性の引き替え</b>		
	<b>合理的な住まいが老化とともに障壁となる</b>	
	場所がいい。目の前の坂道を上がっていけば、橋を渡ってスーパーの2階に入り、すぐ向かいが中学校で、管理組合がすぐで全て用は足る。歩けないので、バスがほとんどないですよ…バスがあったらいいかな。	
	マイクロバスみたいなのが出ていて、均一料金で乗れたらいいと思うぐらいバスがないですね。	
	<b>人びとの出入りにより地域の住人がわからなくなる</b>	
	全く知らない土地にきたので、本当に知り合いはいない。	
	顔が分かればあれなんでしょうけど、顔も分からないし、見たこともないので。引越したりする方も多いので、外国の方も見かけるんですよ。	
	<b>人付き合いのストレスからつながりが薄れる</b>	
	よくしてあげたのに、嘘ついて泥をひっかけられた。人と噂しないで自分主義がいい。	
	若い人とか外人が増えてきてわからない、自分がいいようにしたい。	
	<b>地域を支える活動への責任感が薄れる</b>	
	うちのほうは持ち回りなんです、もう順番、次のうちは決まっています。だから、みんなやることになっている。だから、こちらはちょっと大変。目立たないようにできるから、それならやりますよ。長年いると、何かやらざるを得なくなっちゃう。	
	自治会に入っている方が本当に少ないらしいんです。うちは入ったんですけども、全員が入っているわけではないので、前は自治会のバス旅行、じゃんじゃんあったんだけど、今は全然ないわね。なんでかね。	
	<b>地域のサポートを棄てる者を頼りにする</b>	
	住んでいる人たちも自治会とか管理組とか、僕もずっと若いころは役員をやったけど…。今やっている役員が声をかけてくれる。	
	毎日、掃除のおじさんの所までは歩いて行って、その歩くぐらい。この〇号棟と〇号棟の周りを一回りしておじさんのところへ行って、挨拶。〇〇さんという人がレジにいるときには、混んでいてもその人がいるレジへ行って一言二言(話をする)。	
	とてもいい方がここにはいらっしゃるんで、安心して頼んだりしてください。ずっと役員をやられている方だと思うんですけども、助かっています。	
<b>他者との相違に基づく調整</b>		
	<b>病氣や障害を負った身の上を嘆く</b>	
	健康な人がうらやましい、なんでこんな(病氣)になっちゃったんだろう。	
	40年乗っていた運転免許証を返納した、車を諦めた。外出もなくなる。	
	駅のエスカレーターか、エレベーターを造ってくればありがたい。脚の筋肉がなくなって、よたよたする。	
	この階の人で、見ていて身体弱ってきたなと思う人はいる、みんな歳とってきて、臆病にはなってるかも。	
	<b>暮らし方の蓄積によりニーズの多様化が広がる</b>	
	自治会や管理組合がコミュニケーションをやっている、カラオケ大会とか、ダンスパーティーとか、行くかもしれない	
	年代によっていろいろ活動が違っているし、興味のあることも違うので、高齢者だと(皆に合う活動は)なかなかないんです。	
	1人でいると、対話できる場所、簡単なお昼を食べながらおしゃべりができてとかいう場所が、月に1回、集まってしゃべれるとか、あったらいいな。	
	お餅つきときに、こんなにいらしたんだってびっくりしたぐらいなので、結構みんな出なかったり、出る時間が違って会わないのか。	
	<b>何らかの活動に参加したくても意義を見出せなくなる</b>	
	年とってきているから、億病にはなっているかもね。やりたい人もいるけど、やりたくない人が多いかな。	
	何があるというのは目は通して、そういう活動の方はなかなか参加できないのが現状です。	
	階段のお掃除なんかもみんな公団ですますでしょう。だから、やることもないし。	
	いろんな案内が回ってきて、「こういうのがある」「こういうのがある」…。だけど、ほとんど「これは行かない」、「これは行かない」みたいな。	
	<b>気後れから周囲との距離が広がっていく</b>	
	普段この近所に住む人でよく話をする人はあまりいない。古い人はみんな顔はだいたい知ってるけど、名前と顔が合わない。	
	(近所の人気軽に集まる場)面倒くさいと思っちゃうね、そんなところに行ってもプラスにはならねえだろう。	
	病氣になってから、行く暇ない。だから、忘年会やら新年会やらあるんだけど、最近行ってないわね。	
	月水金って透折に行くでしょう。それ以外にやれ火曜日だ木曜日は、洗濯があったり、だからあんまり行く暇がない。	
	<b>同じ立場の近隣者を心配する</b>	
	隣の奥さんに10日会ってない、炊事場から覗くと電気がついてるかわかるけど、10日もついてない、何かあったのかな。	
	ちょっと遠いところは車で連れていっています。本当にそういう人がいない人は大変だと思います。	
	この階の人で、同じ会に昔入っていたけど、今は全然来なくなって。見ていて、体弱ってきたなと思う人はいる。	
	車椅子にお人形さんを乗せて、そのお人形さんとしゃべっているの。大丈夫かな。	

表 12 都市部における高齢夫婦のみ世帯の地域との関わり合いの意味

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
<b>世帯の単位で成り立つ生活の営み</b>		
	<b>隣近所とは挨拶でつながりをもつ</b>	
	この階段の8軒はそれなりに1日に会わない場合もあるけれども、会えば、おはようございますとか。下の奥さんなんかはいつ会ったかしら。	
	月1回のお掃除で、「あら、お久しぶり。元気ですか」という感じね。隣、せいぜい上ぐらいはお願もしょっちゅう合わすことはありませんけど、上のほうの方はお勤めが多いし、そういう意味では特別何かというのではない	
	<b>近所の人を知らなくても不自由しない</b>	
	隣の階段なんかだと、1階の人なんかは顔見知りだからあれだけど、上のほうの階の人とは、分かりませんもんね。どんな人がいるかも分からなかったりしますよ。	
	この〇号棟は、うすうす分かるようになりましたけどね、この辺の関係はね。しかし、ほかの棟は全く分からないほかの棟は分からない。ほかの棟まで分からなくてもいいんじゃない？ 取りあえずここだけ、〇号棟だけ分かれば。	
	<b>お互いに顔見知り程度がちょうど良い</b>	
	声掛けはいいと思う、お互いに。いろんな人がいるから、人のことを言ったり、それがないようにやっていますけど。	
	顔を知っている、あるいは挨拶を返してお互いにやっているというだけでも、何となく親近感がありますからね。私はこの〇号棟の役員をやっていますので、〇号棟のほうにも時々顔を出したり掲示物を掲示板に貼りに行ったりしますから、そういうときには会いますね。	
	<b>何をしているかわからない住民がいる</b>	
	お祭りだとかそういうときに顔を合わせるじゃないですか。グラウンドゴルフをやるうよとかと言ってもなかなか。普段何をしているんだらうと思うよね。私と同じぐらいの年代の人がずつとごみ出しをしたり、見るんだけど。	
	ドアを閉めたら密室で、外からは何も見えないし声も聞こえないから分からないですよ。	
<b>自身の役割発揮や趣味の実現</b>		
	<b>地域に出るには後押しがいる</b>	
	最初が出づらいなと思う。だから、そこの最初のところのイントロを何とかすればいいんだらうけど。それがなかなか難しいなと思う。誘ってきた方がいると、やっぱり入りやすいですよ。たぶん自分から入るのは大変だと思う。	
	込み入ったことを何か立てて、楽しいことをしましょうというよりは、寒いときは体を動かさせませんか、みんな朝ラジオ体操6時半、早いけどやりませんかということまで声が掛かったら行くと思うのね。	
	<b>役回りが地域とのつながりをもたす</b>	
	役員というか、あるいはお世話というか、幾つかやると40人、50人と輪が広がっていくんだらうとは思いますが。	
	役員をした時に、各棟から1人ずつ出るんですよ。そういうときのお知り合いはできますけれど、特別に誰かとついでというのは。私の場合はここに入ったころから、子どものPTAでも一緒だったから、その方のお付き合いはありますが、人数は少ない。	
	<b>趣味やサークル活動を通して地域とつながる</b>	
	私なんかはこの中でサークル的なものがあるじゃないですか。茶道の仲間があるんですよ。そういうので、月1回は必ず顔を合わせますし。それを通して広がっていますね。	
	朝のラジオ体操なんかやっているんですけど、NHKの6時半から。あれに参加しているのは並木1丁目から3丁目まで、いろんなところから参加してくる。有志だけね。	
	<b>人付き合いは共通の話題がある</b>	
	男の場合は、ほんとに仕事を辞めたら、みんなそれぞれ同じ話題というのがあまりない	
	話題も全然、ここは年齢層も違うし、職場も違うでしょ。だからそういう意味での会話は、男性はちよつと難しい。	
<b>互いに干渉することへのためらい</b>		
	<b>気にかかるが深くは追及しない</b>	
	ちよつと閉じこもりというか。心配は心配なんですけどね、あまり立ち入ったことを聞くわけにいかんから。旦那とはしょっちゅう顔を合わせるけど。	
	歩いていっしやるのを見て、足の悪い方が多いというのは感じるけど。	
	<b>間合いを保って付き合う</b>	
	相手しだいで、柔軟にこっちは対応する。積極的に行くと嫌われる場合もあるし、そのへんの呼吸は難しいです。	
	ほかの地域の人たちとたまに食事したりお茶を飲んだりするときにいろいろ話すのは、あんまりそういうのに入ってこられても困るという方もいることは事実ですね。全員が全員、うちみたいな開放的なことではないのは事実です。	
	<b>相手のたのみに応じて助ける</b>	
	体調が悪くなったからお買い物を手伝ったことはありますよ。ごみ出しを1回か2回か手伝ったことはあるかな。でも、その後はべつに依頼がない。	
	困ってそうだなという表情というか、向こうがシグナルを送ってくれば、お手伝いしましょうとかある。	
	<b>近隣には生活を明かしたくない</b>	
	何か助けが必要となったときに、ほかの方に「ちよつと頼んでもいい？」とかお声を掛けたりすることはないと思う。ご近所の方というよりは娘に。	
	ボランティアグループがあるから、〇〇さんたちがやっている。ちよつと相談してみるとか。あるいは行政に相談してみるとか、ありますね。	
<b>組織の一員としての地域への参画</b>		
	<b>自治会組織の一員として孤立予防に取り組む</b>	
	自治会としての助け合いはあると思います。今年役員として検討しなきゃいかんのですけど、孤独死についてです。	
	全棟で大体、全員じゃないけれども、老人会の人たちがおりますので、その人たちに声を掛けて、隣近所の人はどうですかというかたちで活性化のことをやっております。	
	<b>担い手の世代交代に課題を感じる</b>	
	今、役員をやる人が少なくて、年中同じ人になっちゃうんですよ。若い人はあまり入ってこないからね。だから、同じ人になる。	
	会社の役職だったらどンドン受けるだらうけど、こういう地域においてボランティア関係の役を受けるというのはなかなか難しいのが現実だと思う。そこをどうやって引き出していかというのがこれからの課題かなと思って	

## 4. 地域ニーズ調査Ⅳ（キーインフォーマントインタビュー）

### 1) 目的

誰もが気軽に立ち寄り、交流することができるモデルプログラム「ふらっとスペースなみき」：仮称の開発のため、当該地域で生活する一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯住民に関わりの深い支援者から地域事業に関する示唆を得ることを目的とした。

### 2) 対象（キーインフォーマント）

並木二、三丁目における一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯住民に関わりの深い支援者、専門職等

### 3) 方法

富岡東地域ケアプラザ内の個室等にて、インタビューを実施した。

#### (1) インタビュー内容

- ・ 地域ニーズ調査Ⅲ（PIインタビュー）の結果に関する意見等
- ・ 当該地域の一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯と近隣・地域との関係性や交流にはどのような課題があるか、どのような方策が有用か
- ・ ‘ふらっとスペースなみき’を展開するにあたり、留意すべき事柄（②対象、③目的、④方法、場、内容、その他）にはどのようなことがあるか

#### (2) 分析

##### ① アイディアの抽出

第一段階として、インタビューで得られた内容について、グループで語りの内容をコード化し、コード内容について、WHO-QOL100の5領域（Ⅰ身体的状態、Ⅱ心理的機能、Ⅲ自立レベル、Ⅳ他者との関係、Ⅴ環境）ならびにSpradleyの9つの意味関係（種類、一部、原因、理由、場所、作用、方法、段階、特徴）を用いて分類整理し、サブカテゴリ、カテゴリ、およびそれらに基づく事業化に向けたアイディアを抽出した。

##### ② プログラムの検討

第二段階として、第一段階で抽出された内容に基づき、事業化の枠組、対象、目的、方法、プログラム案（コンセプト、留意点、場所）を検討した。

### 4) 結果

#### (1) 対象者の概要（表13）

調査に応じた対象者の概要は表13のとおりであり、女性9名、男性1名、実務経験3～27年などとなっていた。

表13 対象者一覧

ID	性	実務年数	所属機関／職種
1	女性	27	シーサイドタウン民生委員
2	男性	11	シーサイドタウン連合副会長
3	女性	16	シーサイドタウン地区社協
4	女性	2	
5	女性	6	シーサイドタウン民生委員
6	女性	12	
7	女性	5	ロバの会／民生委員
8	女性	5	ロバの会
9	女性	20	区高齢障害支援課／CW
10	女性	3	区高齢障害支援課／保健師

(2) 第一段階(アイディアの抽出)高齢者世帯と地域との関係性及び事業アイディア(表 14-20) 一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯と近隣・地域との関係性や交流における様相および事業アイディアは、表 14~20 のとおりとなった。

表 14 都市部における高齢のみ世帯における様相(原因)と事業化のアイディア〔第一段階〕

No.	QOL 領域	インタビュー		カテゴリ	カテゴリに基づく事業化の アイディア
		サブカテゴリ			
1	I		足腰が弱くなったのは加齢のためと認識している	加齢に伴う疾患や症状、体力の低下によって身体的にも精神的にも活動することが難しいと認識している	身体機能が低下しても参加したくなる魅力ある活動が必要【目的】 【方法】
2	I, II		加齢に伴う疾患や症状により思うように動けない・歩けない		
3	I, II		加齢による体力(筋力)の低下により日常生活動作が難しいと感じている	地域活動の少なさによる交流のなさ	行き慣れた場所に集まる場を設けるのはどうか【場】
4	II		高齢者が互いに会う企画がないのは交流を減少させる原因である		
5	II		加齢による疾患や症状により気力が低下している	体力の低下や移動手段が限られていることから、移動に制限がある	役割を担ってもらいきっかけ作りが必要。【目的】
6	III		地域でボランティアとして役を担う人が少ないことが地域活動参加が少ない原因である		高齢化・体力低下に関する知識が得られることを目的とした内容があれば【目的】
7	IV		地形が厳しく移動手段(免許証の返納・バス便・鉄道)が少ないため、移動に制約がある	高齢化で交流の機会が減り、活動を企画するボランティアも少ない	
8	IV		高齢化による体力低下によって、住棟階段や高低差が怖い		
9	IV		地域全体の高齢化は繋がりが減る原因である		

\*QOL領域は、WHO-QOL100の5つの領域(I 身体的状態、II 心理的機能、III 自立レベル、IV 他者との関係、V 環境)のいずれかを示す

表 15 都市部における高齢のみ世帯における様相(場所)と事業化のアイディア〔第一段階〕

No.	QOL 領域	インタビュー		カテゴリ	カテゴリに基づく事業化の アイディア
		サブカテゴリ			
1	I		イオンは日常の買い物をする場所である	イオンは買い物や人との交流の場であり、生活する上では重要な場所である	相談機能をもたせた多機能なふらっとよれる場所【場】
2	II		歌のサロンが付き合いの機会である		
3	III		イオンは人との交流の場の一部である	目的なくてもふらっといける場所があるとよい	講座や趣味等の目的を明確にした場所【場】
4	III		地域行事は地域との接点を持つ場所である	街区や集会所に交流単位や場所が限られがちである	買ったものを持ち寄って一緒にご飯を食べる。【方法】
5	III		プールは交流を広げる場所である		
6	III		スポーツセンターは交流のきっかけとなる場所である	地縁のもとづき、楽しみを共有する目的のある集まり	若い学生などが話し相手になる。【方法】
7	III		街区が交流の単位(場)である		街区での繋がりと街区を超えた繋がりとあるとよい【方法】
8	IV		集会所は地域の交流の場所である		
9	IV		社会的に交流する場や機会が減ってきている		
10	IV		街区単位の自治会イベント(夏祭り・音楽祭・もちつき大会)は地域住民の集う機会である		
11	IV		街区単位の自治会、老人会やグランドゴルフ、麻雀は高齢者が集う機会である		
12	IV		老人会は高齢者の集いの場である		
13	IV		イオン(と周辺の店舗)は生活にとって重要な場所(買い物だけでなく、交流や刺激等)である		

\*QOL領域は、WHO-QOL100の5つの領域(I 身体的状態、II 心理的機能、III 自立レベル、IV 他者との関係、V 環境)のいずれかを示す

表 16 都市部における高齢のみ世帯における様相（理由）と事業化のアイデア〔第一段階〕

No.	QOL 領域	インタビュー		カテゴリ	カテゴリに基づく事業化の アイデア
		サブカテゴリ			
1	I		歩ける移動能力は自立した生活に重要(生活を成り立たせるもの)である	集まりに参加したいと思うには本人の役割や顔見知りがあるということ	多世代交流を前面に出さない、自然と交流ができるテーマをしかけたプログラム【目的】【方法】
2	I		地域での交流活動(老人会・スポーツセンター)に参加できない理由は定期的通院のためである。		
3	I		地域の自治会活動に関われないのは加齢のためと認識している	性差・世代差があるとわからないから付き合いにくい	初回参加者が馴染めるような仕掛け。【方法】
4	I		体力やスキルの衰えにより行動範囲が狭まる	居住環境の不具合が地域活動を阻害する	仕事などの自身の得意分野などの役割が発揮できる内容が良いのでは？ (就労の可能性など)【目的】
5	II		顔見知りであることは助け合う動機(理由)である		
6	II		加齢や体力低下で気持ちだけでは行動できないから、助けを求められれば出来る範囲で助ける		
7	II		人には辛い時期もあることを配慮して、誘いかけるべきである		負担にならない主体的な役割・関わりを考えてもらう【方法】【媒体】
8	II		地域の中で関わり合い助け合うのがよいため、集まりに参加する		初回参加者やなじみにくそうな人へ、民生委員やケアプラザ職員などの専門職でも良いので声をかけて媒介になる【方法】【媒体】
9	II		以前の自身の状態と比較した、体力や認知機能の低下を地域活動に臆病になる理由と認識している		
10	II		余計なことをして、迷惑と思われたくないから、相手に踏み込まない		
11	II		価値観は成育歴に影響されるから、人を手伝うことに抵抗感はない		日頃のコミュニケーションをとれるような工夫が必要ではないか(多世代)【目的】
12	II		人が集まる場所に参加したくないのは、噂話や悪口が多いことが理由である。		
13	II		地域の助け合いが少ないのは、世代間の考え方の違いが理由である		健康・情報交換できる場があると良い【目的】
14	III		挨拶したり交流するために集まりの機会がないことが友人が欲しいと思っても交流できない理由である		クイズなど楽しい内容を入れる(チームに分けてチームの名前を参加者が決める、誰でも気兼ねなく会話に参加できるようテーマなどは配慮する例:出身地や飼っているペット、孫の話…)【方法】
15	III		自分の身体が弱ってきたので、人を助けられないと考えている		
16	III		加齢が活動や参加をあきらめる理由となる		
17	III		自治会団体の役についていないので声かけを積極的に行う		
18	III		関わり方が難しいから仲間づくりがうまくいかない		
19	III		気を遣うため集まりには参加したくないと考えている		
20	III		定期的な掃除や日頃顔合わせることから、同じ棟の人とはつながる		
21	III		役割があるから集まりに参加する		
22	III		気にかけてくれる人がいるから、また集まりに参加したいと思う		
23	III		多様な人がいるため、人に応じて関わり方も変えていく		
24	IV		病気や受診は地域行事や地域活動に参加できなくなる理由である		
25	IV		趣味に集中し始めると、地域活動の参加が減ってしまう		
26	IV		健康面でのしかけは活動参加を促進する理由である		
27	IV		移動手段の種類であるバスの不便さが高齢者の負担となり行動範囲を狭めると認識している		
28	IV		歳も仕事も違うと男性と一緒に活動することが難しい		
29	IV		元気でいたいから活動に参加する		
30	IV		たまり場がないから近隣と付き合い合う機会がない		

\*QOL領域は、WHO-QOL100の5つの領域(I身体的状態、II心理的機能、III自立レベル、IV他者との関係、V環境)のいずれかを示す

表 17 都市部における高齢のみ世帯における様相（作用）と事業化のアイデア〔第一段階〕

No.	QOL 領域	インタビュー		カテゴリに基づく事業化の アイデア
		サブカテゴリ	カテゴリ	
1	I	趣味や楽しみから活力がもたらされる	趣味や役割があることで、前向きな生活を送ることができる	趣味やこれまでの経験を生かした内容ができるよう、多彩なプログラムが必要なのでは(習い事の先生役など)【目的】
2	II	顔見知りかどうかで何か出助けたいという気持ちに作用する	子と孫の存在がいきがい	
3	II	仕事や役割があることは、人生を前向きに考えることに作用する	顔見知りとなら関わりやすい	子世代、孫世代と共に参加できるプログラムを計画するのはどうか【対象】【目的】
4	II	趣味の活動により気持ちが満たされる	互いに知り合っていることが助け合いや交流に影響する	
5	II	子供や孫の存在が高齢者の生きがいに作用する		顔見知り顔見知りをつれてくる【媒体】【方法】
6	II	友人の声かけが高齢者の意欲に作用する		
7	III	顔見知りの程度は挨拶するかどうかで作用する		サービスを受け手ではなく提供する側になる【目的】
8	III	顔見知りなら頼りになり手助けする		
9	III	自治会役員であることが助けることを作用する		
10	III	ボランティアや専門性を「教える」ことにより人間関係が始まる		
11	III	子どもや孫との関りが生活の張り合いに作用する		
12	III	地域の街区の集まりである		
13	IV	何かしらの活動をするとは、地域での繋がりに作用する		
14	IV	肉体の衰えが生活に影響する		
15	IV	高齢者バスの保有は外出先と頻度に影響する		

\*QOL領域は、WHO-QOL100の5つの領域（I 身体的状態、II 心理的機能、III 自立レベル、IV 他者との関係、V 環境）のいずれかを示す

表 18 都市部における高齢のみ世帯における様相（段階）と事業化のアイデア〔第一段階〕

No.	QOL 領域	インタビュー		カテゴリに基づく事業化の アイデア
		サブカテゴリ	カテゴリ	
1	I, III	緊急時が近隣の人を頼る段階と認識している	独居により、寂しさ・不安を感じる	一人暮らし・ハイリスクになる前の段階からアプローチする【方法】
2	II	自治会役員はできないが、住民としてできることはしようという意識変化の段階である	人生経験を活かし思考が前向きになると周囲に目が向き地域とかかわりたいと思える	一人暮らしマップを地域や自治会で作成し共有する【方法】
3	II	歩行に危険が生じ認知に障害が生じ始めた場合、他人に頼る段階である		
4	II	思考を前向きにし、行動変容を見せることは、高齢者の意識・思考の変化の段階である	近隣の役に立ちたいことは互助の段階	人生経験で得たことを話したり、教えたりする場を作る。【目的】【方法】
5	II	人生経験を活かし、周囲と関わりたいと思うことは高齢者の意識の変化の段階である	元気なうちから地域や公的機関とつながるのが基本	
6	II	1人の今後の生活を案じ管理事務所に緊急連絡先を登録する		
7	III	独居になることが寂しさに気づく(近隣との立ち話に反応する)きっかけになる		
8	III	先回りすることはないが困っているシグナルが相手から見えることが手伝いを申し出る段階である		
9	III	地域や公的機関との繋がりは高齢化の際に踏むべき段階である		
10	IV	自分の外出・交流意欲や機会が減ってきているのは、体力変化や環境の変化の段階である		
11	IV	足腰弱くなると交通の便が頼りになる		
12	IV	地域のニーズを汲み町内活動を活発にする		

\*QOL領域は、WHO-QOL100の5つの領域（I 身体的状態、II 心理的機能、III 自立レベル、IV 他者との関係、V 環境）のいずれかを示す

表 19 都市部における高齢のみ世帯における様相（方法）と事業化のアイデア〔第一段階〕

No.	QOL 領域	インタビュー		カテゴリに基づく事業化の アイデア
		サブカテゴリ	カテゴリ	
1	I	主にテレビから情報を収集する	移動方法が多様	移動手段のサポートが必要【方法】
2	I	移動手段を用いて出かける	人間関係を作るには役割や趣味などの理由が必要	手軽な貸出セットを多数用意する(携帯オセロセット、囲碁の碁石等)【媒体】
3	I	家族は移動能力を補う外出のサポート役である	バリアフリーの環境やテレビは生活をサポートする方法である	運動系やコグニサイズ等講師を招いたり、筋力など数値化する器具を使用してはどうか【方法】
4	I	自身の今後は懸念し、手すりを持つ等日常生活に気を付ける	近所の人の様子を気に掛けること、声掛けすることが地域活動のつながりや活性化する方法である	運動系やコグニサイズ等講師を招いたり、筋力など数値化する器具を使用してはどうか【方法】
5	I	体調変化の際や体調管理のために病院を利用する	近所の人の様子を気に掛けること、声掛けすることが地域活動のつながりや活性化する方法である	趣味やこれまでの経験を生かした内容ができるよう、多彩なプログラムが必要なのでは(習い事の先生役など)【目的】
6	I, II	健康を維持するために体調管理をする	近居の家族の力も必要である	目的・テーマがはっきりしている。【方法】
7	II	交通が不便なため自転車で移動する	趣味や役割を担うことが交流のきっかけとなる	目的・テーマがはっきりしている。【方法】
8	II	地域の目が認知症の方をサポートし、安全を守る	世代を超えて関わり合うことで地域の活性化につながる	若い世代(現役世代)が活動するための工夫【対象】【方法】
9	III	若い人の力は今後の地域活動の発展の方法である		
10	III	地縁活動で人間関係を培う		
11	III	趣味・娯楽で人間関係を培う		
12	III	認知症の人がいたら隠さないでほしいと声をかける		
13	III	挨拶や話はせずとも近所の人の様子を気に掛けることは地域とのつながりを持つ方法である		
14	III	近所の人への声掛けは高齢者の地域活動の参加を促し地域を活性化するための方法である		
15	III	相手の受け入れられる範囲を見極めることは近所での助け合いの方法である		
16	IV	移動手段はシーサイドラインである		
17	IV	移動手段は家族の運転する車である		
18	IV	移動手段は徒歩や自転車である		
19	IV	健康が交流や参加を保つ手段である		
20	IV	配達サービス・移動販売は生活のために必要なサービスである		
21	IV	歩行を支援する器具(三輪車・カート・つえ等)が外出機会を増やす		

\*QOL領域は、WHO-QOL100の5つの領域(I身体的状態、II心理的機能、III自立レベル、IV他者との関係、V環境)のいずれかを示す

表 20 都市部における高齢のみ世帯における様相（特徴）と事業化のアイデア〔第一段階〕

No.	QOL 領域	インタビュー		カテゴリー	カテゴリーに基づく事業化の アイデア
		サブカテゴリー			
1	I	日々の生活スタイルはだいたい決まっている		緊急時や日頃の地域の助け合 いは大事だと思っているが、実際 の地域との関わり方はさほど積極 的でない	この地区の将来に必要な関係性 を見極めて、新たな関係をつくつ たり、つなぎ直したりするための 動機(価値)付け
2	I	病気や障害と付き合いながら生活する			
3	I	様々な疾患や症状があるのは高齢者の特徴である		縛りの強過ぎないマイペースに できる付き合いの需要	棟内外で互いに緩く繋がり、気軽 に(出入り自由に)、一緒に過ご せるような機会づくり
4	II	一人でマイペースに行うことができる活動をする			
5	II	声をかけられること、手伝いされることに、肯定的感情も 否定的感情もある		互いに繋がり集まる機会や場、活 動が限られ、親密な関係になら なくとも、生活をしていくのに別に 困らない。	気楽にふらつと立ち寄れる場所と 趣味等の目的機能の双方を含め た多機能を有する場所【場所】 【方法】
6	II	声をかけて気には止めるが遠慮も生じるのは近所付き合 いの特徴である			
7	II	緊急時以外、自分から人に頼みにくいが、支援を受ける ことに対しては、受け入れることができる		自分のペースで活動や関わりを 持ちたいと考えている	
8	II	積極的なかわりを避ける傾向にあるが、何かあれば助 け合う			
9	II	地域の今後が不安になるが、どうすべきかわからない		できるだけ他人の世話にならず に生活を送りたいと感じている。	
10	II	できるだけ他人の世話にならずに自分で処理したい		地域での活動に負担を感じる住 民層が多く、担い手が不足して いる	
11	II	高齢になると自分の気持ちに正直にマイペースになる			
12	III	担い手の不足がある			
13	III	会合や集まる機会以外では立ち話にはならない			
14	III	棟外の人とは交流がなく様子がわからない			
15	III	女性と違って男性は人付き合いに入りづらい			
16	III	自治会がつながりづくりをやってくれる			
17	III	近隣が困っていたら助ける関係性は保たれている			
18	III	地域の現状に関して認知していない			
19	III	互いに顔がわからなくても生活できるのはこの団地の特 徴である			
20	III	互いの生活の気配を察知しながら、見守りを行う			
21	IV	昔と違って町内活動が薄れてしまった			
22	IV	地域行事や活動参加者は多いと感じている			
23	IV	この地区の住民は健康に対する意識が高い			
24	IV	自治会としての助け合いのルールはあり整備している			
25	IV	一般的にはこの地域は利便性のよいところである			
26	IV	長年同じ棟で暮らしていても親密な関係にはならない			
27	IV	困ったときはこどもに頼る			
28	IV	住民の地域への意識や生活マナーが低下してきている			

\* QOL領域は、WHO-QOL100の5つの領域（I 身体的状態、II 心理的機能、III 自立レベル、IV他者との関係、V環境）のいずれかを示す

(3) 第二段階 (3 グループのグループディスカッションによるプログラムの検討)

表 21 グループ I

1. 課題

1) 空間利用の難しさ

- ・(イオンの) エレベーター下のスペース、自由感が無くなった
- ・特にやる事が無く自由にいるスペースが少ない
- ・3丁目にもほのぼの(サロン)のような場所が必要と感じていた
- ・集会所の利用法もあって街区を超えた利用がしにくい
- ・サロンを開いているが、(スポーツセンター内という)場所がら、専らスポーツをやっている方の休憩場所になっている
- ・まちの中でのアクセス性と集いやすさのバランスの欠如

2) 住民同士の交流機会・意識の乏しさ

- ・女性も地縁団体に参加する顔ぶれは決まっている
- ・近所に住んでいる人との認識はあっても、どこの誰かというのは分からない
- ・悪循環で、挨拶はしてもかかわりがないから挨拶だけの関係にどんどんなっていく
- ・ベンチに座っているが話してない人が多い
- ・近所づきあいの度合いには認識の相違がある

3) 団地特有の課題

- ・団地の特性上、繋がり辛い部分がある
- ・地区内の助け合いの話の時、同街区の人には助けてもらうのは嫌だとの考えが多かった
- ・街区意識が強く、横のつながりが少ない、また対抗意識がある部分もある

4) 地域奉仕力への衰弱と消極的な地区組織との関わり

- ・ボランティア自体をやめる人が減っている(ボランティアに行く時間があればパートに行く)
- ・自治会加入率が低い
- ・町内会や自治会には負担にしか感じられない、役に立てないので入らないとの意見がある
- ・地域に若い人が(60~70代)出てこない

5) 自身の興味・関心が限定的

- ・老人会はあるが、入っていない人が多い
- ・事業型イベントは人を選ぶ
- ・理由をつけて、自分の好きな事以外では外に全く出ない

6) 情報周知の難しさ

- ・地域サロン等頑張っている人がいても行っている事を知らない人が多い(情報が回らない)

7) 男性との関わり方の難しさ

- ・男性がなかなか出てこない。まだ大丈夫という思いが強くそのうちに出られなくなる
- ・男同士だと話が繋がらないから男だけの集まりは嫌だ
- ・女性に圧倒されることが多い為、男なら男だけの集まりを作って欲しい
- ・プライドの張り合いがひそかにあり、「常務だ、部長だ」と心の中でなってしまう
- ・男性はプライドがあり、助けてくれが言えない人が多い
- ・何事も抱え込んでしまう男性が多い(介護者問題が心配)

8) 家族や周囲の認識・理解の難しさ

- ・家族に外に出るなど言われている方も多い

2. 対象

1) 健康上の課題を抱えている人

- ・家族に外に出るなど言われていて、出ない人(出られない人)
- ・透析をしている人(すごく多い)
- ・老々介護や8050世帯等世帯での課題を抱える人
- ・ある程度健康でないと外に出るのが難しい

2) 外出意欲がない人

- ・外に出る事自体がおっくうになっている方(健康上の課題もあるかもしれない)

3) 活躍できるけどその場を持たない人

- ・良いところに勤めていた方が多いがそういう人程対象とするべき
- ・これだけの人口があれば、様々な技術、特技を持っている方もいるだろう

表 21 グループ I (つづき)

- 
- 4) 目的がなくても来る人
    - ・自由に座れる所に来ていた
  - 5) ケアの押し付けが嫌な人
    - ・何か測っているとかは嫌、脳トレ等も抵抗がある方が多い
  - 6) 役割がないと来ない人
  - 7) 役割が負担で来ない人
  - 8) 何かとつながっていれば(介護サービス等)それ以上は関わらなくてよいと思っている人
  - 9) 他者や地域と関われない男性
  - 10) これからのキーとなる 50~60 代世帯
  - 11) 把握できない人
    - ・名前は分かっているでも出て来てくれないと顔が分からずに対応できない
    - ・遮光カーテンをつけている家が多く、外から電気で居るいないを判断できない
    - ・困っている人からの発信が無い為、どうしようもない
  - 12) 一人暮らしの人
    - ・一人暮らしの方は回りに繋がらず入院等されると分からない
  - 13) 3丁目の住民層
    - ・OK に来た 3丁目の住人から、ほのぼのを 3丁目にも欲しいと言われた
    - ・3丁目 18 街区が遠いし情報が少ないので気になる
    - ・独居高齢者が 3-18 は多い。金銭的なものもあって
  - 14) 見えにくい家族や親族
    - ・高齢者等に外に出るなどと言う家族
    - ・老々介護や 8050 世帯において介護を担う人
    - ・家族に行動を抑えられ外へも出られない(安全配慮の為)
    - ・家族がいない方がつながる場合も多くある
    - ・家族が問題を発信しない。
    - ・児童虐待に見えるケースも多くその方々も対象とする
3. 目的
- 1) 明確な目的をもつ
    - ・話し合い手がいるから行く
    - ・自分にやれることがある、やらなきゃいけない事があるから行く
    - ・誰か知り合いを作りたいと出てくる(同じ境遇の人を探す)
    - ・あの人がいるからと人を選んで、その人と話したいからと出てくる
    - ・身近な地域での助け合いを目指してサロンを始めた
    - ・とにかく自分の話をしたいだけの方も多
  - 2) 明確な目的はなく何かのついでに寄れる(テリトリー内、行動パターンの中にある)
    - ・出てこなくちゃいけない何かに付属していると目的があり、出てきやすい
    - ・会合・買い物ついで等に、ふらっと入れる所が理想
  - 3) ふらっと目的
    - ・何もやっていない場に行きたい(誰かがいるとむしろ行きづらい)
4. 方法等
- 1) 地域のキーパーソンをおく
    - ・顔の広い人がいると良い
    - ・多少の強引さ、無理にでも誘う人が必要
    - ・情報好き、世話好きな方に協力を依頼する
    - ・地域の方で「やろうよやろうよ」という先導役が必要
    - ・情報好きや世話好きな方を上手く参加に導きたい 方法
    - ・一定の方がいることが望ましい(民生の日・地区社協の日・ケアプラの日など)
  - 2) 生活に直結したものの場にスペースを構える
  - 3) 目的がなくても来れる、でも測定等の目的も作る
    - ・やることがあれば来てくれる。ただ寄れるだけの場所は来づらいかも
  - 4) ケアが前面に出すぎるとよくないのでは…(周りから見た場合のことを考えて)
    - ・話の流れから相談に繋げるなどの方法をとる
-

表 21 グループ I (つづき)

- 
- 5) 入りやすい設えにする
- ・ドアを開けて入るのは抵抗がある、何をやっているか見えた方が良い
- 6) 役割をもってもら層をつくる
- ・入会後にすぐ役に付けてもらうなど、役割を持ってもらう
  - ・役割を与えることでしょうがなくでも行ってもらう
  - ・役員になることでいやいやながらやっているが、楽しさに気が付いてやる事が多い
  - ・特技を生かせる場とする
  - ・特技を生かした企画づくりをしていくことが重要
- 7) 他組織との連携
- ・幼稚園や保育園などの地域の組織も巻き込む
  - ・新聞屋さんなども積極的に連携をとっていく
  - ・産業地帯が近いので地域資源を上手く活用する
- 8) 情報の拠点
- ・情報があつまる場にしておく
  - ・チラシ等の情報を出すことで多くの方が立ち止まり、寄ってくれる事につながる
  - ・並木は情報を回すのが大変だから周知等をしっかりする。
  - ・人が集まる場所でひらく事で宣伝効果も交じって良いのではないか
- 9) 継続できる仕組みづくり
- ・スタンプラリーなど続けて来てもらう工夫をする
  - ・誰も来なくてもコツコツと続けていくことが大事。出来るだけ人の入れ替わり少なく
- 10) 通う手段
- ・タクシー券を持っている人は来る(手段があれば来る)
  - ・待つのではなくこちらから行くといった視点もありか
- 11) 食事の要素を含める
- ・バイキング形式で、好きなものがあれば取って食べたい人は食べられるような場
- 12) 防災テーマ (缶詰バー)
- 13) 様々な人の流れがある
- ・男だけ・女だけの会はどちらも躊躇する
- 14) 男性を引き出すには、妻がチラシを見て旦那に声をかけると言うことが多い
5. プログラム案の検討
- 1) コンセプト
- ・目的があって出てきたい方、何も無いところに出てきたい方、双方に叶う (日替わりメニュー)
  - ・アクセスバリアの分散  
こちらから出向くアプローチ型 (移動車、やどかり型展開 (薬局での展開、ビアレ、公園))
  - ・多くの人の目にとまる場の見える化
  - ・様々な層 (ニーズ・趣味・興味) に対応できるメニュー展開  
：趣味 (本、写真、映画上映、寄席、能、尺八、囲碁)  
：食事 (フードカー、コーヒー、紅茶、お茶、昔ながらの給食、栄養バランス食、惣菜、缶詰)  
：薬局 (処方箋、日常的な医療品・薬、サポーターやオムツ等介護用品)  
：健康測定、健康診断  
：保健室機能
  - ・様々なメニュー展開によりニーズを絞り込むのも一案
  - ・テーマ性に応じた実施者の募集・獲得 (移動車の改修・作成、特技 (尺八、能、コーヒー等))
  - ・既存の地域資源とのコラボレーション (ビアレ、薬局、診療所)
- 2) 留意点
- ・実施者側からのケアを全面に出さない
  - ・当事者支援に閉じない仕組みの見える化 (家族や周囲、地域全体の理解を促す普及啓発)
  - ・街区との調整 (連合町内会との調整)
- 3) 場所の検討
- ・移動車と拠点による双方の展開 (やどかり型)  
移動車:各街区スペース、公園で開催 (参考:ミュンヘンのプレイバス、都筑区のブックカー)  
拠点:薬局、ビアレの一画、集会所等
-

表 22 グループⅡ

1. 課題

- 1) 高齢化に関する課題(要支援者の増加、活動の担い手不足)
  - \* 高齢者、災害時要援護者が増えている(アンケート実施)
  - \* 自治会メンバーの高齢化、自治会自体がない
  - \* 自治会活動の負担のせい、毎年役員が替わり、活動が本格化できない
- 2) 地域におけるつながりの希薄化に関する課題
  - \* 閉じこもり、孤独死が増えている
  - \* 交流の頻度が低下してきている
  - \* 趣味がない人が閉じこもっていく、寂しさからテレビ依存となっている
- 3) 世帯構造により違いがみられる課題
  - \* 一人住まいの人への対処の必要性が増えてきている
  - # 夫婦の閉じこもり
  - # 夫婦のこれまでの関係性が、いずれかの介護を伴う生活でも現れ、障害となる
- 4) 健康問題から生じる課題
  - # 病気(認知症等)のため介護が必要な配偶者の介護を抱え込む、助けを求めない
  - # 病気・障害のため支援が必要な息子・娘への介護を抱え込む、助けを求めない
  - # 家族の認知症様症状を気づかないようにしている、他者に知られないようにする
  - # 自身または家族が認知症であるのに、自覚しないように気づかないようにふるまう
  - # 困っているのに、自分から助けを求められない人が増えている(医師に直面化させられたり、極限の状態となると受け入れが可能)
- 5) 性差により違いが見られる特徴的な課題
  - \* 男性は近所付き合いが乏しい
  - \* 男性は支援が必要となっても、他者へは求めない
- 6) 地域の環境に関する課題
  - \* ドア一つで別世界→生活実態がわからない場合も多い
  - \* バスが少ない
  - \* バス会社への申請で何としてもルート拡大を達成したかったのに、駄目だった。本当に困っているのは住民の10%で、その他の人は「困っていない」と回答してしまった
- 7) 地域活動運営上の課題
  - \* 予算確保
  - \* 忙しくて活動維持(定例会議さえ)することが困難
  - \* 各自治会で方針がバラバラ、連合町内会レベルでの統合が困難
  - # 人材の確保
  - # 人通りの多い活動スペースでは、気が休まらない
  - # 活動メニューが多いと、「何かしなければならぬ」気持ちになる、活動できる人しか参加できない

表 22 グループⅡ (つづき)

## 2. 対象

- 1) ADLに関連し参加できない人
  - \* 外出できない人(災害時要援護者)
- 2) 活動に対する意欲がなく参加しない人
  - \* 男性
  - \* できあがった仲間に入っていけない人
  - \* 趣味のない人
- 3) 他者との交流・活動を好まない人
  - \* 2、3度は参加したけど「合わない」と続けない人
  - \* 「楽しむこと」を理解できない人
  - # 周りに迷惑をかけてはいけないという考えの人
  - # 近隣付き合いを好まない人
  - \* 資源・サービスを利用しない人
  - \* 趣味のない人
- 4) 他者からの声かけを遮断する人(断固拒否する人)
  - \* 声をかけても反応しない人
  - \* 「俺は知らない」と言う人
  - \* 「亡くなろうが人に迷惑かけてない」と言う人
  - # 周囲に頼らず、一人で生きていこうとする人
- 5) 生活・健康のニーズを有する人
  - # 認知症になった人→本人も家族も「知られたくない」気持ちが生じる
  - # 認知症の家族を、その他家族が抱え込んでいるような世帯
  - # 親族に頼れない人
  - # メンタルの人、サービスが入りにくい(隠したい? 家族で密接)
- 6) 自己開示が困難な人
  - # 経済的困難のある人
  - # 家に入られる、専門サービスが導入されるのを好まない人
- 7) プライドが高すぎる人
  - # 助けを望まない人、助けを恥と感じ受け入れられない人
  - # (恥だとしても)恥を受け入れられない人
- 8) サポーター側になる人
  - \* 女性マージャンサークル
  - \* 近隣に声をかける人

## 3. 目的

- \* 近隣で気づき合える
- \* 「出てこない人」をどう引っ張り出すか
- \* 地域の魅力を高める
- \* バス等の交通手段を向上し、移動しやすくする

表 22 グループⅡ (つづき)

#### 4. 方法

- \* 集まって食事できる場
- \* オープンな場で、座って飲んで話せる場
- \* 簡単調理の紹介
- \* 学習・訓練(身体活動、脳トレ)
- \* 趣味の活動(ゴルフ、ボウリング、カラオケ、マージャン、水泳)
- \* 楽しみの活動(落語・歌手招待、パーティー、移動動物園、祭り開催)

#### 5. プログラム案の検討

##### 1) コンセプト

- \* アイディアを出し合い、自主運営できること(しっかりしたリーダーシップが必要)
- \* 自治会も絡める
- \* ネットワークをつくる
- \* サークル・仲間をつくる
- # ふらっと立ち寄れる、情報収集の場にする、立ち寄るハードルを下げる
- # ちょっとした相談の窓口の設置
- # 面白みがあって「行こう」と思う内容
- # 行く手段の確立
- # 買物時に荷物を預かる
- # 参加者の負担のないプログラム内容
- # 定期的活動の曜日・時間を定める

##### 2) 留意点

- ・ お茶があって、静かに食べられる
- ・ いつでもふらっと来て、ちょっと話を聞いてくれる
- ・ 「何もなくていい」くつろげるスペースが必要(休憩ができる、ある程度の広さ・静けさも必要)
- ・ 目的的に来れる(趣味の活動、学習・訓練活動)
- ・ 支えたい人たちの人材を活用する
- ・ 介護者・サポーター人材をサポートする(D cafe、supporters' cafe)
- ・ 地域の皆に知ってもらう広報の工夫

##### 3) 場所の検討

- ・ マツキヨ前
- ・ フードコートの一画
- ・ オフィス金沢(コロナ活動外の日)
- ・ 移動ワゴン車による展開

表 23 グループⅢ

1. 課題

1) 地域における課題

(1) 地域で気になっている人・事柄

\*閉じこもり (テレビを見ている)

\*男性を外へ出すのが難しい \*参加しても趣味とか自分の好きなことぐらいしか話せない

\*言葉も交わしてくれない偏屈な方もいるので、挨拶で声をかけるが、返事が来ない

#地域の高齢化、近所の人々との関わりが薄くなってきた傾向

#認知症でも本人・家族は認めない、否定する。病院にも行かない、何が起こるか分からない。

#認知症に限らず、心配な人は多くいるが、民生委員から入っていくことができない。

#ごみ屋敷

#介護保険など公的なサービスでは受けられないような困り事が増えている。

\*自分のことでもういっぱいという感じの人もいる

\*「ほんとに困っている」と民生委員に言う人の中には、ヘルパーを勧めても嫌がる人もいる。

#お助け隊ができたが、同じ街区の人には来てほしくない。

\*健康のことを相談しようとのニーズはあまりない (医師へ相談、受診、ネットで調べる)

#交通の便が不便。出るのがおっくう \*バスの本数が減っている

\*イオンとスポーツセンターは距離感があるため、スポーツセンターまでは来ない。

(2) 地域住民の近隣とのかかわりあい

#ご近所には知られたくない、あえて知らせないという流れになってきている

#付き合いは大事とは思っているが、関係性をつくるほどまでにはなれないという意見を聞く。

\*全然顔を知らない人が来るのはいいが、団地内でお助け隊で来てもらうのは嫌がる

\*信頼関係がないと、受け入れは難しい。1回でもその部屋に入れば受け入れられる。

#夏祭り、餅つき、何かイベントはみんな大勢出てくる。

\*囲碁などの趣味を持っている人は、地区、世帯でどこでも積極的

#男性はグランドゴルフ、女性は健康マージャンにはまっている。

2) 運営上の課題

\*活動の曜日等を書いて回覧しても、なかなか人が集まらない時がある

#年間企画を立て、その都度声をかけながら広報もし、個人的にも誘うが、その場限りになる。

#自治会の高齢化、自治会運営に負担を感じている方が多くなってきている

#自治会の敷居が高い、同じ人が運営メンバーになると、どうしても新しい人が入りにくい。

#自治会の事業は減らす傾向があるため、住人同士の関わりを持つ機会が減っている。

#役員が終わったら知らん顔。次の人に引き継いだらおしまいという人も多い。

\*負担感がある (民生委員はこれ以上もう何かをできない、立ち上げるのは大変。)

\*行政の助成金が出るからこれをやりましょうとか言っても、続けられない、きつそうと思う

\*#参加者も固定されていると、新しく参加しにくい。

\*参加者がどうしても混ざって座ってくれない、女性、男性で固まって座る

#今後維持していくために財政が確保できないと継続は難しい、家賃をどう捻出していくか

#ネットなどで情報発信しても高齢者は収集が難しい

2. 対象

1) 参加しない人

\*男性を外へ出すというのが非常に難しい #ボランティアは嫌という男性もいる

\*女性で外へ出ない人

\*放られた人(介護サービス等も受けず、家族とも地域住民とも関わりがない人)

\*本当は動けたりもできるのに、興味・関心とか、なぜか来ない方。興味がない人

\*声をかけてもやっぱりなかなか来ない人

2) 興味がない、または、少しはあるが、参加までには至らない人

\*興味はないんだけど、何かみんなできているところを見たいというのはある

表 23 グループⅢ (つづき)

- \*自分にもできるかのぞいてから、声をかけてくれたら「じゃあ、ちょっと」と参加する人
- \*女性は飾り物で「何?きれい」とか「こんなのを作れたら教えてほしい」と言う人は結構いる
- #興味があるから覗くが何をしているかわからない、知らない人ばかり、若い子もいると入らない
- #趣味の活動(創作、写真など)をしている人(男女)

### 3) 生活・健康のニーズを有する人

- \*独居の 80 歳後半を過ぎた方 (バスで買い物に来て帰るからゆっくりできない)
- \*仕事をして定年になって、体をちょっと壊したりすると孤立してしまう人

### 4) サポーター側になる人

- \*役割でやろうとなると結構頑張ってる人もいる
- #何かしてもらおうではなく、元気なうちは自分で何かをやっていこうと気持ちを持っている人

## 3. 目的

- #日中一人で、誰とも昼間はしゃべらないから、月に1回でも誰かとしゃべりたい。情報交換。
- #要素として燃える何かがある。今までやっていたことと、頑張ればできるような何かがある
- \*何か面白いものがある
- #何か自分も役に立っている、でも楽しみながらできる。
- #自分で何かをやろうと意欲のある人に自分たちを活かせる場所を提供する
- \*多少何かやったら報酬がある。バイト感覚
- \*お披露目の機会
- \*くつろげるほうがいい
- \*飲食ができる場 (店で買ったものを食べられる)
- \*自分の悩んでいることを聞いてみようというのは、ちょっとしない(相談は目的になりにくい)

## 4. 方法

### 1) オープンで、座って飲んで話せる場

- \*オープンで、ちょっと通りがかりに見たら、外から見える
- \*比較的毎日やっていると、なお理想的
- \*オープンな感じで、普段スーパーで売っていないようなものがある
- \*飲食できる (買ったお弁当を食べられたらいい。イオンの 100 円で買えるコーヒーを飲める。)
- \*飲食しなくても何もしなくても、座って自分の好きなお茶を飲んでいる場所だけでもよい
- \*スペースは、お中元や何かの時の 1 階の催事スペースが一番いい (食料品フロアでの実施)
- \*向こう側の入り口のパン屋の横がよい。一番の入り口、どこからも見える。

### 2) 趣味の活動・お披露目の場

- #熱くなれる。気軽にできる。
- #今までやっていたことと、頑張ればできるような何かがある
- \*自分の趣味とか好みに合ったこと、昔やっていたこと
- \*創作・作業をやりながらおしゃべりできる、これはどうなのと聞き合えればいい
- \*男性は風景とこの鳥とか、結構写真を撮ってきてくれる人は多い。(作品が展示できる)
- \*誰かの作品を見るだけでもいいのかもしれない
- \*何か教えられる。一日、二日ではなく継続して通える場。
- \*創作にはある程度のラインがある、だんだんできなくなってくる。(難しい創作にしない)

### 3) 同世代・異世代交流の場、顔見知りがいる、誘い合って来られる場

- \*誘い合ってメンバーを増やす。女性は、「何か作るから出てきて」と言えば出てくる
- \*家族と一緒にやらなきゃ駄目、付き合ってくれる人がいればよい
- #知った顔のスタッフがいると来やすい。自分の名前を覚えてくれる人だと余計によい。
- \*民生委員や支援者同士の交流の場がもっとあってもいいかもしれない。

表 23 グループⅢ (つづき)

- \*違う世代の交流ができるのはいい。
- \*子ども連れでたまたま入った時に一緒に何かできるかもしれない。
- \*高齢者が座っているだけで店番して駄菓子売って、子どもが来て子どもに売るとよい。
- \*高齢者が楽しみで今日は自分が店番をしたいと集まれば、1人でなくても複数皆いい。
- \*何かきっかけとなって、自分もお手伝いできると増えてくるのであればいい。
- \*楽、簡単にできる活動・作業があるほうがいい。
- \*移動式で、講演などにふらっと来て、パン、お菓子があり訪問販売もある。椅子が出る。

## 5. プログラム案の検討

### 1) コンセプト

- \*情報収集の場+仕事ができる+休憩スペース
- \*ふわっと-ふらっとしたかわり
- \*#話したり、ただ座っている場所だけでもあるといい
- \*#役割が持てる。仕事・作業(座ってできること+動くこと) #役割を変えて続けられる
- \*趣味など共通の話題や仕事などの役割を取る →世代間交流が出来る
- \*#共通の目的が持てる、仕事に近いもの、作業
- \*多少の報酬がある。(例:内職、いろいろなプログラムが同時にある、メニュー)  
(例:お仕事ステーション:自宅で内職をするのではなくチラシ配り等、家から外出し、そこを訪れば仕事がある)
- \*#誰かが何かをしているのを見る、皆で一緒にする
- \*#要素として燃える何かがある。今までやっていたことと、頑張ればできるような何かがある
- \*#体が動いても動かなくてもできる内容にする #自尊心は保てる 例) ボッチャ(他区と大会)
- \*できなくなったとしても補える方法を提案(例:腰痛でもできるグランドゴルフ)
- \*#競技の場合、点数+運の要素も入れる
- \*#このエリア内の他機関・施設・団体がしていない
- \*買い物したい→送迎・荷物運び
- \*#つながりのきっかけの場(まず拠点とはつながる、その後参加者同士でつながる)

### 2) 留意点

- #目立ちすぎない(目立ちすぎるのは好まない)
- #何をやっているかがわかること(例:外から見える、ライブビュー・広報 ネット配信や360度画像でどんな場かわかる、遠隔)
- #運営資金の確保、NPOなら寄付はもらえる
- #交通手段の補いは必要、少しの金銭負担はあってもよい。  
複数の機関・団体が交代で週1回ずつ地域貢献としてバス運行してもらえないか  
例) 並木リハビリテーション病院のバス、タクシー会社他
- #口コミが効果的、買い物中の人が見る
- #「社会貢献」等、心をつかむ言葉をつかう(「ボランティア」という言葉を嫌がる人がいる)
- #組織・団体として名刺も持ってもらう(所属となる)
- #名札(ケース入り)か入館証を持つ #ロゴ作る
- #人材:民生委員を引退した方(活動の必要性を理解している)→手伝いたい方へ拡大
- #手伝う内容や役割も小さく自宅でもできるものから負担や量に幅を持たせ手伝いやすくする
- #どこに住んでいるかは最初から言わなくてよい(登録・名簿内容は氏名・年齢・性別程度に)
- #内容に次世代の好みを取り入れる。  
例) ゲーム(Wii、太鼓の達人)、オンラインゲーム 遠隔でもつながる

### 3) 場所の候補

- \*#他の目的(スポーツ、買い物、通院等)のついでに行ける→ピアレの1階
- \*#サテライト・移動式・訪問型は拠点がある上で展開。新たなターゲットの獲得につながる。

## 5. 地域ニーズ調査Ⅴ（まちあるき調査）

### 1) 目的

モデルプログラム（「ふらっとスペースなみき」：仮称）の開発に向けて、対象地区内でのまちあるき調査（高齢者の生活時間・行動調査および立ち寄りスペース設置可能場所調査）によって、具体的に設置できる場所の検討を行うことを目的とした。

### 2) 方法

二つの具体的調査を行った。

#### (1) 調査 A（高齢者の生活時間・空間・行動調査）

##### ① 対象

並木二、三丁目における一人暮らし高齢者世帯（平成 27 年総数：327 世帯） 10 世帯 10 人  
夫婦のみ高齢者世帯（平成 27 年総数：903 世帯） 5 世帯 10 人

##### ② 手順

高齢者に GPS を装着してもらい、生活時間・行動を把握した。装着方法が紙面及び口頭で説明され、2 日間装着。（地域ニーズ調査Ⅱ（生活時間・空間・行動調査）の GPS 調査を兼ねて実施）（平成 29 年 12 月）

#### (2) 調査 B（立ち寄りスペース設置可能場所調査）

##### ① 対象

並木一、二、三丁目における各管理組合、管理主体が所有する集会所、全 27 カ所の  
B-1：集会所の管理員  
B-2：集会所の利用者

##### ② 手順

公共的な屋内空間である「集会所」を候補とし、利用可能性を探るため、現在の運営・活用状況について、管理員に対するヒアリング（調査 B-1：集会所運営実態調査（設備、環境、運営体制、活動団体等））、利用者に対するアンケート（調査 B-2：集会所に対するイメージ、場所選択の動機）を行った。（平成 30 年 9～12 月）

なお本調査は、塩飽克秀（まちづくりコース）による 2018 年度卒業研究「郊外計画団地の集会所の運営・利用からみる高齢者の「活動拠点」に関する研究」の一環として実施された。



3) 結果

調査 A (高齢者の生活時間・空間・行動調査)

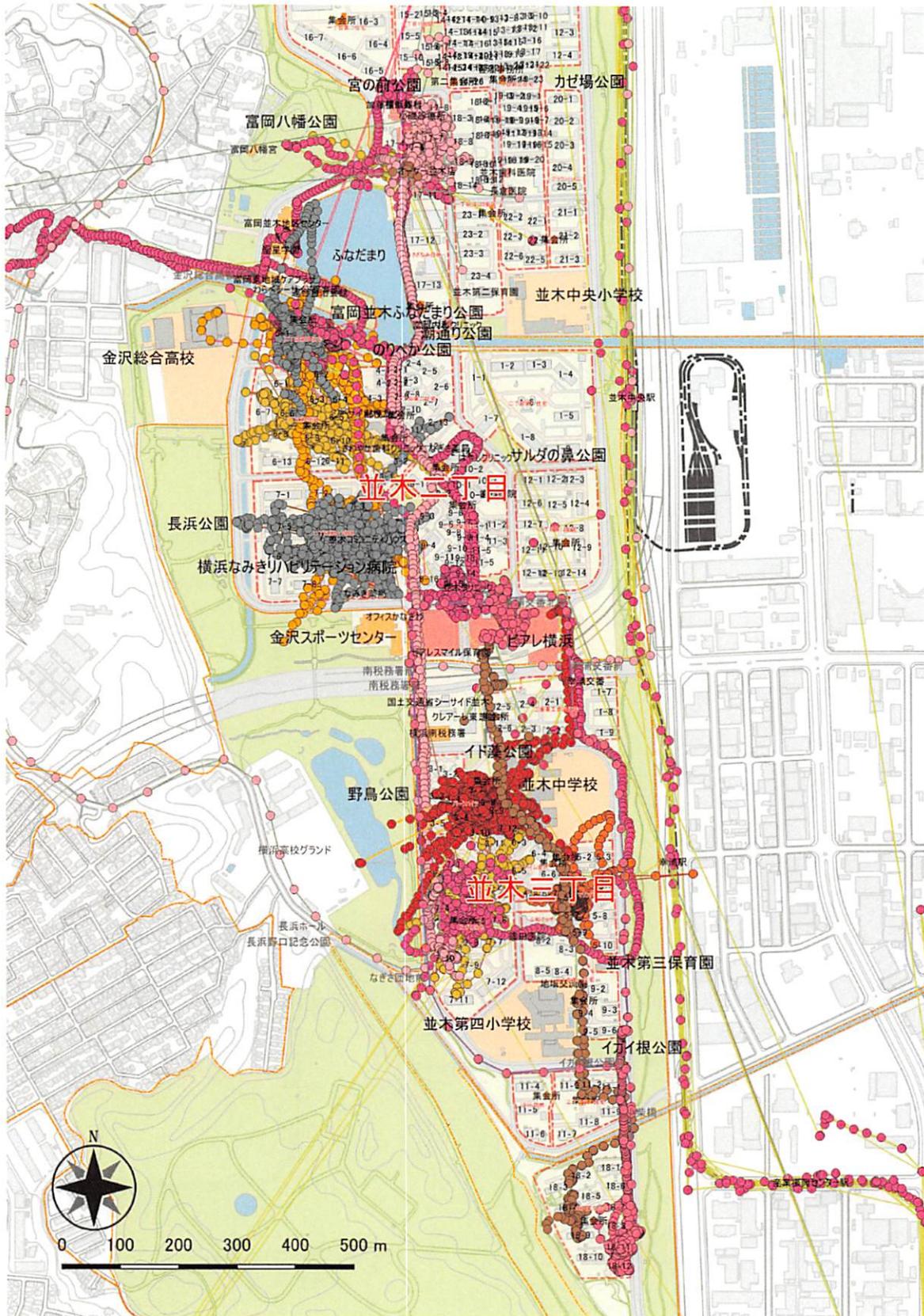


図2 被験者の対象地区内移動状況 (2017年12月)

- ・ 居住している街区内での移動を中心とし、近隣街区までの移動は多く見られる。
- ・ 二丁目住民、三丁目住民とも買い物行動は重要な移動の動機であり、比較的長い距離を移動している。二丁目・三丁目の境に位置するビアレは重要な立ち寄り場所となっている。三丁目から一丁目のセンター名店街へ行くケースも存在している。
- ・ 街区内への立ち入りは、居住街区および(友人がいる)近隣街区以外にはほとんど見られず、買い物やお出かけには、歩行者専用となっている道路や歩道がしっかり整備されている道路など、地区内の主要道路を使っての移動が主となっている。
- ・ 地区センター、高校、公園など公共的施設・空間への移動も見られる。
- ・ 地域ニーズ調査Ⅱ、Ⅲと考えあわせると、ふらっとスペースなみき設置に適切な場所として、(1)商業施設(特に地区中央部に位置するビアレ)内、(2)主要歩行者道路に近い公共的施設(屋内であれば集会所、屋外であれば公園等)が考えられる。

調査 B-1：集会所運営実態調査（設備、環境、運営体制、活動団体等）

表 24 集会所別にみた団地別事業主体・住宅種類【富岡東二丁目（1カ所）・並木一丁目（9カ所）】

金沢シーサイドタウン富岡住宅	UR都市機構	分譲
金沢住宅	横浜市営住宅	賃貸
金沢第二住宅	横浜市営住宅	賃貸
UR都市機構並木一丁目第一団地	UR都市機構	賃貸
並木一丁目第一住宅	UR都市機構	分譲
並木一丁目第三住宅	UR都市機構	分譲
並木一丁目第二団地	UR都市機構	賃貸
並木一丁目第二住宅	UR都市機構	分譲
さざなみ団地	横浜市住宅供給公社	分譲
ブラウンハイム	神奈川県労働者住宅協会	分譲

表 25 集会所別にみた団地別事業主体・住宅種類【並木二丁目（7カ所）】

並木二丁目第一住宅	UR都市機構	分譲
並木二丁目第二住宅	UR都市機構	分譲
並木二丁目第五住宅	UR都市機構	分譲
並木二丁目第六住宅	UR都市機構	分譲
金沢シーサイドタウン並木2丁目団地	UR都市機構	賃貸
並木二丁目第九住宅	UR都市機構	分譲
並木二丁目第十二住宅	UR都市機構	分譲

表 26 団地別にみた事業主体・住宅種類【並木三丁目（9カ所）】

三菱金沢社宅	民間社宅公営住宅	分譲
パークハイツ	日本勤労者住宅協会	分譲
マリンハイツ	神奈川県公社	分譲
シーハイム金沢住宅	横浜市住宅供給公社	分譲
なぎさ団地	横浜市住宅供給公社	分譲
並木三丁目第一住宅	UR都市機構	分譲
並木三丁目第二住宅	UR都市機構	分譲
金沢シーサイドタウン並木三丁目団地	UR都市機構	賃貸
金沢第三住宅	横浜市営住宅	賃貸

表 27 集会所別にみた富岡東二丁目・並木一丁目の集会所開館曜日と時間（2018年10月）

集会所名	○:開館 △:変則開館・集会所利用日 ×:閉館						
	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜 祝祭日
金沢シーサイドタウン富岡住宅集会所	○	○	○	○	○	△第2,4,5	×
	9:00 ~ 17:10	9:00 ~ 17:10	9:00 ~ 17:10	9:00 ~ 17:10	9:00 ~ 17:10	9:00 ~ 12:05	
金沢住宅集会所	×	×	△第3	△第4	×	×	△第2
			9:00 ~ 15:00	9:00 ~ 15:00			9:00 ~ 15:00
金沢第二住宅集会所	×	×	×	×	×	×	×
UR都市機構並木一丁目第一団地集会所	予約があれば開館						
	○	○	×	○	○	○	×
	9:30 ~ 17:00	9:30 ~ 17:00		9:30 ~ 17:00	9:30 ~ 17:00	9:30 ~ 17:00	
並木一丁目第一住宅集会所	○	○	△第1,3	○	○	○	×
	9:00 ~ 16:00	9:00 ~ 16:00	9:00 ~ 12:00	9:00 ~ 16:00	9:00 ~ 16:00	9:00 ~ 12:00	
並木一丁目第三住宅第1集会所	○	○	○	○	○	×	×
	9:30 ~ 17:00	9:30 ~ 17:00	9:30 ~ 17:00	9:30 ~ 17:00	9:30 ~ 17:00		
並木一丁目第三住宅第2集会所	○	○	○	○	○	×	×
	9:30 ~ 17:00	9:30 ~ 17:00	9:30 ~ 17:00	9:30 ~ 17:00	9:30 ~ 17:00		
並木一丁目第二団地集会所	○	○	×	○	○	○	×
	9:30 ~ 13:30	9:30 ~ 13:30		9:30 ~ 13:30	9:30 ~ 13:30	9:30 ~ 17:00	
並木一丁目第二住宅集会所	○	○	○	○	○	○	×
	9:00 ~ 17:00	9:00 ~ 17:00	9:00 ~ 17:00	9:00 ~ 17:00	9:00 ~ 17:00	9:00 ~ 17:00	
さざなみ団地第1住宅集会所	○	○	○	○	○	△第1,3,5	×
	9:00 ~ 17:00	9:00 ~ 17:00	9:00 ~ 17:00	9:00 ~ 17:00	9:00 ~ 17:00	9:00 ~ 17:00	
ブラウンハイム集会所	○	○	○	○	○	×	×
	9:00 ~ 17:30	9:00 ~ 17:30	9:00 ~ 17:30	9:00 ~ 17:30	9:00 ~ 17:30		

表 28 集会所別にみた並木二丁目の集会所開館曜日と時間（2018年10月）

集会所名	○：開館 △：変則開館・集会所利用日 ×：閉館						
	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜 祝祭日
並木二丁目第二住宅集会所	○	○	×	○	○	×	×
	9:30 ～ 15:30	9:30 ～ 15:30		9:30 ～ 15:30	9:30 ～ 15:30		
並木二丁目第五住宅集会所	×	○	×	○	×	△第2,4,5	×
		9:00 ～ 12:00		13:00 ～ 17:10		9:00 ～ 12:00	
並木二丁目第六住宅集会所	○	○	○	○	○	△第2,4,5	×
	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 12:00	
金沢シーサイドタウン並木2丁目団地集会所	○	○	×	○	○	○	×
	9:30 ～ 13:30	9:30 ～ 13:30		9:30 ～ 13:30	9:30 ～ 13:30	9:30 ～ 17:00	
並木二丁目第九住宅集会所	○	×	○	×	○	○	×
	9:00 ～ 16:00		9:00 ～ 16:00		9:00 ～ 16:00	9:00 ～ 12:00	
並木二丁目第十二住宅集会所	○	×	○	×	○	△第1,3,5	×
	9:00 ～ 17:00		9:00 ～ 17:00		9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 12:00	

表 29 集会所別にみた並木三丁目の集会所開館曜日と時間（2018年10月）

集会所名	○：開館 △：変則開館・集会所利用日 ×：閉館						
	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜 祝祭日
パークハイツ集会所	○	○					
	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 17:00	○	○	○	×	×
マリンハイツ集会所		○	○		○	○	
	×	10:00 ～ 15:00	10:00 ～ 15:00	×	10:00 ～ 15:00	9:00 ～ 12:00	×
シーハイム金沢住宅集会所	○	○	○	○	○	○	
	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 12:00	×
なぎさ団地住宅集会所	○	○	○	○	○	△第,2,4	
	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 17:00	9:00 ～ 17:00	×
並木三丁目第一住宅集会所	○		○		○		
	9:00 ～ 13:00	×	9:00 ～ 13:00	×	9:00 ～ 13:00	×	×
並木三丁目第二住宅集会所		○	○		○	○	
	×	9:00 ～ 15:00	9:00 ～ 15:00	×	9:00 ～ 15:00	9:00 ～ 15:00	×
金沢第三住宅集会所	×	×	×	×	×	×	×
	利用があれば開館						

表 30 丁目別にみた利用資格

丁目	全体	申込者・参加者共に 団地組合員以外も 可能	一人でも当該団地の組合員が いれば、誰でも参加可能	原則団地の組合員 だが、承認を受けれ ばそれ以外でも可能	申込者のみ団地 組合員に限定	申込者・参加者ともに 団地組合員に限定
合計	24集会所	10集会所	4集会所	1集会所	7集会所	2集会所
	100.0%	41.7%	16.7%	4.2%	29.2%	8.3%
富岡東二丁目 並木一丁目	11集会所	4集会所	2集会所	1集会所	3集会所	1集会所
	100.0%	36.4%	18.2%	9.1%	27.3%	9.1%
並木二丁目	6集会所	1集会所	0集会所	0集会所	4集会所	1集会所
	100.0%	16.7%	0.0%	0.0%	66.7%	16.7%
並木三丁目	7集会所	5集会所	2集会所	0集会所	0集会所	0集会所
	100.0%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%

表 31 丁目別にみた集会所の利用に対するイメージ

丁目	全体	現在のままで良い	利用者数を増やしたい	利用者数を調整したい	無回答
合計	24集会所	15集会所	8集会所	0集会所	1集会所
	100.0%	62.5%	33.3%	0.0%	4.2%
富岡東二丁目 並木一丁目	11集会所	10集会所	1集会所	0集会所	0集会所
	100.0%	90.9%	9.1%	0.0%	0.0%
並木二丁目	6集会所	4集会所	1集会所	0集会所	1集会所
	100.0%	66.7%	16.7%	0.0%	16.7%
並木三丁目	7集会所	1集会所	6集会所	0集会所	0集会所
	100.0%	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%

表 32 「丁目別にみた集会所の利用に対するイメージ」に対する回答理由

<b>【現在のままで良い】と回答された方の回答理由</b> ● これ以上利用を増やしたら、新規利用者などが参入しにくくなるため ● 部屋が狭いため、大人数での活動に向かない、他に無料で集まれる施設があるため、有料の集会所は使われにくいのではない ● 営利目的ではないため現在のままで良いが、せっかく場所や物があるので、もっと活用されても良いのではないだろうか
<b>【増やしたい】と回答された方の回答理由</b> ● 居住者同士のコミュニティがもっとあっても良い ● 居住者同士のコミュニティが少なく、災害時などが心配 ● 独居老人も多く、日ごろからの交流が大切に感じる ● 団地自体が団地内での活動に対して活発なイメージがあり、せっかく場所があるのだから、もっと集会所を活用してもらいたい

- ・ 対象地区を含む金沢シーサイドタウンは開発の意図と経緯から分譲住宅、賃貸住宅が混在しており、集会所もそれに準じた管理体制となっている。分譲住宅は管理組合、賃貸住宅は運営事業者が集会所も所有・運営の権利を持っている。
- ・ 開館状況は、原則として平日日中を開館しているところが多いが、時間帯が限られているところも多く、平日にも休館日を設けているところや利用申請があった時のみ開館するといった運用の集会所も存在する。これは管理人の駐在とも関係している。
- ・ 原則としてその集会所が位置する住宅街区の居住者の利用が優先されており、居住者以外の団体利用は料金が高く設定されているか、そもそも不可となっている集会所もある。
- ・ 一方、利用者を増やしたいとする集会所もある。
- ・ 団地組合員・居住者が立ち寄れるような環境は現状ではまったく整っていない。
- ・ 集会所の利用に対する考え方は、現状のままを良しとする意見、増やしたいとする意見の両方があった。増やしたいとする意見も、基本的には居住者向けを想定しているが、交流の促進を図る必要性を指摘する意見もある。

調査 B-2：集会所に対するイメージ、場所選択の動機

表 33 丁目別アンケート回答者の年代

丁目	全体	60歳未満	60代	70代	80歳以上	無回答
合計	134人	7人	30人	83人	12人	2人
	100.0%	5.2%	22.4%	61.9%	9.0%	1.5%
富岡東二丁目 並木一丁目	53人	3人	10人	35人	3人	2人
	100.0%	5.7%	18.9%	66.0%	5.7%	3.8%
並木二丁目	38人	2人	7人	27人	2人	0人
	100.0%	5.3%	18.4%	71.1%	5.3%	0.0%
並木三丁目	43人	2人	13人	21人	7人	0人
	100.0%	4.7%	30.2%	48.8%	16.3%	0.0%

表 34 集会所利用の際に重視する順位（全地域）

	全体	自宅からの距離が近い	趣味など、活動しやすい設備・環境が整っている	気軽にふらっと休憩・無料でお茶が飲める環境がある	年齢性別問わず様々な人と交流できる	利用料金がかからない・安い	知り合い・友人と交流ができる
1位	125	75	14	9	4	12	11
	100.0%	60.0%	11.2%	7.2%	3.2%	9.6%	8.8%
2位	123	23	29	9	11	28	23
	100.0%	18.7%	23.6%	7.3%	8.9%	22.8%	18.7%
3位	122	12	18	9	26	25	32
	100.0%	9.8%	14.8%	7.4%	21.3%	20.5%	26.2%
4位	120	6	21	11	35	25	22
	100.0%	5.0%	17.5%	9.2%	29.2%	20.8%	18.3%
5位	120	2	25	17	30	25	21
	100.0%	1.7%	20.8%	14.2%	25.0%	20.8%	17.5%
6位	120	7	12	57	15	9	20
	100.0%	5.8%	10.0%	47.5%	12.5%	7.5%	16.7%

- ・ 利用者はどの地区も70代が多い。高齢者の利用が主であり、60歳未満は5.2%に過ぎない。
- ・ 集会所利用者の動機は、基本的に自分が居住する街区の集会所であることが大きい。その他、趣味や知人と交流するなど明確な目的を持ったものが上位であり、ふらっと立ち寄れるといった目的は現状ではあまり重視されていない。

4) 考察

- ・ 人が通る道路・通路とふらっと立ち寄れるスペースを設置する場所は近いほうが良いが、そのような場所の分布は限られており、十分な検討の必要がある。
- ・ 買い物行動は移動の大きな要因であり、ふらっと立ち寄れるスペースを設置するのもっとも適した目的地であると考えられる。
- ・ 施設・設備的に期待される集会所は、現状では所属する街区の居住者に向けた設備であり、「だれもがふらっと」といった目的に供するには多くの解決すべき課題がある。

## 6. 横浜市金沢区シーサイド地区における一人暮らし高齢者等の社会的孤立予防に向けた事業のモデルフレームワーク（案）

地域ニーズ調査 I～Vを踏まえ、以下のとおり事業のモデルフレームワークを立案した。

### 1) 名称

ふらっとスペースなみき

### 2) 趣旨

都市団地型小規模コミュニティ（横浜市金沢区シーサイド地区）における、一人暮らし高齢者等の社会的孤立予防にむけた仕組みとして、誰もが気軽に立ち寄り、交流することができるモデルプログラム「ふらっとスペースなみき」を創出する。

### 3) 目標（意義）

- (1) 都市団地型小規模コミュニティ（横浜市金沢区シーサイド地区）における、一人暮らし高齢者等と地域住民ならびに関係機関等との緩やかな関係性（つながり）がつけられる。
- (2) 都市団地型小規模コミュニティ（横浜市金沢区シーサイド地区）における、一人暮らし高齢者等ならびに地域住民の健康づくりや介護予防活動が促進される。
- (3) 都市団地型小規模コミュニティ（横浜市金沢区シーサイド地区）における、ソーシャルキャピタルの醸成が図られる。

### 4) 事業体制

#### (1) 運営主体

横浜市富岡東地域ケアプラザ

#### (2) 協働機関

横浜市立大学

#### (3) 協力機関

自治会、町内会、民生委員・児童委員、地区社協、地区内大規模商業施設、他

5) アクションプラン

5W1H	プランニングポイント	地域ニーズ調査 I-V における参照箇所
<p>誰が (Who)</p> <p>誰に (to whom)</p>	<p>(1) 関係者・組織 ケアプラザ、地区社協、町内会、自治会、民生・児童委員、コミュニティ内の小規模事業所及び大規模商業施設、他</p> <p>(2) 住民におけるキーパーソン コミュニティのサークルメンバー、自治会メンバー ・多少強引に先導するリーダーシップのとれる人 ・リーダーを支えるフォロワーシップのある人 ・顔が広く他者へ声をかけることに厭わない人 ・用事がなくても気軽にふらつける人 (潜在性) ・次世代の担い手となる 50-60 歳台 (潜在性)</p> <p>(3) 多様な住民層 コミュニティにおける独居高齢者、男性、コミュニティ拠点から距離のある地域 (並木三丁目) の住民、家族を介護する介護者、災害時等要援護者、他 ・生活・健康上のニーズを有する人 ・能力・意欲・ストレス等を発する場がない人 ・ADL・認知機能・意欲低下等で閉じこもりがちな人 ・他者との交流・働きかけを好まない人、拒否する人 ・経済的困難・自己開示困難等で孤立傾向の人 ・興味・関心を持ってない人、行動に至らない人</p>	<p>表 21,22,23</p> <p>表 12,13,22 表 21 表 12 表 21,22 表 21 表 12,17,21</p> <p>表 3,4,9,,18,21,23</p> <p>表 5,7,11,21,22,23 表 8,21,22 表 7,11,21,22,23 表 7,8,11,21,22,23 表 11,21,22 表 7,11,21,23</p>
いつ (When)	<p>(1) 季節 ・出歩きやすい時季 (春・秋) ・閉じこもりがちな時季 (真夏・冬)</p> <p>(2) 時期 ・歳末商戦時期 ・夏祭りや餅つき等の行事を重ねた時期</p> <p>(3) 時間帯、期間 ・活動開始時間帯、買物帰りの時間帯 (11 時頃) ・毎日開催する ・定期的活動の曜日・時間を決める ・継続性を重視する (数ヶ月以上)</p> <p>(4) タイミング 買物のついで、外出のついで</p>	<p>表 23</p> <p>表 21 表 23 表 22 表 21,23</p> <p>表 21,23</p>
どこで (Where)	<p>(1) 一人暮らし高齢者等の徒歩圏内の日常生活圏 ・人が行き交う道路が近く、ふらっと立ち寄れる場 ・多くの人の目に留まる集いやすい場 ・日頃の地域活動の拠点となっている行き慣れた場 →商業施設、公園、空地、空店舗、保育園、公共施設等</p> <p>(2) 心身機能低下している者等が単独で行ける圏域 ・各棟集会所 ・住宅棟階下や公園等での移動車による展開活動場</p>	<p>表 22,34,図 2 表 21,22,23,図 2 表 14,22,図 2 表 21,22,23,図 2 表 4,5,9,10,14,22 表 25,26,28,29,30,図 1 表 21,22,23,図 2</p>
何を (What)	<p>(1) 誰もが「自由にふらっと立ち寄り交流することができる場づくり(非目的的)」 ・自然と交流 (情報交換) でき、初対面同士なじめる空間 ・何もしなくてもよく、軽食・休憩をとれる空間 ・話を聞いてくれる人がいる空間 ・コミュニティマップの作成・配布・掲示</p> <p>(2) 誰もが「能力や意欲に応じて、できるときにできることを楽しみながら行うことができる場づくり(多目的的)」 ・趣味 (ゴルフ、ボウリング、カラオケ、麻雀、写真) ・楽しみ (落語・歌手等の観賞、祭り、パーティー)</p>	<p>表 20,21</p> <p>表 16,20,22,23,32,34 表 15,21,22,23 表 15,21 表 18 表 19,20,21</p> <p>表 15,19,21,23,34 表 16,22,23,34</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習・身体チェック（脳トレ、身体機能測定、講座）</li> <li>・生活の知恵を身につける（簡単調理の紹介）</li> <li>・日頃の気がかりを相談できる</li> </ul>	<p>表 14,19,21,22 表 21,22 表 15,21,22</p>
なぜ (Why)	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 少子高齢、人口減少に起因する地域活動担い手の減少 →地域活動リーダー・グループ育成の必要性</li> <li>(2) 要支援Ⅰ・Ⅱの増加率の高さ、高血圧及び筋・骨・関節疾患の有病率の高さ →介護予防の必要性</li> <li>(3) 独居高齢者における地域愛着(CCS)、地域見守り(CSES)、生活空間(LSA)、気力(ARS)の低さ →社会的孤立予防の必要性</li> <li>(4) 近隣つき合い、地域活動、社会貢献活動等に対するコミュニティ元来の価値観及び変化による、ソーシャルキャピタルの衰退や地域資源活用の不十分さ →持続可能な地域活動の模索・展開の必要性</li> <li>(5) 高齢者世帯、疾病及び障害を抱える者を介護する世帯等において「他者の世話になりたくない」「周囲と関わりたくない」等の理由で閉じこもる世帯の増加 →地域における相互扶助意識再構築の必要性</li> <li>(6) 住宅の構造(各階エレベーターがない等)、地域性(バス路線が乏しい等)に起因する個人の外出・活動量の低下 →外出困難な者が活動参画できる事業創出の必要性</li> </ol>	<p>表 2,14,16,22,23 表 4,5,9,10,14,22 表 3,11,14,16,22,32 表 11,16,21,30,31,32 表 11,16,21,22,23 表 14,16,21,22,23,図 2</p>
どのように (How)	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 財源確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動等助成金・補助金制度等の活用</li> </ul> </li> <li>(2) 人材確保、組織化・ネットワーク化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・キーパーソンになりそうな人に声をかける</li> <li>・地域のサークル・グループ活動に声をかける</li> <li>・影響力のあるステイクホルダーの巻き込み</li> <li>・地域内の幼稚園・保育園、薬局、新聞配達店との協働</li> </ul> </li> <li>(3) 設備・媒体 <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出セットの用意</li> <li>・移動手段のサポート、バリアフリー化</li> <li>・買物等の荷物を預かれるしくみ</li> </ul> </li> <li>(4) 運営 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 関係者・組織 <ul style="list-style-type: none"> <li>・街区でのつながり、街区を超えたつながり、双方重点</li> <li>・移動車と拠点による双方の展開</li> <li>・目的参加者、非目的参加者双方に叶う展開</li> <li>・性差に配慮した内容と皆が参加できる内容の双方展開</li> <li>・介護者・サポーター人材（支える人々）をサポート</li> </ul> </li> <li>② 住民を含めた参画者全員 <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの経験、特技、趣味等を発揮できる展開</li> <li>・役割（仕事、応酬）を担え、負担なく自主運営できる</li> <li>・こども・孫世代の参画を図り、異世代で交流できる</li> <li>・スタンプラリー、活動名称、名札等のアイディア活用</li> <li>・情報交換できる場、情報が集まる場をつくる</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>(5) 広報・周知 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全戸配布、各棟ロビー掲示等、皆に知ってもらう工夫</li> <li>・日時等を忘れる人が多い、待つのではなく声をかける</li> </ul> </li> <li>(6) 留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に住民のさまざまなニーズを把握する</li> <li>・日頃からの関係づくり、地域活動の動機づけ</li> <li>・ハイリスク、一人暮らしになる前からアプローチ</li> <li>・細くとも長く続ける</li> <li>・当事者支援に終始せず、家族や地域全体の理解を促す</li> </ul> </li> </ol>	<p>表 22,23 表 22 表 16 表 12,13,22 表 21 表 21 表 34 表 19,23 表 19,22,23 表 22,23 表 15 表 21,22,23 表 20,21 表 21,22,23 表 21,22 表 16,17,18 表 14,16,17,21,22,23 表 17 表 21,23 表 16,21 表 21,22,23 表 21 表 16 表 22 表 21 表 23</p>

## 7. 地域事業Ⅰ（ふらっとスペースなみき in ビアレ）

### 1) 目的

横浜市金沢区並木地区在住の独居高齢者世帯ならびに高齢者の夫婦のみ世帯の社会的孤独や孤立を予防し、できるだけ長く自立した生活を営むことができるよう、以下を目指すことを目的とした。

- (1) 高齢者個人と地域の新たな関係性（つながり）づくり
- (2) 高齢者個人の加齢変化に応じた予防的健康づくり
- (3) 高齢者個人の得意分野や役割発揮の場づくり

### 2) 対象

横浜市金沢区並木地区（概ね二・三丁目）在住の独居高齢者世帯（327世帯）ならびに高齢者夫婦のみ世帯（903世帯）（平成27年度総数）

### 3) 方法

#### (1) コンセプト

横浜シーサイドライン沿線のイオンおよび周辺地域の空き店舗・空きスペースで、対象者がふらっと立ち寄り、交流することができる、自由な場。

#### (2) 展開メニュー

##### ① 食・栄養づくり

管理栄養士が担当し、料理カードによるレシピ紹介及び栄養価表示等の展示形式により、実行可能な食事習慣を身につけられるよう促すとともに、当事者の軽食時間をいかして互いの工夫メニュー等を交換する機会を設ける。

##### ② 下肢筋力強化

ロコモスキャンによる脚年齢の実測のほか、ロコトレ実践方法を提示していく。

##### ③ 認知機能（脳トレ）

当事者自身による認知機能のセルフチェックリスト及び家族や近親者によるチェックリスト、認知機能向上のための普及啓発媒体を設置する。また他者との交流の助けになるもなる脳トレグッズを設置する。

##### ④ 交流

対象地域の大判地図を用い、「どこから来ましたか」、「この地域のおすすめスポットはどこですか」等の質問に対し、付箋紙によるコメントをつけながらマッピングし、交流できるブースを設置する。

##### ⑤ 生活・健康・介護に関する総合相談（富岡東地域ケアプラザ）

専門機関への相談にまでは至らない、日常生活及び健康、介護における気がかりを気兼ねなく相談することで、問題の重症化予防ならびに潜在的なニーズの把握を可能にする。地域ケアプラザが総合相談のサテライト的機会ともなりうる。

### (3) 会場

ビアレヨコハマ1階セントラルコート

### (4) スケジュール

2018年11月28日（水）、30日（金）、12月4日（火）（概ね10:00～16:00）

#### 4) 事業評価

表 35 のとおり、全日程、計 33 名の参加者があり、来場のきっかけはイオン店内が最も多く、参加メニューは、脚年齢、栄養、交流の順となっていた。満足度については、とても満足、やや満足を合わせておおむね 7~8 割となっていた。なお、事業参加者の自由意見として、「著名な他地域の取組を連想した、今後もこの地域で取り組んで欲しい」、「参加型の事業で趣深い、一方でコツも必要だと実感した」、「認知機能の低下等が気になっても、相談できる専門機関はない、このような機会があるとよい」等がみられた。

表 35 来場者アンケート結果

質問	項目	11/28(n=7)		11/30(n=12)		12/4(n=14)		全日程(n=33)	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1)基本情報	男	2	28.6%	3	25.0%	4	28.6%	9	27.3%
	女	5	71.4%	9	75.0%	10	71.4%	24	72.7%
	年齢	77.1±6.6(68-87)		76.6±10.0(55-91)		74.0±8.5(60-89)		75.6±8.8(55-91)	
2)来場のきっかけ (複数回答)	チラシ	1	11.1%	2	18.2%	0	0%	3	9.7%
	掲示板	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	地域ケアプラザ	2	22.2%	0	0%	1	8.3%	3	9.7%
	イオン店内	6	66.7%	8	72.7%	11	91.7%	24	77.4%
	知人の紹介	0	0%	1	9.1%	0	0%	1	3.2%
3)参加メニュー (複数回答)	栄養	3	21.4%	6	25.0%	6	22.2%	15	23.1%
	脚年齢	7	50.0%	11	45.8%	13	48.1%	31	47.7%
	脳トレ	1	7.1%	2	8.3%	2	7.4%	5	7.7%
	交流	3	21.4%	5	20.8%	6	22.2%	14	21.5%
	相談	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
4)満足度	とても満足	6	75.0%	4	33.3%	3	21.4%	13	39.4%
	やや満足	1	12.5%	6	50.0%	7	50.0%	14	42.4%
	普通	0	0%	2	16.7%	3	21.4%	5	15.2%
	やや不満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	とても不満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	未回答	1	12.5%	0	0%	1	7.1%	1	3.0%
5)参加	参加したい	7	100%	11	91.7%	10	71.4%	28	84.8%
	わからない	0	0%	1	8.3%	1	7.1%	2	6.1%
	参加しない	0	0%	0	0%	3	21.4%	3	9.1%
	未回答	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6)参加したい取組	血管年齢(11/28)								
	ウォーキング、ロコモに関する催事(11/28)								
	握力測定(11/28)								
	カーブスみたいなもの筋力系(11/28)								
	血管年齢 骨測定 血圧測定(11/30)								
	筋肉量の測定(11/30)								
	健康診断を低料金で(12/4)								
	正しい姿勢を教わりたい(12/4)								
	肺活量の検査(12/4)								
	体年齢の測定(12/4)								
7)意見・感想	大変楽しかったです(11/28)								
	good!(11/28)								
	初めて足年齢測れたのでよかったです(12/4)								

## 8. 地域事業Ⅱ（ふらっとスペースなみき in イド藻公園、イガイ根公園）

### 1) 目的

金沢区並木地区における独居高齢者及び夫婦のみ高齢者世帯の社会的孤立予防にむけ、誰もが気軽に立ち寄り、交流することができるモデルプログラム「ふらっとスペースなみき」：仮称を試行するため、下記をめざすことを目的とした。

- (1) 地域の将来に必要な関係性を見極め、新たな関係性をつくる
- (2) 身体機能に応じた予防的視点を踏まえた健康情報を提供する
- (3) 身体機能が低下しても自身の得意分野や役割が発揮できる

### 2) 対象

高齢者一人暮らし、高齢者のみ世帯をベースとした多世代（自治会を含む）

### 3) 方法

下記プログラムを展開し、自由で縛りのない、ふらっと立ち寄れるスペースを創造する

- (1) オーラルフレイルチェック
- (2) ロコモチェック
- (3) カフェで脳トレ
- (4) 地図でコミュニケーション
- (5) 生活・健康・介護に関する相談（地域ケアプラザのサテライト的機能）

### 4) 体制

本プロジェクトメンバーをコアとし、今後、民生委員や地区社協、自治会等に必要な事業協力（受付やお茶出ボランティア等）を依頼する。

### 5) 会場

これまでの出会うことのなかった対象者を発掘するため、地域内の公園とする。

### 6) スケジュール

2019年11月1日（金）11：00-15：00 イド藻公園

2019年11月7日（木）11：00-15：00 イガイ根公園

### 7) 事業評価

#### (1) 各事業について

来場者アンケートでは、後期高齢期の女性の参加割合が最も高く、ひとりで参加した者が最も多かった。満足度については、とても満足、やや満足をあわせて9割を占めていた。

全日程をつうじて天候も良好であり、おおむね80名の参加者があった。オーラルフレイルチェックについては、1日目ガム消費量：32個（名）、2日目ガム消費量：58個（名）であり、事業担当者からみてこれまで接点のなかった住民層への普及啓発の機会となった。ロコモチェックについては、短時間で気軽にチェックが可能であり、関連リーフレットは理解しやすく、「ロコモを初めて聞いた」という人々もみられた。なお、体験者のうちおよそ1割がロコモに該当していた。地図でコミュニケーションについては、40数名からの回答が得られた。なお、1日目は人々の通り道に面する場所での開催であったため、11時頃に病院帰りや買物帰りの人々の立寄りがみられた一方、2日目は人通りが少ない場所での開催であったため、同地区内においてもふらっと立ち寄る通行量には乏しい場所であり、通行量や同線の確保が重要であることが認識された。

表 36 来場者アンケート結果

質問	項目	11/1 (n=12)		11/7 (n=26)		全体 (n=38)	
		人数	割合 %	人数	割合 %	人数	割合 %
1-1. 性別	男	4	33.3	5	19.2	9	23.7
	女	8	66.7	21	80.8	29	76.3
1-2. 年齢	平均±標準偏差(範囲)	77.3±6.8 (70-92)		54.0±29.8 (11-92)		61.3±27.2 (11-92)	
	<64	0	0.0	10	38.5	10	26.3
	65-74	5	41.7	7	26.9	12	31.6
	75<	7	58.3	9	34.6	16	42.1
2. 居住地	並木三丁目	8	66.7	17	65.4	25	65.8
	並木二丁目	1	8.3	1	3.8	2	5.3
	並木一丁目	1	8.3	0	0.0	1	2.6
	その他	2	16.7	4	15.4	4	10.5
	無回答	0	0.0	4	15.4	6	15.8
3. 同伴者来訪者	ひとり	7	58.3	9	34.6	16	42.1
	家族	1	8.3	2	7.7	3	7.9
	友人	1	8.3	13	50.0	14	36.8
	その他	3	25.0	1	3.8	4	10.5
	無回答	0	0.0	1	3.8	1	2.6
4. 接触媒体 (複数回答)	チラシ	5	41.7	14	53.8	16	42.1
	公園利用中	2	16.7	11	42.3	13	34.2
	掲示板	4	33.3	2	7.7	7	18.4
	地域ケアプラザ	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	回覧板	0	0.0	2	7.7	2	5.3
	その他	1	8.3	0	0.0	1	2.6
	無回答	0	0.0	1	3.8	1	2.6
5-1. 参加メニュー (複数回答)	オーラルフレイル * <sup>1</sup>	8	66.7	15	57.7	23	60.5
	ロコモ * <sup>2</sup>	9	75.0	10	38.5	19	50.0
	地図 * <sup>3</sup>	3	25.0	17	65.4	20	52.6
	カフェスペース	8	66.7	13	50.0	21	55.3
5-2. 参加メニュー数	1メニュー	3	25.0	9	34.6	12	31.6
	2メニュー	4	33.3	9	34.6	13	34.2
	3メニュー	3	25.0	4	15.4	7	18.4
	4メニュー	2	16.7	4	15.4	6	15.8
6. 満足度	とても満足	6	50.0	13	50.0	19	50.0
	やや満足	5	41.7	11	42.3	16	42.1
	やや不満	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	とても不満	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	1	8.3	2	7.7	3	7.9
7. 参加意欲	参加したい	9	75.0	16	61.5	25	65.8
	分からない	3	25.0	9	34.6	12	31.6
	参加しない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	無回答	0	0.0	1	3.8	1	2.6
8. 今後参加して みたい取り組み (自由記載)	血管年齢、体力測定						
	認知能力のテスト						
	スポーツ的なもの						
	体験できる様々な健康チェック						
9. 感想・意見 (自由記載)	もっと種類があるとよかった。いろいろ運動のものもあるとよい。 オーラルチェックは良い企画だと思います。 大変良かったです。 これから続けて下さい。 ばしょをほかにもふやしたほうがいい。たのしかった。 楽しかったです。もったいたいとおもった。  最近横浜市大、関東学院大の両大学が金沢について調査しておるようですね。金沢を調査する地域 学で、本日のような実地調査で学を延ばしながらイベントを開いて知識を広めてゆくイベントには、ぜひ 参加してみたいです。						

\* 1:オーラルフレイルチェック \* 2:ロコモチェック \* 3:地図を使った好きな場所調査

## 文献

- 1) Michael Parker DSW, BCD, LCSW, Patricia S. et al: Life-Space Approach to Functional Assessment of Mobility in the Elderly. *Journal of Gerontological Social Work*, 35(4), 35-55, 2001.
- 2) 原田和宏, 他. 介護予防事業に参加した地域高齢者における生活空間 (life-space) と点数化評価の妥当性の検討. *日本公衆衛生雑誌* 57(7), 526-537, 2010.  
<https://doi.org/10.11236/jph.57.7.526>
- 3) Sugawara N, Yasui-Furukori N, Umeda T, et al. Ankle brachial pressure index as a marker of apathy in a community-dwelling population. *Int J Geriatr Psychiatry*. 2011;26(4):409-14. doi: 10.1002/gps.2541.
- 4) 岡田和悟, 他. やる気スコアを用いた脳卒中後の意欲低下の評価. *脳卒中*, 20(3), 318-323, 1998.
- 5) NHK 放送文化研究所. 2015 年 国民生活時間調査, 2016.  
[http://www.nhk.or.jp/bunken/research/yoron/20160217\\_1.html](http://www.nhk.or.jp/bunken/research/yoron/20160217_1.html) (2018 年 5 月 18 日検索)
- 6) Kono A, Tadaka E, Kanaya Y, et al: Development of a Community commitment Scale with Cross-sectional Survey Validation for Preventing social Isolation in older Japanese People. *BioMed Central Public Health*, 4, 903-910, 2012.
- 7) Tadaka E, Kono A, Ito E, Kanaya Y, Dai Y, Imamatsu Y and Itoi W.: Development of a community's self-efficacy scale for preventing social isolation among community-dwelling older people (Mimamori Scale). *BMC Public Health*. 2016. DOI: 10.1186/s12889-016-3857-4.
- 8) J Lubben, E Blozik, G Gillmann, et al: Performance of an abbreviated version of the Lubben Social Network Scale among three European community-dwelling older adult populations. *Gerontologist*, 46, 503-513.
- 9) 栗本 鮎美, 栗田 圭一, 大久保 孝義, 他: 日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版 (LSNS-6) の作成と信頼性および妥当性の検討. *日本老年医学会雑誌*, 48 (2), 149-157, 2011.
- 10) Spladley J P: *The Ethnographic Interview*. Holt, Rinehart and Winston, Inc., 1979, NY.
- 11) 武藤正樹: QOL の概念の評価と応用. 日野原重明, 江郷洋一, 武藤正樹, 他: 薬剤 QOL の評価と応用, 52-60, メディカルレビュー社, 東京, 1997.

## IV. 総括

本事業は、2017～2019（平成 29～令和元）年度横浜市立大学地域貢献活動支援事業（協働型）として、「一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯の社会的孤立予防にむけた仕組みの開発」をテーマに、横浜市富岡東地域ケアプラザならびに横浜市立大学医学部地域看護学教室・国際総合科学部まちづくりコースにおいて関係機関等による協力のもとに実施したものである。

事業は、ニーズ調査（横浜市金沢区シーサイドタウン地区における一人暮らし高齢者等のニーズ）にもとづき、プログラムコンテンツを開発し、同コンテンツに基づきプログラムの主体、対象、方法、媒体、評価指標について検討しつつ、現実の地域に還元されるようアクションリサーチの手法を用いて実践的に進められた。

ニーズ調査においては、対象地区における地区診断、インタビュー調査、生活時間調査、GPS 調査結果について系統的に分析、統合し、本地域のニーズ（事業根拠）を明確化（見える化）することができた。またそれらニーズ（事業根拠）に基づき「ふらっとスペースなみき」のモデルプログラムを開発し、実施、評価をすることができた。

さらにはこれらの過程をとおして、横浜市富岡東地域ケアプラザ、横浜市立大学医学部地域看護学教室・国際総合科学部まちづくりコース、地域における関係機関、関係者との協働の機会となり、互いに顔の見える関係づくりや今後の地域における事業展開の基盤となるネットワークが形成された。

アクションリサーチによる地域づくりのプログラムは、評価方法も確立しているとは言い難い。そのような中で本研究事業は、言わば、手探りで、眼前のコミュニティが抱える課題を探り、また地域にとって最も適した形で新たな資源としてのプログラムが開発されるよう挑戦したものである。よって方法妥当性の検証や知見の一般化など、残された課題はそれなりにある。

しかしながら、本事業から得られた一人暮らし高齢者等の社会的孤立予防に向けた「ふらっとスペースなみき」のモデルフレームワークは、当該地域はもとより、わが国の都市団地型小規模コミュニティにおける一人暮らし高齢者等の社会的孤立予防に向けた実践に多くの示唆を与えるものと考えられる。

最後に、本事業にご協力を賜りました関係各位に心より感謝申し上げるとともに、本報告についてご批判を賜れば、幸いである。

田高 悦子

## 事業体制

### I. 活動組織

#### 事業代表者

横浜市富岡東地域ケアプラザ 所長 成田 真一

#### 事業担当者

同上 主任ケアマネージャー 栗田 理絵  
地域活動交流コーディネーター 久保田 真理菜  
社会福祉士 土屋 環・小林 啓治郎  
前所長 金山 毅  
前看護師 後藤 三枝子  
前生活支援コーディネーター 三留 健史  
前社会福祉士 赤坂 京子  
前地域活動交流コーディネーター 杉山 浩美

#### 事業分担者

横浜市立大学医学部地域看護学教室 教授 田高 悦子  
准教授 有本 梓  
助教 伊藤 絵梨子・白谷 佳恵  
助手 小野田 真由美  
横浜市立大学国際総合科学部まちづくりコース 准教授 中西 正彦  
准教授 三輪 律江

#### 事業調整者

横浜市立大学企画財務課地域貢献担当 副課長 金井 国明  
担当職員 波利摩 未香

#### 事業協力者

横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野大学院生 赤塚 永貴・椛島 優莉・新藤 由香

#### 事業補助者

横浜市立大学医学部地域看護学教室秘書・ゼミ生  
横浜市立大学国際総合学部まちづくりコースゼミ生

### II. 活動財源

1. 横浜市立大学教員地域貢献活動支援事業費（総額：3,660,000円）
2. 日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究（A）田高悦子（研究代表者）：独居高齢者の社会的孤立予防に向けた民産官学共創 GP モデルの構築と社会実装研究（総額 32,000,000円）

### III. 活動発表

1. 伊藤 絵梨子, 田高 悦子, 白谷 佳恵, 有本 梓, 小野田 真由美：都市部と農村部における高齢夫婦のみ世帯の地域との関係性の意味, 第22回日本地域看護学会学術集会.
2. 白谷 佳恵, 田高 悦子, 伊藤 絵梨子, 有本 梓, 小野田 真由美：都市部団地における一人暮らし高齢者の地域との関係性の意味：プライマリーイン フォーマントインタビューより, 第22回日本地域看護学会学術集会.
3. 白谷 佳恵, 伊藤 絵梨子, 有本 梓, 田高 悦子：都市部団地に居住する高齢者のみ世帯の生活時間・生活空間・生活行動, 第78回日本公衆衛生学会総会.

## 付録

- 付録 1-1 地域ニーズ調査Ⅰ（地域診断）の基礎資料とする既存指標（横浜市）
- 付録 1-2 地域ニーズ調査Ⅰ（地域診断）の基礎資料とする既存指標（金沢区）
- 付録 1-3 地域ニーズ調査Ⅰ（地域診断）の基礎資料とする既存指標（並木 2・3 丁目）
  
- 付録 2-1 地域ニーズ調査Ⅱ 手順書
- 付録 2-2 地域ニーズ調査Ⅱ 調査概要
- 付録 2-3 地域ニーズ調査Ⅱ 調査表
- 付録 2-4 地域ニーズ調査Ⅱ GPS 端末の使用方法
- 付録 2-5 地域ニーズ調査Ⅱ 生活時間調査
  
- 付録 3-1 地域ニーズ調査Ⅲ インタビューガイド
  
- 付録 4-1 地域ニーズ調査Ⅳ 計画書
- 付録 4-2 地域ニーズ調査Ⅳ 調査概要（インタビュー調査へのご協力のお願い）
- 付録 4-3 地域ニーズ調査Ⅳ 資料 1-1（地域ニーズ調査Ⅱ結果概要）
- 付録 4-4 地域ニーズ調査Ⅳ 資料 1-2（地域事業Ⅰ報告）
- 付録 4-5 地域ニーズ調査Ⅳ インタビューガイド
  
- 付録 5-1 地域事業Ⅰ 事業計画案
- 付録 5-2 地域事業Ⅰ 商業施設への依頼
- 付録 5-3 地域事業Ⅰ 広報チラシ
- 付録 5-4 地域事業Ⅰ 会場レイアウト
- 付録 5-5 地域事業Ⅰ 来場者アンケート票
- 付録 5-6 地域事業Ⅰ 実施後報道
- 付録 5-7 地域事業Ⅰ 横浜金沢シーサイドエリアマネジメント協議会報告資料
  
- 付録 6-1 地域事業Ⅱ 広報チラシ（対象地域全戸配布）
- 付録 6-2 地域事業Ⅱ 来場者アンケート票
- 付録 6-3 地域事業Ⅱ 記者発表
- 付録 6-4 地域事業Ⅱ 実施後報道Ⅱ
  
- 付録 7-1 活動発表資料 並木ラボ 2018 発表会
- 付録 7-2 活動発表資料 第 22 回日本地域看護学会学術集会
- 付録 7-3 活動発表資料 第 22 回日本地域看護学会学術集会
- 付録 7-4 活動発表資料 第 78 回日本公衆衛生学会総会
  
- 付録 8-1 写真 地域事業Ⅰ 商業施設内候補場
- 付録 8-2 写真 地域事業Ⅰ 実施写真（2018 年 12 月 4 日）
- 付録 8-3 写真 地域事業Ⅱ 実施写真（2019 年 11 月 1 日）
- 付録 8-4 写真 地域事業Ⅱ 実施写真（2019 年 11 月 7 日）

表 1-1 地域ニーズ調査 I (地域診断)の基盤資料とする既存指標(横浜市)

領域	指標	定義	横浜市		
			国勢調査	横浜市統計ポータルサイト	金沢区HP
<b>1. 人口</b>					
	①総数	人口の総数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103&amp;classID=0001001077452&amp;cycleCode=0&amp;requestSender=estat">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103&amp;classID=0001001077452&amp;cycleCode=0&amp;requestSender=estat</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/warid/kanazawa.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/warid/kanazawa.html</a>
	②年齢階級別人口・構成割合	年齢各歳別及び5歳階級別の人口数、構成割合(%)			
	③男女別人口・構成割合	男女別の人口数、構成割合(%)			
	④移動人口	住所変更の伴う移動における人口数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/G">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/G</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/keyword">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/keyword</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/d">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/d</a>
<b>2. 世帯</b>					
	①総数	世帯の総数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103&amp;classID=000107452&amp;cycleCode=0&amp;requestSender=estat">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103&amp;classID=000107452&amp;cycleCode=0&amp;requestSender=estat</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/index2.html#1">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/index2.html#1</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/somu/tokai/saijyo_file/pdf/toukyouyouren2016-2011.pdf">http://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/somu/tokai/saijyo_file/pdf/toukyouyouren2016-2011.pdf</a>
	②世帯構造別世帯数	単身～三世帯世帯等(または世帯人員1人～11人以上世帯)ごとの数			
	③平均世帯人員数	一世帯あたりの平均人員数			
<b>3. 65歳以上の者のいる世帯</b>					
	①総数	65歳以上の者のいる世帯の総数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103&amp;classID=0001001082334&amp;cycleCode=0">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103&amp;classID=0001001082334&amp;cycleCode=0</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/index2.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/index2.html</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/kz-oppendata/data/22-kz-">http://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/kz-oppendata/data/22-kz-</a>
	②世帯構造別世帯数	65歳以上の者のいる世帯における単身～三世帯世帯等(または1人～11人以上)ごとの数			
	③平均世帯人員数	65歳以上の者のいる世帯における一世帯あたりの平均人員数			
<b>4. 就学前の子どもがいる世帯</b>					
	①総数	就学前の子どもがいる世帯の総数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103&amp;classID=0001001077452&amp;cycleCode=0&amp;requestSender=estat">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103&amp;classID=0001001077452&amp;cycleCode=0&amp;requestSender=estat</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/index2.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/index2.html</a>	
	②世帯構造別世帯数	就学前の子どもがいる世帯における単身～三世帯世帯等(または1人～11人以上)ごとの数			
	③平均世帯人員数	就学前の子どもがいる世帯における一世帯あたりの平均人員数			
<b>5. 出生及び死亡</b>					
	①出生数・率	1年間の出生及び死産の数、合計特殊出生率	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/LU08020103.do?_toLU08020103&amp;classID=0001001077452&amp;cycleCode=0">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/LU08020103.do?_toLU08020103&amp;classID=0001001077452&amp;cycleCode=0</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/words/k-shususe.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/words/k-shususe.html</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/som">http://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/som</a>
	②出生順位別出生数	第1子～第5子以上ごとの出生数			
	③死亡数・死亡率	1年間の死亡の数及び人口10万対死亡数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/LU08020103.do?_toLU08020103&amp;classID=0001001077452&amp;cycleCode=0">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/LU08020103.do?_toLU08020103&amp;classID=0001001077452&amp;cycleCode=0</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/words/k-shibou.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/words/k-shibou.html</a>	
	④死因別死亡数	主要死因における死亡数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/LU08020103.do?_toLU08020103&amp;classID=0001001077452&amp;cycleCode=0">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/LU08020103.do?_toLU08020103&amp;classID=0001001077452&amp;cycleCode=0</a>		
<b>6. 介護保険</b>					
	①介護保険被保険者数	介護保険1号被保険者及び2号被保険者の数	<a href="http://www.mhw.go.jp/topics/kaigo/osirase/36yo/m17/1701.html">http://www.mhw.go.jp/topics/kaigo/osirase/36yo/m17/1701.html</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/words/k-kaigoken.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/words/k-kaigoken.html</a>	
	②介護保険認定者数	介護保険要支援1～要介護5の認定を受けている者の数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/LU08020103.do?_toLU08020103&amp;classID=0001001077452&amp;cycleCode=0">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/LU08020103.do?_toLU08020103&amp;classID=0001001077452&amp;cycleCode=0</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/som">http://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/som</a>	
	③介護度別認定者数	要支援1～要介護5ごとの認定者数			
	④要介護原因	要介護に至った主要な疾患・障害		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/somu/tokai/saijyo_file/pdf/toukyouyouren2016-2011.pdf">http://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/somu/tokai/saijyo_file/pdf/toukyouyouren2016-2011.pdf</a>	
<b>7. 住居</b>					
	①種別住居数	住居における独立/集合/併用等の数	収載	収載	
	②所有別住居数	住居における持ち家/賃貸/社宅等の数	収載	収載	
	③居住歴	現在の住所地に定住した年数			
<b>8. 住宅</b>					
	①構造別棟数	住宅における耐火/準耐火/木造等の数			
	②種類別棟数	住宅における独立/集合/併用等の数			
	③種類別住宅率	全住宅数における各種別住宅の比率			
<b>9. 高齢者のための設備状況別住宅数</b>					
	①住宅改修補助金対象件数	介護保険または障害、震災等により必要な住宅改修にかかる補助金の対象となった件数			
	②手すりのある住宅数	玄関・トイレ・浴室・脱衣所・廊下・階段・居住室・他に手すりを設置している住宅の数			
	③段差のない住宅数	屋内に段差のない住宅の数			
<b>10. 住環境評価1(生活サービスの状況、主要施設の分布状況-名称、住所、あればGISデータ)</b>					
	①福祉施設数・分布・密度分布	地域包括支援センター(ケアプラザ)、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、高齢者グループホーム、訪問看護ステーション、診療所(内科・歯科)、病院、老人福祉センターほかにおける分類ごとの施設数、町丁目(および徒歩圏)の施設密度			
	②生活利便施設数・分布・密度	駅、商店・個店・大規模等の種別、郵便局、地区センター、集会所・町内会館などにおける分類ごとの施設数、町丁目(および徒歩圏)の施設密度			
	③余暇施設数・分布・密度	公園・緑地ほかにおける分類ごとの施設数、町丁目(および徒歩圏)の施設密度			
<b>11. 住環境評価2(インフラや市街地の空間性能、GIS分析による移動ハザード・周辺の使いこなし評価)</b>					
	①最寄り駅からの距離	最寄り駅重心-町丁目重心の距離			
	②地形1(交通機関との関係)	最寄り駅重心-町丁目平均標高の高低差			
	③地形2(地区内の地形)	町丁目の最高-最低標高の差			
	④道路率	道路面積/地区面積、地区面積における道路面積の比率			
	⑤用途別土地利用	地区面積における独立/集合/併用別の土地面積の比率			
	⑥用途別容積率	独立/集合/併用別の容積率			
<b>12. 市民・区民意識調査、事業報告書等</b>					
	①市民意識調査	市民の日常生活を意図と行動の両面からとらえ、市民の生活意識や生活構造を明らかにし、市政運営や政策立案の基礎資料とするため横浜市が毎年実施する調査		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/saishin/2016/20160101.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/saishin/2016/20160101.html</a>	
	②区民意識調査	区民の日常生活や区政への意見をとりえ、区民ニーズに即した行政サービスの提供やまちづくり整備事業推進等の基礎資料とするため金沢区が実施する調査			
	③他調査	社会生活基本調査、自治会町内会実態調査、横浜市高齢者実態調査等		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/2016/20160101.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/2016/20160101.html</a>	
	④事業報告	地区において実施される事業についての年度報告			
<b>13. その他</b>					
	①自治会加入率	地区住民における自治会加入者の比率		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/2016/20160101.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/2016/20160101.html</a>	
	②認知症自立度	認知症高齢者の日常生活自立度、認知症の方にかかる介護の度合いをレベルごとに分類			

表1-2 地域ニーズ調査 I (地域診断) の基盤資料とする既存指標(金沢区)

領域	指標	定義	金沢区	
			国勢調査	横浜市統計ポータルサイト
<b>1. 人口</b>				
	①総数	人口の総数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/G/001082834/cycleCode=0&amp;requestSender=estat">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/G/001082834/cycleCode=0&amp;requestSender=estat</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	②年齢階級別人口・構成割合	年齢各歳別及び5歳階級別の人口数、構成割合(%)		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	③男女別人口・構成割合	男女別の人口数、構成割合(%)		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	④移動人口	住所変更の伴う移動における人口数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/Li">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/Li</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
<b>2. 世帯</b>				
	①総数	世帯の総数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/G/001082834/cycleCode=0&amp;requestSender=estat">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/G/001082834/cycleCode=0&amp;requestSender=estat</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	②世帯構造別世帯数	単身～三世帯世帯等(または世帯人員1人～11人以上世帯)ごとの数		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	③平均世帯人員数	一世帯あたりの平均人員数		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
<b>3. 65歳以上の者のいる世帯</b>				
	①総数	65歳以上の者のいる世帯の総数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/G/001082834/cycleCode=0&amp;requestSender=estat">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/G/001082834/cycleCode=0&amp;requestSender=estat</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	②世帯構造別世帯数	65歳以上の者のいる世帯における単身～三世帯世帯等(または1人～11人以上)ごとの数		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	③平均世帯人員数	65歳以上の者のいる世帯における一世帯あたりの平均人員数		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
<b>4. 就学前の子どもがいる世帯</b>				
	①総数	就学前の子どもがいる世帯の総数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/G/001082834/cycleCode=0&amp;requestSender=estat">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/G/001082834/cycleCode=0&amp;requestSender=estat</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	②世帯構造別世帯数	就学前の子どもがいる世帯における単身～三世帯世帯等(または1人～11人以上)ごとの数		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	③平均世帯人員数	就学前の子どもがいる世帯における一世帯あたりの平均人員数		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
<b>5. 出生及び死亡</b>				
	①出生数・率	1年間の出生及び死産の数、合計特殊出生率	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/G/001082834/cycleCode=0&amp;requestSender=estat">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/G/001082834/cycleCode=0&amp;requestSender=estat</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	②出生順位別出生数	第1子～第5子以上ごとの出生数		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	③死亡数・死亡率	1年間の死亡の数及び人口10万対死亡数		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	④死因別死亡数	主要死因における死亡数		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
<b>6. 介護保険</b>				
	①介護保険被保険者数	介護保険1号被保険者及び2号被保険者の数		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	②介護保険認定者数	介護保険要支援1～要介護5の認定を受けている者の数		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	③介護度別認定者数	要支援1～要介護5ごとの認定者数		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
	④要介護原因	要介護に至った主要な疾患・障害		<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/estat/kyow</a>
<b>7. 住居</b>				
	①種別住居数	住居における独立/集合/併用等の数	×	×
	②所有別住居数	住居における持ち家/賃貸/社宅等の数	×	×
	③居住歴	現在の住所地に定住した年数	×	×
<b>8. 住宅</b>				
	①構造別棟数	住宅における耐火/準耐火/木造等の数	×	×
	②種類別棟数	住宅における独立/集合/併用等の数	×	×
	③種類別住宅率	全住宅数における各種別住宅の比率	×	×
<b>9. 高齢者のための設備状況別住宅数</b>				
	①住宅改修補助金対象件数	介護保険または障害、震災等により必要な住宅改修にかかる補助金の対象となった件数	×	×
	②手すりのある住宅数	玄関・トイレ・浴室・畳衣所・廊下・階段・居住室・その他に手すりを設置している住宅の数	×	×
	③段差のない住宅数	屋内に段差のない住宅の数	×	×
<b>10. 住環境評価1(生活サービスの状況、主要施設の分布状況-名称、住所、あればGISデータ)</b>				
	①福祉施設数・分布・密度分布	地域包括支援センター(ケアプラザ)、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、高齢者グループホーム、訪問看護ステーション、診療所(内科・歯科)、病院、老人福祉センターほかにおける分類ごとの施設数、町丁目(および徒歩圏)の施設密度	×	×
	②生活利便施設数・分布・密度	駅、商店・個店・大規模等の種別、郵便局、地区センター、集会所・町内会館などにおける分類ごとの施設数、町丁目(および徒歩圏)の施設密度	×	×
	③余暇施設数・分布・密度	公園・緑地ほかにおける分類ごとの施設数、町丁目(および徒歩圏)の施設密度	×	×
<b>11. 住環境評価2(インフラや市街地の空間性能、GIS分析による移動ハザード・周辺の使いこなし評価)</b>				
	①最寄り駅からの距離	最寄り駅重心-町丁目重心の距離	×	×
	②地形1(交通機関との関係)	最寄り駅重心-町丁目平均標高の高低差	×	×
	③地形2(地区内の地形)	町丁目の最高-最低標高の差	×	×
	④道路率	道路面積/地区面積、地区面積における道路面積の比率	×	×
	⑤用途別土地利用	地区面積における独立/集合/併用別の土地面積の比率	×	×
	⑥用途別容積率	独立/集合/併用別の容積率	×	×
<b>12. 市民・区民意識調査、事業報告書等</b>				
	①市民意識調査	市民の日常生活を意識と行動の両面からとらえ、市民の生活意識や生活構造を明らかにし、市政運営や政策立案の基礎資料とするため横浜市が毎年実施する調査	×	×
	②区民意識調査	区民の日常生活や区政への意見をとらえ、区民ニーズに即した行政サービスの提供やまちづくり整備事業推進等の基礎資料とするため金沢区が実施する調査	×	×
	③他調査	社会生活基本調査、自治会町内会実態調査、横浜市高齢者実態調査等	×	×
	④事業報告	地区において実施される事業についての年度報告	×	×
<b>13. その他</b>				
	①自治会加入率	地区住民における自治会加入者の比率	×	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/tshin/tshin_tyosa.pdf">http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/tshin/tshin_tyosa.pdf</a>
	②認知症自立度	認知症高齢者の日常生活自立度、認知症の方にかかる介護の度合いをレベルごとに分類	×	×

表1-3 地域ニーズ調査 I (地域診断)の基盤資料とする既存指標(並木2・3丁目)

領域	指標	定義	並木2・3丁目		
			国勢調査	横浜統計ポータルサイト	金沢区HP
<b>1. 人口</b>					
	①総数	人口の総数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/G/L08020103_d07.toGL08020103_&amp;classID=00001082834&amp;cycleCode=0&amp;requestSenderCest=at">http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/G/L08020103_d07.toGL08020103_&amp;classID=00001082834&amp;cycleCode=0&amp;requestSenderCest=at</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/c">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/c</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/ward/k">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/ward/k</a>
	②年齢階級別人口・構成割合	年齢各歳別及び5歳階級別の人口数、構成割合(%)	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/cyocy/c/kanazawa.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/cyocy/c/kanazawa.html</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/cyocy/c/kanazawa.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/cyocy/c/kanazawa.html</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/ward/k">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/ward/k</a>
	③男女別人口・構成割合	男女別の人口数、構成割合(%)	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/c">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/c</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/c">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/c</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/ward/k">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/ward/k</a>
	④移動人口	住所変更の伴う移動における人口数	<a href="http://www.e-stat.go.jp">http://www.e-stat.go.jp</a>	X	X
<b>2. 世帯</b>					
	①総数	世帯の総数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/G/L08020103_d07.toGL08020103_&amp;classID=00001082834&amp;cycleCode=0&amp;requestSenderCest=at">http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/G/L08020103_d07.toGL08020103_&amp;classID=00001082834&amp;cycleCode=0&amp;requestSenderCest=at</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/cho/new/kanazawa.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/cho/new/kanazawa.html</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/som">http://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/som</a>
	②世帯構造別世帯数	単身～三世帯世帯等(または世帯人員1人～11人以上世帯)ごとの数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/G/L08020103_d07.toGL08020103_&amp;classID=00001082834&amp;cycleCode=0&amp;requestSenderCest=at">http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/G/L08020103_d07.toGL08020103_&amp;classID=00001082834&amp;cycleCode=0&amp;requestSenderCest=at</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/cho/new/kanazawa.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/cho/new/kanazawa.html</a>	X
	③平均世帯人員数	一世帯あたりの平均人員数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/G/L08020103_d07.toGL08020103_&amp;classID=00001082834&amp;cycleCode=0&amp;requestSenderCest=at">http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/G/L08020103_d07.toGL08020103_&amp;classID=00001082834&amp;cycleCode=0&amp;requestSenderCest=at</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/cho/new/kanazawa.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/cho/new/kanazawa.html</a>	X
<b>3. 65歳以上の者のいる世帯</b>					
	①総数	65歳以上の者のいる世帯の総数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/G/L08020103_d07.toGL08020103_&amp;classID=00001082834&amp;cycleCode=0&amp;requestSenderCest=at">http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/G/L08020103_d07.toGL08020103_&amp;classID=00001082834&amp;cycleCode=0&amp;requestSenderCest=at</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/cho/new/kanazawa.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/cho/new/kanazawa.html</a>	X
	②世帯構造別世帯数	65歳以上の者のいる世帯における単身～三世帯世帯等(または1人～11人以上)ごとの数	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/cyocy/c/kanazawa.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/cyocy/c/kanazawa.html</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/cyocy/c/kanazawa.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/cyocy/c/kanazawa.html</a>	X
	③平均世帯人員数	65歳以上の者のいる世帯における一世帯あたりの平均人員数	X	X	X
<b>4. 就学前の子どもがいる世帯</b>					
	①総数	就学前の子どもがいる世帯の総数	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/G/L08020103_d07.toGL08020103_&amp;classID=00001082834&amp;cycleCode=0&amp;requestSenderCest=at">http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/G/L08020103_d07.toGL08020103_&amp;classID=00001082834&amp;cycleCode=0&amp;requestSenderCest=at</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/cho/new/kanazawa.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/cho/new/kanazawa.html</a>	X
	②世帯構造別世帯数	就学前の子どもがいる世帯における単身～三世帯世帯等(または1人～11人以上)ごとの数	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/cyocy/c/kanazawa.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/cyocy/c/kanazawa.html</a>	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/cyocy/c/kanazawa.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/cyocy/c/kanazawa.html</a>	X
	③平均世帯人員数	就学前の子どもがいる世帯における一世帯あたりの平均人員数	X	X	X
<b>5. 出生及び死亡</b>					
	①出生数・率	1年間の出生及び死産の数、合計特殊出生率	X	<a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/cyo">http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/cyo</a>	X
	②出生順位別出生数	第1子～第5子以上ごとの出生数	X	X	X
	③死亡数・死亡率	1年間の死亡の数及び人口10万対死亡数	X	X	X
	④死因別死亡数	主要死因における死亡数	X	X	X
<b>6. 介護保険</b>					
	①介護保険被保険者数	介護保険1号被保険者及び2号被保険者の数	X	X	X
	②介護保険認定者数	介護保険要支援1～要介護5の認定を受けている者の数	X	X	X
	③介護度別認定者数	要支援1～要介護5ごとの認定者数	X	X	X
	④要介護原因	要介護に至った主要な疾患・障害	X	X	X
<b>7. 住居</b>					
	①種別住居数	住居における独立／集合／併用等の数	収載	収載	X
	②所有別住居数	住居における持ち家／賃貸／宅等の数	収載	収載	X
	③居住歴	現在の住所地に定住した年数	X	X	X
<b>8. 住宅</b>					
	①構造別棟数	住宅における耐火／準耐火／木造等の数	X	X	X
	②種類別棟数	住宅における独立／集合／併用等の数	X	X	X
	③種類別住宅率	全住宅数における各種別別住宅の比率	X	X	X
<b>9. 高齢者のための設備状況別住宅数</b>					
	①住宅改修補助金対象件数	介護保険または障害、震災等により必要な住宅改修にかかる補助金の対象となった件数	X	X	X
	②手すりのある住宅数	玄関・トイレ・浴室・脱衣所・廊下・階段・居住室・その他に手すりを設置している住宅の数	X	X	X
	③段差のない住宅数	屋内に段差のない住宅の数	X	X	X
<b>10. 住環境評価1(生活サービスの状況、主要施設の分布状況-名称、住所、あればGISデータ)</b>					
	①福祉施設数・分布・密度分布	地域包括支援センター(ケアプラザ)、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、高齢者グループホーム、訪問看護ステーション、診療所(内科・歯科)、病院、老人福祉センターほかにおける分類ごとの施設数、町丁目(および徒歩圏)の施設密度	X	X	X
	②生活利便施設数・分布・密度	駅、商店・個店・大規模等の種別、郵便局、地区センター、集会所・町内会館などにおける分類ごとの施設数、町丁目(および徒歩圏)の施設密度	X	X	X
	③余暇施設数・分布・密度	公園・緑地ほかにおける分類ごとの施設数、町丁目(および徒歩圏)の施設密度	X	X	X
<b>11. 住環境評価2(インフラや市街地の空間性能、GIS分析による移動ハザード・周辺の使いこなし評価)</b>					
	①最寄り駅からの距離	最寄り駅重心-町丁目重心の距離	X	X	X
	②地形1(交通機関との関係)	最寄り駅重心-町丁目平均標高の高低差	X	X	X
	③地形2(地区内の地形)	町丁目の最高-最低標高の差	X	X	X
	④道路率	道路面積/地区面積、地区面積における道路面積の比率	X	X	X
	⑤用途別土地利用	地区面積における独立／集合／併用別の土地面積の比率	X	X	X
	⑥用途別容積率	独立／集合／併用別の容積率	X	X	X
<b>12. 市民・区民意識調査、事業報告書等</b>					
	①市民意識調査	市民の日常生活を意識と行動の両面からとらえ、市民の生活意識や生活構造を明らかにし、市政運営や政策立案の基礎資料とするため横浜市の各行政区が毎年実施する調査	X	X	X
	②区民意識調査	区民の日常生活や区政への意見をとらえ、区民ニーズに即した行政サービスの提供やまちづくり整備事業推進等の基礎資料とするため金沢区が実施する調査	X	X	X
	③他調査	社会生活基本調査、自治会町内会実態調査、横浜市高齢者実態調査等	X	X	X
	④事業報告	地区において実施される事業についての年度報告	X	X	X
<b>13. その他</b>					
	①自治会加入率	地区住民における自治会加入者の比率	X	X	X
	②認知症自立度	認知症高齢者の日常生活自立度、認知症の方にかかる介護の度合いをレベルごとに分類	X	X	X

## 地域ニーズ調査Ⅱ 手順書 (2017 年 10 月)

<b>事項</b> <b>持参物</b>	<b>プライマリーインフォーマント</b> 一人暮らし高齢者および夫婦のみ高齢者世帯高齢者
<b>Day 1</b> <b>調査説明</b>  <b>持参物</b> ・封筒 (説明書・調査票・ 電池) ・GPS 端末	<p>① 調査説明〔資料 1〕          調査説明書を用い、調査目的、依頼内容、注意事項、問合先等を説明し、調査への協力についての同意を確認する。</p> <p>② 質問紙調査〔資料 2〕(※夫婦のみ世帯:2 部、一人暮らし世帯:1 部)          調査票を渡し、可能な範囲でご回答いただき、無記名のまま保管いただくよう伝える。</p> <p>③ GPS 調査〔資料 3〕          調査員は GPS 端末(GARMIN Foretrex301)の電源を入れ作動を確認し、対象者にその場で腕に装着してもらう。対象者には、調査員が回収に来るまで、入浴以外の時間には装着するように伝える。また翌朝には単 4 電池 2 本を入れ替え、電源を入れるよう伝え、電池の交換方法、電源の入れ方について説明する。</p>
<b>Day 2</b> <b>調査実施/回収</b>  <b>持参物</b> ・IC レコーダ 2 台 ・レコーダ用電池 ※予備として以下 ・封筒 (説明書・調査票・ 電池) ・GPS 端末	<p>① GPS 調査【確認】          GPS 端末を回収し、ログが残されているかを確認する。残されていない場合は、GPS 調査(生活時間調査の聴取)を再依頼し、訪問日を調整する。          &lt;ログの確認方法&gt;          page/goto ボタン 3 回→トラック→トラックイチラン→キセキホゾン→当該日選択→BEGIN,END、左下に距離が表示されているか確認する。          (選択ボタンは enter/mark、戻るボタンは page/goto)</p> <p>② 質問紙調査【確認】          回答状況を確認し、未記入、不明瞭な項目について聞き取り記入する。聞き取りは、質問紙と一緒に確認しながら、質問文の内容と選択肢を読み上げ選んでいただく。          注1) 迷っている場合や考えこんでいる場合は「思った通りに(直感で)お答えいただいて結構です」と声をかける。          注2) 選択肢 2 つの間で迷っている場合は、「どちらかといえば?」と尋ねる。なお回答が難しい場合は、望ましくない方(調査者にとって不利になる方向)の選択肢を記入する。例)質問:何事にも無関心ですか? 選択肢:「少しそうである」/「かなりそうである」の場合→「かなりそうである」が選択肢となる。</p> <p>③ 生活時間調査〔資料 4〕          GPS を装着してからの 1 日の行動について順に尋ねていく。その際、参考項目をもとに記入する。同時に複数の行動を行った場合は、複数の内容を記入する(記入例を参照)。</p>

**富岡東ケアプラザ**  
**‘並木集いの場（仮称）’ づくりにむけた**  
**ニーズ調査へのご協力のお願い**

このたび富岡東地域ケアプラザでは、並木2・3丁目にお住まいの高齢者の皆様方が住みなれた地域で生き生きとその人らしい生活を過ごせるよう、気軽に立ち寄り、集うことができる場の一つとして、‘並木集いの場（仮称）’ づくり事業に横浜市立大学と協働で取り組むこととなりました。

つきましては、本事業の計画に参考とするため、現在、並木2・3丁目にお住まいの高齢者の方々に下記の調査を行わせていただきたくお願い申し上げます。ご多忙のところ、誠に恐縮ですが、事業の趣旨をご理解いただき、ご協力をいただけますようお願いいたします。

調査概要

1.目的

並木2・3丁目にお住まいの高齢者の皆様方が気軽に立ち寄り、集うことができる、‘並木集いの場（仮称）’ づくり事業にむけた基礎資料とするため

2.対象

並木2・3丁目にお住まいの高齢者の方々に本事業にご協力いただける方々

3.方法

- 1) アンケート（現在の健康状態や生活環境など）
- 2) インタビュー（一日の生活時間の過ごし方や地域に対する印象など）
- 3) GPS（ジーピーエス）（小型機器の装着による一日の大まかな移動範囲）

4.手順

- 1 日目にアンケートとGPSをお届けいたします。
- 2 日目にアンケートとGPSの回収及びインタビューを行わせていただきます

5.注意事項

- ・本調査の協力は自由です。協力したくない場合は辞退できます。その場合にも不利益が生じることは一切ございません。
- ・本調査はすべて無記名で行います。また個人情報にかかわる内容はすべて記号とし、横浜市立大学で統計処理を行います。
- ・インタビューの内容（音声）は後で書き起こしをするため、ご許可を得た上でICレコーダーで録音させていただきます。
- ・本調査は、ケアプラザや関連学会等の学術的な場で公表させていただきますが、個人が特定されることは一切ありません。

ご協力いただける場合は、下記に  を付けてください。

調査に協力します

お問い合わせ・連絡先

- 富岡東地域ケアプラザ 電話：045-776-2030 FAX：045-770-5010  
〒236-0051 横浜市金沢区富岡東 4-13-3
- 横浜市立大学医学部地域看護学教室 電話・FAX：045-787-2973  
〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦 3-9



8. 現在のお住まいの居住年数を教えてください。 ( ) 年

9. 1週間のなかで、どれくらい外出していますか。当てはまると思うもの1つに○をつけてください。「外出」には、隣近所へ行く、買い物、通院なども含みます。

- ① 毎日1回以上      ② 2・3日に1回程度      ③ 1週間に1回程度  
④ ほとんどない

10. 現在、お仕事をされていますか。 ①している      ②していない

↓  
お仕事の形態について教えてください。

- ①フルタイム      ②パートタイム      ③その他 ( )

2 各項目についてあなたの考えに最も近いと思う番号に○を1つつけて下さい。

項目	全く 思わない	あまり 思わない	やや そう思う	とても そう思う
1. この地域の人々は日頃から互いに気づかったり、声をかけ合っている	0	1	2	3
2. この地域の人々は困った時は助けてくれる	0	1	2	3
3. 地域の人たちと過ごす時間は楽しい	0	1	2	3
4. この地域の人々はよくあいさつをしている	0	1	2	3
5. 地域での人づきあいはわずらわしい	0	1	2	3
6. 地域の人のことについては関心がない	0	1	2	3
7. 町内会(自治会)などに行くと役割が増えそうで気が重い	0	1	2	3
8. 私はこの地域の一員とは感じられない	0	1	2	3

**3 各質問についてあなたの考えに最も近いと思う番号1つに○を付けて下さい。**

項目	全く自信がない	あまり自信がない	やや自信がある	大変自信がある
1. 近所の人気が楽に集まる場を作ることができる	0	1	2	3
2. 周囲の住民に近所の集まりに出るように誘うことができる	0	1	2	3
3. 町内会の活動、奉仕活動などに参加することができる	0	1	2	3
4. 気になる住民のことを町内会（自治会）や役所等の会議で話し合うことができる	0	1	2	3
5. 近所の高齢者の顔を二、三日見ないときは声をかけることができる	0	1	2	3
6. 近所の高齢者の買い物やごみ出しなどを手助けすることができる	0	1	2	3
7. 人の気配や物音が全くしない隣近所の家は状況を確認することができる	0	1	2	3
8. 隣近所で見知らぬ人を見かけたら、一声かけることができる	0	1	2	3

**4 この1か月間の生活について、最も当てはまるものをお選びください。**

<b>1</b>	<u>自宅内で寝ている場所以外の部屋</u> に行きましたか	① はい	② いいえ→2へ
	「①はい」のかたは、1)～3)にお答えください		
	1) 何回行きましたか	① 週1回未満 ③ 週4～6回	② 週1～3回 ④ 毎日
	2) 補助具(杖など)を使いましたか	① はい	② いいえ
	3) 他者の助けが必要でしたか	① はい	② いいえ
<b>2</b>	玄関外、ベランダ、中庭、外廊下、車庫、庭または敷地内の通路などの <u>自宅の外</u> に出ましたか	① はい	② いいえ→3へ
	「①はい」のかたは、1)～3)にお答えください		
	1) 何回行きましたか	① 週1回未満 ③ 週4～6回	② 週1～3回 ④ 毎日
	2) 補助具(杖など)を使いましたか	① はい	② いいえ
	3) 他者の助けが必要でしたか	① はい	② いいえ

3	自宅の庭またはマンションの建物以外の <u>近隣の場所</u> (徒歩約 10 分)に外出しましたか 「①はい」のかたは、1)～3)にお答えください	① はい	② いいえ→4へ
	1) 何回行きましたか	① 週1回未満 ③ 週4～6回	② 週1～3回 ④ 毎日
	2) 補助具(杖など)を使いましたか	① はい	② いいえ
	3) 他者の助けが必要でしたか	① はい	② いいえ
4	お住まいの町内(徒歩 10 分以上～電車・バスで 約 20 分未満)に外出しましたか 「1 はい」のかたは 1)～3)にお答えください	① はい	② いいえ→5へ
	1) 何回行きましたか	① 週1回未満 ③ 週4～6回	② 週1～3回 ④ 毎日
	2) 補助具(杖など)を使いましたか	① はい	② いいえ
	3) 他者の助けが必要でしたか	① はい	② いいえ
5	お住まいの町外(電車・バスで約 20 分以上)に 外出しましたか 「①はい」のかたは 1)～3)にお答えください	① はい	② いいえ→5へ
	1) 何回行きましたか	① 週1回未満 ③ 週4～6回	② 週1～3回 ④ 毎日
	2) 補助具(杖など)を使いましたか	① はい	② いいえ
	3) 他者の助けが必要でしたか	① はい	② いいえ

5 現在の家族や親戚の人数について、当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

	いない	1人	2人	3、4人	5、8人	9人以上
1. 少なくとも月に1回、会ったり話をしたりする家族や親戚は何人いますか	0	1	2	3	4	5
2. あなたが、個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる家族や親戚は何人いますか	0	1	2	3	4	5
3. あなたが、助けを求めることができるくらい親しく感じられる家族や親戚は何人いますか	0	1	2	3	4	5

6 現在の友人の人数について、当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

	いない	1人	2人	3、4人	5～8人	9人以上
1. 少なくとも月に1回、会ったり話をしたりする友人は何人いますか	0	1	2	3	4	5
2. あなたが、個人的なことでも話すことができるくらい気楽に感じられる友人は何人いますか	0	1	2	3	4	5
3. あなたが、助けを求めることができるくらい親しく感じられる友人は何人いますか	0	1	2	3	4	5

7 次の質問について、当てはまると思うもの1つに○をつけてください。

質問	全くない	少しあてはまる	かなりあてはまる	おおいにあてはまる
1. 新しいことを学びたいと思いますか？	3	2	1	0
2. 何か興味を持っていることがありますか？	3	2	1	0
3. 健康状態に関心がありますか？	3	2	1	0
4. 物事に打ち込めますか？	3	2	1	0
5. いつも何かしたいと思っていますか？	3	2	1	0
6. 将来のことについての計画や目標を持っていますか？	3	2	1	0
7. 何かをやろうとする意欲はありますか？	3	2	1	0
8. 毎日張り切って過ごしていますか？	3	2	1	0

**8** 次の質問について、当てはまると思うもの1つに○をつけてください。

質問	全く 違う	少し そう である	かなり そう である	まさに そう である
9. 毎日何をしたらいいか誰かに言ってもらわなければなりませんか？	0	1	2	3
10. 何事にも無関心ですか？	0	1	2	3
11. 関心を惹かれるものなど何もないですか？	0	1	2	3
12. 誰かに言われないと何もしませんか？	0	1	2	3
13. 楽しくもなく、悲しくもなく、その中間位の気持ちですか？	0	1	2	3
14. 自分自身にやる気がないと思いますか？	0	1	2	3

**質問は以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。**

地域ニーズ調査Ⅱ GPS 端末の使用方法

お渡しするもの：GPS 端末 2 個

①本日は、入浴時間以外はこのまま装着しててください。

②翌朝、2 台目の端末の電源を入れ、腕に装着してください。



③「エイセイシゴウヲホソクデキマセンツヅケマスカ?」が出た場合には、「ハイ」(enter/mark)を選択してください。



地域ニーズ調査Ⅱ 生活時間調査

ID \_\_\_\_\_

## \_\_ 月 \_\_ 日の 行動

GPSをつけてからの行動について、記入例を参考にご記入ください  
(わからない場合は、空欄のままでよいです)

朝

6	7	8	9	10	11	12

日中

12	1	2	3	4	5	6

夕方

6	7	8	9	10	11	0

深夜

0	1	2	3	4	5	6

地域ニーズ調査Ⅱ 生活時間調査

10月5日 ID A-1 氏の行動

# 記入例

朝

6	7	8	9	10	11	12
食事	ラジオ体操 片付け	散歩	テレビ 団欒	片付け テレビ	受診	食事の準備

日中

12	1	2	3	4	5	6
食事	片付け	テレビ のんびり	買い物	のんびり	片付け	食事の準備

夕方

6	7	8	9	10	11	12
食事	片付け	入浴	片付け テレビ のんびり		読書 就寝準備	睡眠

深夜

0	1	2	3	4	5	6
睡眠						食事の準備

1. リサーチクエスション（このインタビューで明らかにしたいこと）  
「一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯が望む地域との関係性や交流とはどのようなものか」
2. インタビューガイド（質問項目の大枠）  
質問項目の追加・修正・削除、質問順序の変更も可能。大枠に沿って、対象者から出てきた考えや反応に応じて詳しく探る質問をしてよい。

### 1) 現在の地域との交流状況や交流の習慣（ご自分について / 並木地区について）

#### (1) 近隣とのつながりの有無や程度や範囲

例) 団地の隣人同士のつながり

日頃、回覧板を回す時に声をかけますか。それとも声をかけずに置くだけにしますか。そのことについて、どのように思われますか？

例) 団地の棟外に住む、近所の人とのつながり

同じ棟ではなくても、町内の人とはお付き合いはありますか。それはどのようなお付き合いですか。そのことについて、どのように思われますか。

例) 並木地区のつながり

並木地区では、つながりはあると思いますか。地域の行事や活動に参加する地元の人は多いと思いますか。この地区はご近所同士で挨拶したり声を掛け合ったりする地域ですか。

#### (2) 近隣との助け合いの有無や程度や範囲

例) ご近所とは助け合ったり、お手伝いをしたり、してもらったりすることはありますか。あればどんなことですか。どの程度なら助けてもらっても良いと思われますか。

例) 並木地区（このあたりの住民の方々）では、助け合いの意識があると思われますか。また実際に助け合いをされているとお考えですか。

#### (3) 近隣から支援を受けることへの受け入れや拒否

例) ご近所から支援を受けることには抵抗感がありますか。手を差し伸べられてもお断りしたほうが良いとお感じになりますか。

例) 並木地区（このあたりの住民の方々）は、ご近所の方から支援してもらうことへの抵抗感があると思われますか。

### 2) 交流に関連した健康づくり（ご自分について / 並木地区について）

#### (1) 地域と交流する（助け合い・イベント参加など）上で、健康上気になること

例) ご自分が外出したり、ご近所の人を助けたり、地域のイベントに参加したりするときに、健康面で何か気になることはありますか。あれば、どんなことですか。

例) ご近所の方について外出したり、ご近所の人を助けたり、地域のイベントに参加したりするときに健康面で支障のあると思われる方はいますか。どんなことでお困りだと思いますか。

#### (2) 住民の中で気になる人の有無やその内容（例：認知症、閉じこもり、ゴミ屋敷、等）

例) お近くの住民の中で健康面や生活面が気になる方はいらっしゃいますか。いれば、どのようなことでしょうか。

例) 並木地区では健康面や生活面が気になる方は多いと思いますか。

### 3) 交流に関連した地域づくり（ご自分について / 並木地区について）

#### (1) 地域と交流する上で、ハード面に関して気になることの有無やその内容

例) ご自分が並木 2 丁目 3 丁目の中で地域の集まりに参加したり、外出したりする上で、設備や道路や公共交通機関などに関して気になることはありますか。

例) 並木 2 丁目 3 丁目の住民の方々が地域の集まりに参加したり、外出したりする上で、設備や道路や公共交通機関などに関して気にされていることはあると思われますか。

#### (2) 地域と交流する上で、ソフト面（自治会など）に関して気になることの有無やその内容

例) ご自分が並木 2 丁目 3 丁目の中で地域の集まりに参加したり、外出したりする上で、設備以外の事柄などに関して気になることはありますか。

例) 並木 2 丁目 3 丁目の住民の方々が地域の集まりに参加したり、外出したりする上で、設備以外の事柄などに関して気になることはありますか。

2018 (H30) 年度  
横浜市富岡東ケアプラザ×横浜市立大協働型地域貢献活動事業

地域ニーズ調査Ⅳ 計画書

1. 課題名

一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯の社会的孤立予防にむけた仕組みの開発と評価

2. 目的

一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯の社会的孤立予防にむけた仕組み（ふらっとスペースなみき）の事業化及び一般化に向けた実践の示唆を得る。

3. 対象（キーインフォーマント）

並木 2・3 丁目および同地域の一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯についての知識や経験がある関係者、支援者（日頃、関わりがある者またはよく知る者）、概ね 10 名

例）地域包括支援センター職員、区福祉保健専門職、民生委員、自治会関係者等

4. 方法

1) 方法

個別インタビュー（30～60 分程度）

2) 問い（明らかにしたいこと）

→ 並木 2・3 丁目在住の一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯と近隣・地域との関係性や交流にはどのような課題があるか？ またどのような方策が有用か？

→ ‘ふらっとスペースなみき’を展開するにあたり、留意すべき事柄（対象、目的、方法、場、内容、その他）にはどのようなことがあるか？

3) スケジュール

2019 年 1 月～3 月（3 月 8 日まで）

4) 手順

- (1) インタビュー対象者への打診ならびに日程調整（→富岡東 CP）
- (2) インタビューの実施（富岡東 CP×市大、可能であれば 2 名 1 組）
- (3) インタビューデータ（音声）の逐語録化（→市大医学部地域看護学教室）
- (4) インタビューデータの分析
- (5) インタビューデータの分析結果のまとめ、次年度計画

5) その他（調整事項）

横浜市富岡東ケアプラザ×横浜市立大学医学部地域看護学教室  
協働型地域貢献活動事業

## ‘ふらっとスペースなみき’

### インタビュー調査へのご協力のお願い

このたび横浜市富岡東地域ケアプラザ・横浜市立大学では、金沢区並木2・3丁目の高齢者の方々の健康づくりとつながりづくりを目指し、ふらっと気軽に立ち寄り、自由に交流できる場の一つとして、‘ふらっとスペースなみき’事業に取り組むこととなりました。

つきましては並木2・3丁目の高齢者の方々に対するニーズ調査(2017年度実施)の結果【資料1】および‘ふらっとスペースなみき’プレオープン(2018年度実施)の結果【資料2】等を踏まえ、下記のとおり、日頃、並木2・3丁目の高齢者に関わりのある方々にインタビューへのご協力をいただきたくお願い申し上げます。

ご多忙のところ、誠に恐縮ですが、事業の趣旨をご理解いただき、ご協力をいただけますようお願いいたします。

#### インタビュー調査

#### 1.目的

金沢区並木2・3丁目の高齢者の方々がふらっと気軽に立ち寄り、自由に交流できる場づくりの一つとして、‘ふらっとスペースなみき’事業の資料とするため

#### 2.対象

金沢区並木2・3丁目の高齢者の方々に日頃関わりのある方々で本インタビューにご協力いただける方々

#### 3.方法

1) インタビュー(30~60分程度) 【別添資料 1-1, 1-2, 2, 3】

- ①並木2・3丁目の高齢者の方々に対するニーズ調査の結果等について
- ②並木2・3丁目の高齢者の方々の日頃の生活の様子や交流について
- ③本事業‘ふらっとスペースなみき’へのアイデアや助言について

#### 4.留意事項

- ・本調査の協力は自由です。協力したくない場合は辞退できます。その場合にも不利益が生じることは一切ございません。
- ・本調査は横浜市富岡東地域ケアプラザおよび横浜市立大学の教職員(大学院生を含む)が実施いたします。
- ・本調査はすべて無記名で行います。また個人情報にかかわる内容はすべて横浜市立大学で暗号化し、個人が特定されることは一切ありません。

#### お問い合わせ先

○富岡東地域ケアプラザ 電話：045-776-2030 FAX：045-770-5010  
〒236-0051 横浜市金沢区富岡東 4-13-3

○横浜市立大学医学部地域看護学教室 電話・FAX：045-787-2973  
〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦 3-9

横浜市富岡東ケアプラザ×横浜市立大学医学部地域看護学教室  
協働型地域貢献活動事業  
並木 2・3 丁目の高齢者の方々に対するニーズ調査Ⅳ（2017 年度実施）

【資料 1】

## 1. 調査の概要

## 1) 調査対象

金沢区並木 2・3 丁目在住の 65 歳以上の一人暮らしの方 10 世帯 10 名（男性 5 名、女性 5 名）および同在住の 65 歳以上の夫婦のみ世帯の方 5 世帯 10 名、計 20 名

## 2) 調査方法・調査期間

個別訪問面接調査（質問紙・GPS 調査及びインタビュー）・2017 年 10 月～2018 年 1 月

## 2. 調査の結果

表 1 質問紙・GPS 調査の主な結果

注 1 横浜市:高齢者実態調査, 注 2 NHK:国民生活時間調査,2015

## ①平均年齢

全体: 79.2±4.7	男性: 79.4±3.2	女性: 79.0± 6.0 歳
独居: 82.3±3.7	男性: 81.2±2.0	女性: 83.4± 4.9 歳
夫婦: 76.1±3.3	男性: 77.6±3.3	女性: 74.6± 3.0 歳

## ②居住年数

全体: 25.8±12.3	男性: 25.2± 3.2	女性: 26.3±12.8 年
独居: 25.5±12.2	男性: 24.4±12.3	女性: 26.6±13.5 年
夫婦: 26.0±12.9	男性: 26.0±13.7	女性: 26.0±13.7 年

## ③治療中の病気の有る者

全体: 90.0	男性: 80.0	女性: 100.0 %
独居: 100.0	男性: 100.0	女性: 100.0 %
夫婦: 80.0	男性: 60.0	女性: 100.0 %

## ④地域愛着・帰属感（得点が高い⇒愛着・帰属感が高い） [注 1]65 歳以上横浜市民平均: 14.0 点

全体: 15.6±4.6	男性: 16.1±4.7	女性: 15.0±4.7 点
独居: 12.5±3.2	男性: 12.8±3.3	女性: 12.2±3.6 点
夫婦: 18.6±3.7	男性: 19.4±3.4	女性: 17.8±4.2 点

## ⑤一日あたりのテレビ・ラジオ視聴時間 [注 2]70 歳以上の国民平均 男性: 316 分 女性: 329 分

全体: 387	男性: 469	女性: 304 分
独居: 409	男性: 490	女性: 328 分
夫婦: 364	男性: 448	女性: 280 分

## ⑥一日あたりのコミュニケーション（人と話す）時間 [注 2] 10 歳以上の国民平均 124 分

全体: 37	男性: 17	女性: 56 分
独居: 30	男性: 10	女性: 50 分
夫婦: 43	男性: 24	女性: 62 分

## ⑦平均的な一日の生活圏（最大行動範囲）

全体: 並木 1～3 丁目内	5 名 (50.0%)	金沢区外	5 名 (50.0%)
独居: 並木 1～3 丁目内	7 名 (70.0%)	金沢区外	3 名 (30.0%)
夫婦: 並木 1～3 丁目内	3 名 (30.0%)	金沢区外	7 名 (70.0%)

- ・調査対象の概要について、全体では、平均年齢 79.2 歳、平均居住年数 25.8 年、治療中の病気のある者 90.0%等となっていた。
- ・地域への愛着・帰属感について、65 歳以上の横浜市民の平均 14.0 点に比較して、独居では 12.5 点と低く、夫婦のみでは 18.6 点と高くなっていた。
- ・テレビ・ラジオ視聴時間について、70 歳以上の国民男性の平均 316 分に比較して、全体、独居、夫婦世帯のいずれの男性も長く、独居の男性で最も長くなっていた。
- ・コミュニケーション時間について、10 歳以上の国民の平均 124 分に比較して、全体、独居、夫婦世帯のいずれの男性も著しく短く、独居の男性で最も短くなっていた。
- ・平均的な一日の生活圏（最大行動範囲）について、並木 1～3 丁目内である者の割合は、全体では半数であり、独居では 70.0%と最も高くなっていた。

表 2 インタビュー調査の主な結果 (n=20)

## インタビューの問い

Q1. 金沢区並木 2・3 丁目在住の 65 歳以上の一人暮らしおよび夫婦のみ世帯の高齢者の方々からみたこのあたりの地域や近隣との関係性とは、どのようなものですか？

Q2. 金沢区並木 2・3 丁目在住の 65 歳以上の一人暮らしおよび夫婦のみ世帯の高齢者の方々が望む地域や近隣との関係性とは、どのようなものですか？

## インタビューの結果 (主な結果の集約)

## 地域での活動が難しくなる原因

- ・年を取るにつれて身体的にも精神的にも動くことが難しくなっている
- ・周囲も高齢化で交流の機会が減り、活動にかかわるボランティアも少ない

## 人付き合いをしない理由

- ・役割や顔見知りがないと交わりにくい
- ・性差・世代差があると付き合いにくい

## 交流にかかわる場

- ・イオンは買い物や人との交流の場であり、生活する上では重要な場
- ・目的がなくてもふらっと行ける場所があるとよい
- ・街区や集会所に交流の場所が限られがち
- ・地縁を大事にしながらか楽しみを共有できる集まりの場があるとよい

## 生きがいや生活に作用するもの

- ・趣味や役割があることで前向きな生活を送ることができる
- ・子と孫の存在が生きがい

## 地域づくりや関係づくりの方法

- ・役割や趣味は人間関係をつくるきっかけ
- ・近所の人への声掛けは地域を活性化する方法

## 孤立や孤独にかかわる段階

- ・心身ともに年を取り、生活への影響を認識したら人に頼る段階
- ・独居の寂しさ・不安に気付く段階
- ・元気なうちから地域の人たちや公的機関とつながるのが基本
- ・自分自身の身体機能の変化に気が付く段階

## 地域の人たちの特徴

- ・日頃の助け合いは大事だと思っているが、実際はさほど積極的でない
- ・互いに親密な関係にならなくとも、生活をしていくのに別に困らない
- ・自分のペースで関わりたい
- ・できるだけ他人の世話にならずに生活を送りたいと感じている

【資料2】

横浜市富岡東地域ケアプラザ×横浜市立大学医学部地域看護学教室  
地域貢献活動支援事業（協働型）

### ふらっとスペースなみき

並木地区の方々の健康づくりとつながりづくりを目指し  
ふらっと立ち寄り交流できる自由な場所の設置に向け  
“ふらっとスペースなみき”をプレオープンしました。

日時 11/28(水) 11/30(金) 12/4(火)  
(いずれも 午前10:00 ~ 午後3:00)

会場 ビアレヨコハマ1階セントラルコート  
(1階正面玄関エスカレーター付近)

#### 内容

- ★簡単栄養レシピ
- ★脚年齢測定
- ★楽しく脳トレ

このほか、並木の情報交換  
&交流スペースや福祉相談  
コーナーも あります！

#### 【連絡先】

横浜市富岡東地域ケアプラザ

Tel : 045-776-2030

横浜市立大学医学部地域看護学教室

Tel : 045-787-2973

【協力】(株)シーサイド開発



### ふらっとスペースなみきプレオープン報告

上記のとおり、当初計画(日時、会場、内容)に沿って順調に実施され、  
来場者数は、概ね130名程度となりました。

うち、アンケート回答者は33名であり、27名(81.8%)の方が「とても満足」  
+「やや満足」と回答されました。

なお、タウンニュース(2018年12月6日付)に本取り組みについて記事掲載  
されました。

ご協力いただきました方々にお礼申し上げますとともに、本事業に関心の  
ある方は、是非、お声がけください。



認知症予防につながる脳トレパズルを  
交流しながら楽しく解く

## 並木地区 買い物ついでに介護予防 ケアプラザと市大が研究

独居や夫婦のみの高齢者世帯が多く、将来に向けた高齢者の社会的孤立や孤独予防が課題となっている金沢区並木地区。同地区内の商業施設「ビアレヨコハマ」の一角に11月28、30、12月4日の3日間、高齢者の健康づくりやつながりづくりを目的とした交流スペース「ふらっとスペースなみき」

がプレオープンした。これは、昨年から地域課題解決に向けて協働研究を進めている富岡東地域ケアプラザと横浜市立大学の地域看護学教室が、同所を管理する株式会社シーサイド開発の協力を得て設置したもの。昨年地域の高齢者に行った聞き取り調査をもとに、脳トレや足年齢測定、簡単栄養レ



シビ、地域情報など、高齢者の関心をひくコーナーを設けた。こうした情報の提供はこれまでケアプラザ内で行っていたが、積極的に足を運んでもらえない現状があった。商業施設内に設けることで買い物ついでに立ち寄ってもらう狙いがある。「60代後半は元気に過ごしていても70歳を超えると動けなくなることも多い。まずは今、買い物に来られる人の介護予防につなげる」と同ケアプラザの担当者。初日だけで39人が立ち寄ったという。今年度中は効果検証などを行い、定期的な開催につなげたい考えだ。

タウンニュース (2018年12月6日)

## KI インタビューガイド

## 2. 問い（明らかにしたいこと）

→並木 2・3 丁目在住の一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯と近隣・地域との関係性や交流にはどのような課題があるか？またどのような方策が有用か？

→‘ふらっとスペースなみき’を展開するにあたり、留意すべき事柄（対象、目的、方法、場、内容、その他）にはどのようなことがあるか？

## 2. 留意点

質問項目の追加・削除、質問順序の変更は可能。大枠に沿って、対象者から出てきた考えや反応に応じて詳しく探る質問をしてよい。

## 1) ニーズ調査及びふらっとスペースなみきプレオープンの結果について

並木 2・3 丁目の高齢者の方々に対するニーズ調査の結果【資料 1-1・1-2】及び‘ふらっとスペースなみき’プレオープンの結果【資料 2】についてどんなことを感じましたか？またなぜそのように感じましたか？

## 2) 並木 2・3 丁目の一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯と近隣・地域との交流について

## (1) 近隣・地域とのつながりについて

例) 並木 2・3 丁目の高齢者の方々と近隣・地域の方々との付き合いはどのようなものですか。またそのことについて、どのように思われますか。

例) 並木 2・3 丁目の住民同士のつながりや付き合いはどのようなものですか。またそのことについてどのように思われますか。

## (2) 近隣・地域の助け合いや支え合いについて

例) 並木 2・3 丁目の高齢者の方々とご近所の方々との間で助け合ったり、支え合ったりしていることはありますか。その助け合いや支え合いはどのようなものでしょうか。

例) 並木 2・3 丁目の住民の方々の助け合いや支え合いの意識はどのようなものであると思われますか。またそのことについてどのようにお考えですか。

## (3) 近隣・地域から支援を受けることへの受け入れや拒否

例) 並木 2・3 丁目の高齢者の方々は、支援やサービスを受け入れることに抵抗があるように見えますか。あるいは見えませんか。それはなぜだと思われますか。

例) 並木 2・3 丁目の住民の方々は、支援やサービスを受け入れることに抵抗があるように見えますか。あるいは見えませんか。それはなぜだと思われますか。

## (4) 住民の中で気になる人の有無やその内容（例：認知症、閉じこもり、ゴミ屋敷、等）

例) 現在、関わりのある高齢者の中で健康面や生活面が気になる方の課題はどのようなことでしょうか。またその背景はどのようなことだとお考えになりますか。

## 3) ‘ふらっとスペースなみき’を展開するにあたり、留意すべき事柄について

## (1) ハード面に関して気になることの有無やその内容

例) 対象者が並木 2 丁目 3 丁目の中で地域の集まりに参加したり、外出したりする上で、設備や道路や公共交通機関などに関して気になることはありますか。

例) 並木 2 丁目 3 丁目の住民の方々が地域の集まりに参加したり、外出したりする上で、設備や道路や公共交通機関などに関して気にされていることはあると思われますか。

## (2) ソフト面に関して気になることの有無やその内容

例) 対象者が並木 2 丁目 3 丁目の中で地域の集まりに参加したり、外出したりする上で、設備以外の事柄などに関して気になることはありますか。

例) 並木 2 丁目 3 丁目の住民の方々が地域の集まりに参加したり、外出したりする上で、設備以外の事柄などに関して気になることはありますか。

## 3. インタビュー協力者の方の基本属性について

①性別 男性・女性

②職種（資格）：

③機関：

④実務年数：

2018年10月18日

金沢区並木地区における独居高齢者及び夫婦のみ高齢者世帯の  
社会的孤立予防にむけたプログラム 事業計画案

### 1. 事業目的

金沢区並木地区における独居高齢者及び夫婦のみ高齢者世帯の社会的孤立予防にむけたモデルプログラム（立ち寄りコミュニケーションプログラム：仮称）を試行し、評価する。

### 2. 事業体制

事業者：横浜市富岡東地域ケアプラザ（成田真一 所長）

同上調整担当：栗田理絵 主任ケアマネージャー

分担者：横浜市立大学医学部地域看護学教室（田高悦子 教授）

同上調整担当：白谷佳恵 助教

協力機関：シーサイドお助け隊（並木地域の住民ボランティア組織の拠点とできないか）  
並木地区自治会、同地区民生委員、社会福祉協議会

### 3. 事業(プログラム)内容

#### 1) 目的

横浜市金沢区並木地区在住の独居高齢者世帯ならびに高齢者の夫婦のみ世帯の社会的孤独や孤立を予防し、できるだけ長く自立した生活を営むことができるよう、以下を目指す。

(1) 高齢者個人と地域の新たな関係性（つながり）づくり

(2) 高齢者個人の加齢変化に応じた予防的健康づくり

(3) 高齢者個人の得意分野や役割発揮の場づくり

#### 2) 対象

横浜市金沢区並木地区（概ね二・三丁目）在住の独居高齢者世帯（327世帯）ならびに高齢者夫婦のみ世帯（903世帯）（平成27年度総数）

#### 3) 内容

##### (1) コンセプト

横浜シーサイドライン沿線のイオンおよび周辺地域の空き店舗・空きスペースで、対象者がふらっと立ち寄り、交流することができる、自由な場をめざす。

##### (2) 展開メニュー

###### ① 食・栄養づくり

管理栄養士が担当し、料理カードによるレシピ紹介及び栄養価表示等の展示形式により、実行可能な食事習慣を身につけられるよう促すとともに、当事者の軽食時間をいかに互いの工夫メニュー等を交換する機会を設ける。

###### ② 下肢筋力強化

ロコモスキャンによる脚年齢の実測のほか、ロコトレ実践方法を提示していく。

###### ③ 認知機能（脳トレ）

当事者自身で行える脳トレアプリソフトをダウンロードしたiPad等を設置する。

###### ④ 生活・健康・介護に関する総合相談（富岡東地域ケアプラザ）

専門機関への相談にまでは至らない、日常生活及び健康、介護における気がかりを気兼ねなく相談することで、問題の重症化予防ならびに潜在的なニーズの把握を可能にする。地域ケアプラザが総合相談のサテライト的機会ともなりうる。

##### (3) 会場

###### ① 会場

・空店舗（イオン金沢シーサイドライン店）

・空スペース（イオン金沢シーサイドライン店）

###### ② 設営イメージ

##### (4) スケジュール

① 事業日程 2018年11月、週1回×連続3週間（概ね10:00～16:00）

② 事業日のスケジュール

## 地域事業 I 商業施設への依頼

2018年11月5日

株式会社シーサイド開発  
代表取締役社長 松尾 光雄 様

横浜市富岡東地域ケアプラザ 所長 成田真一  
横浜市立大学医学部地域看護学教室 教授 田高悦子

## 地域貢献モデル事業ご協力のお願い

時下、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

わが国では、平成元年（1989年）から28年（2016年）の間に65歳以上の者の独居世帯は14.8%から27.1%に、また夫婦のみ世帯は20.9%から31.1%に増加しています。このような中で高齢者の社会的孤独や孤立を予防し、住み慣れた地域でできるだけ長く自立した生活を営むことは全国的に共通する重要な課題ではありますが、その課題の表れ方や対応策は、地域の特性によって異なると考えられます。

そこで私どもでは、横浜市金沢区並木地区における独居高齢者世帯ならびに高齢者の夫婦のみ世帯の住民における、将来にむけた社会的孤立・孤独の予防に向けた地域づくりに貢献すべく、下記のとおり、地域貢献モデル事業に取り組むことといたしました。つきましては、ご多用中、誠に恐縮でございますが、本事業の趣旨をご理解賜り、事業実施の場の提供について各段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

## 記

## 1. 事業名称

金沢区並木地区における独居高齢者及び夫婦のみ高齢者世帯の社会的孤立予防にむけたプログラムの開発と評価

## 2. 事業目的

金沢区並木地区における独居高齢者及び夫婦のみ高齢者世帯の社会的孤立予防にむけたモデルプログラム（ふらっとスペースなみき）を試行し、評価する。

## 3. 事業体制

事業者：横浜市富岡東地域ケアプラザ（成田真一 所長）

同上調整担当：栗田理絵 主任ケアマネージャー

分担者：横浜市立大学医学部地域看護学教室（田高悦子 教授）

同上調整担当：白谷佳恵 助教

協力機関：並木地区自治会、同地区民生委員、社会福祉協議会、他（調整中）

## 4. 事業（プログラム）内容

## 1) 目的

横浜市金沢区並木地区在住の独居高齢者世帯ならびに高齢者の夫婦のみ世帯の社会的孤独や孤立を予防し、できるだけ長く自立した生活を営むことができるよう、以下を目指す。

(1) 高齢者個人と地域の新たな関係性（つながり）づくり

(2) 高齢者個人の加齢変化に応じた予防的健康づくり

(3) 高齢者個人の得意分野や役割発揮の場づくり

## 2) 対象

横浜市金沢区並木地区（概ね二・三丁目）在住の独居高齢者世帯（327世帯）ならびに高齢者夫婦のみ世帯（903世帯）（平成27年度総数）

## 3) 内容

(1) コンセプト：横浜シーサイドライン沿線のイオンおよび周辺地域の空き店舗・空きスペースで、対象者がふらっと立ち寄り、交流することができる、自由な場

## (2) 展開メニュー

① 食・栄養づくり（イオンで購入可能な食材を用いた簡単な調理メニューの紹介）

② 下肢筋力強化（ロコモスキャンを用いた脚年齢の測定及びロコモ予防運動の体験）

③ 認知機能（脳トレ）（認知症のセルフチェック及び認知機能向上ゲームの体験）

④ 立寄交流スペース（イオンを中心とした地図及び近郊お出かけスポット等の掲示）

⑤ 生活・健康・介護に関する総合相談（日頃の気がかりを気軽に相談できるブース）

## (3) スケジュール（希望）

① 11/26（月）～ 11/28（水）の3日間

② 12/3（月）～ 12/5（水）の3日間

③ 11/28（水）、11/30（金）、12/4（火）の3日間

※いずれも午前10時～午後3時の時間帯

## (4) 会場（希望）

イオン金沢シーサイド店1階食品フロア付近空スペース

【連絡先】 横浜市富岡東地域ケアプラザ

Mail: kurita\_rie@wakatake.or.jp Tel: 045-776-2030 Fax: 045-770-5010  
横浜市立大学医学部地域看護学教室

Mail: shirakae@yokohama-cu.ac.jp Tel & Fax: 045-787-2973

地域事業 I 広報チラシ

横浜市富岡東地域ケアプラザ×横浜市立大学医学部地域看護学教室  
地域貢献活動支援事業（協働型）

# ふらっとスペースなみき

並木地区の方々の健康づくりとつながりづくりを目指し  
ふらっと立ち寄り交流できる自由な場所の設置に向け  
“ふらっとスペースなみき”をプレオープンします！

日時 **11/28(水) 11/30(金) 12/4(火)**  
いずれも **午前10:00 ~ 午後3:00**

会場 **ピアレヨコハマ1階セントラルコート**  
(1階正面玄関エスカレーター付近)

- ★脚年齢測定
- ★楽しく脳トレ
- ★簡単栄養レシピ

このほか、並木の情報  
交換&交流スペースや  
福祉相談コーナーも  
あります！

## 【連絡先】

横浜市富岡東地域ケアプラザ

Tel: 045-776-2030

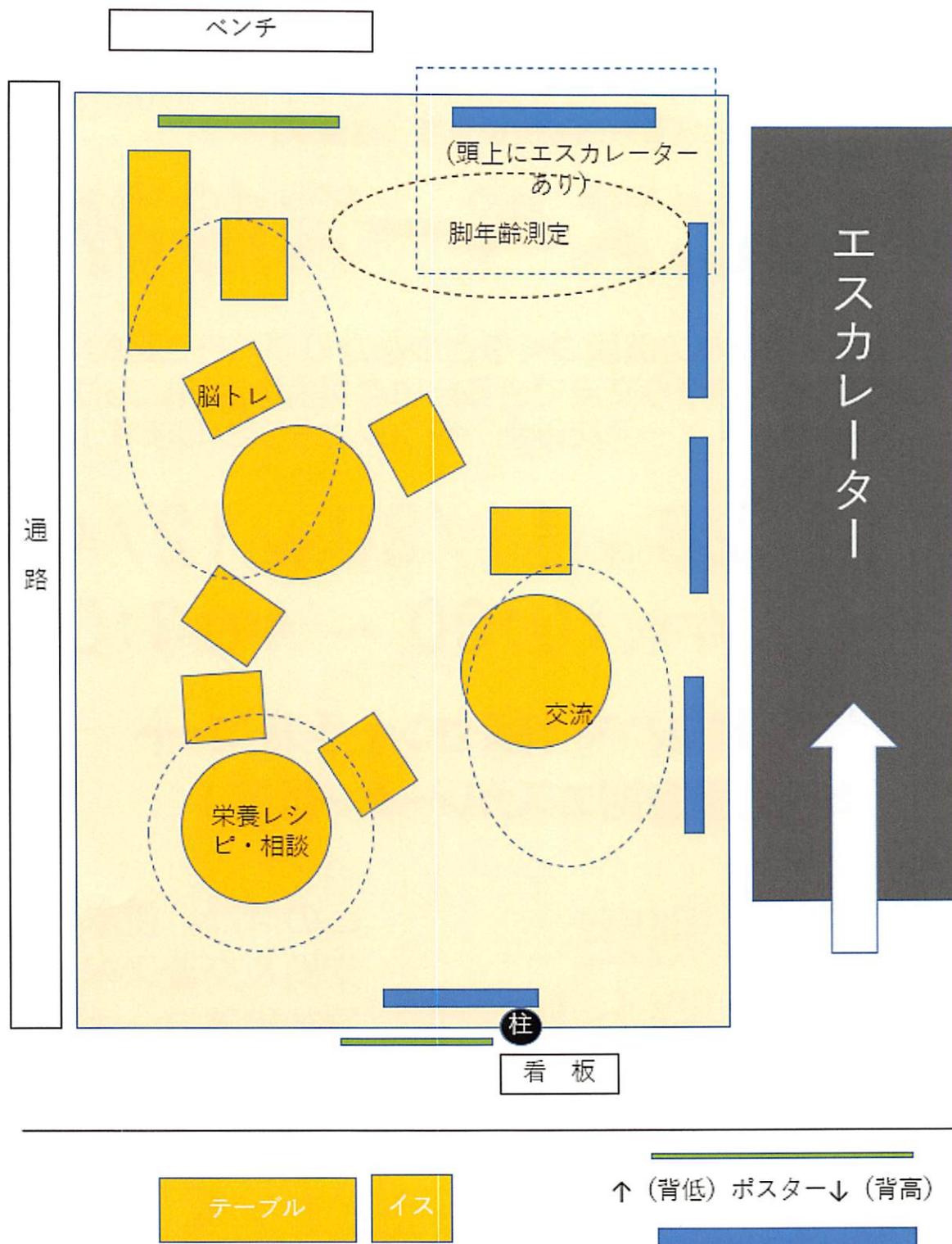
横浜市立大学医学部地域看護学教室

Tel: 045-787-2973

【協力】(株)シーサイド開発



地域事業 I 商業施設内会場レイアウト





## 並木地区

## 買い物ついでに介護予防

ケアプラザと市大が研究

社会

独居や夫婦のみの高齢者世帯が多く、将来に向けた高齢者の社会的孤立や孤独予防が課題となっている金沢区並木地区。同地区内の商業施設

「ピアレヨコハマ」の一角に11月28、30、12月4日の3日間、高齢者の健康づくりやつながりづくりを目指した交流スペース「ふらっとスペースなみき」がプレオープンした。



認知症予防につながる脳トレパズルを交流しながら楽しく解く

これは、昨年からの地域課題解決に向けて協働研究を進めている富岡東地域ケアプラザと横浜市立大学の地域看護学教室が、同所を管理する（株）シーサイド開発の協力を得て設置したもの。昨年地域の高齢者に行った聞き取り調査をもとに、脳トレや足年齢測定、簡単栄養レシピ、地域情報など、高齢者の関心をひくコーナーを設けた。

こうした情報の提供はこれまでもケアプラザ内で行っていたが、積極的に足を運んでももらえない現状があった。商業施設内に設けることで買い物のついでに立ち寄ってもらう狙いがある。「60代後半は元気に過ごしていても70歳を超えると動けなくなることも多い。まずは今、買い物に来られる人の介護予防につなげたい」と同ケアプラザの担当者。初日だけで39人が立ち寄ったという。

今年度中は効果検証などを行い、定期的な開催につなげたい考えだ。

地域事業Ⅰ 横浜金沢シーサイドエリアマネジメント協議会報告資料(2019年1月11日)

横浜市富岡東地域ケアプラザ×横浜市立大学医学部地域看護学教室  
地域貢献活動支援事業（協働型）

## ふらっとスペースなみき

並木地区の方々の健康づくりとつながりづくりを目指し  
ふらっと立ち寄り交流できる自由な場所の設置に向け  
“ふらっとスペースなみき”をプレオープンします！

日時 11/28(水) 11/30(金) 12/4(火)  
(いずれも 午前10:00 ~ 午後3:00)

会場 ビアレヨコハマ1階セントラルコート  
(1階正面玄関エスカレーター付近)

### 内容

- ★簡単栄養レシピ
- ★脚年齢測定
- ★楽しく脳トレ

このほか、並木の情報交換  
&交流スペースや福祉相談  
コーナーも あります！

### 【連絡先】

横浜市富岡東地域ケアプラザ

Tel: 045-776-2030

横浜市立大学医学部地域看護学教室

Tel: 045-787-2973

【協力】(株)シーサイド開発



## ふらっとスペースなみきプレオープン報告

上記のとおり、当初計画(日時、会場、内容)に沿って順調に実施され、  
来場者数は、概ね130名程度となりました。

うち、アンケート回答者は33名であり、27名(81.8%)の方が「とても満足」  
+「やや満足」と回答されました。

なお、タウンニュース(2018年12月6日付)に本取組みについて記事掲載  
されました(→裏面)。

ご協力いただきました方々にお礼申し上げますとともに、本事業に関心の  
ある方は、是非、お声がけください。

横浜市富岡東地域ケアプラザ×横浜市立大学医学部地域看護学教室  
教員地域貢献活動支援事業(協働型)

# ふらっとスペースなみき

並木地区の方々に、ふらっと立ち寄り健康づくりや交流することができるスペースを屋外にて開催します!

## 日時及び会場

① 11月1日(金)

イド藻公園  
(並木中学校前)

② 11月7日(木)

イガイ根公園  
(並木第四小前)



いずれも午前11時 ~午後3時  
(雨天中止)

- ★ オーラルフレイルチェック
- ★ ロコモチェックなどの体験もできます

参加無料

ぜひお気軽にお立ち寄りください!

### 【お問い合わせ先】



横浜市富岡東地域ケアプラザ  
Tel:045-776-2030

横浜市立大学医学部地域看護学教室  
Tel:045-787-2973

# ふらっとスペースなみき 来場者様アンケート

本日は「ふらっとスペースなみき」にお越しいただきありがとうございました。今後よりよい場所にできるよう、アンケートのご協力をお願いします。当てはまるものに○をつけてください。

アンケート記入日: 11/1 11/7

1) あなたの性別と年齢を教えてください。

性別: 男 ・ 女      年齢: (      ) 歳

2) どちらから来ましたか。

並木三丁目 ・ 並木二丁目 ・ 並木一丁目 ・ その他(      )

3) だれと一緒に来ましたか

ひとり ・ ご家族 ・ ご友人 ・ その他(      )

4) 「ふらっとスペースなみき」を何でお知りになりましたか。(複数回答可)

回覧板 ・ 掲示板 ・ チラシ ・ 地域ケアプラザ ・ 公園利用中

5) 「ふらっとスペースなみき」のメニューのうち、何に参加されましたか。(複数回答可)

1. オーラルフレイルチェック      2. ロコモチェック  
3. 地図を使った好きな場所調査      4. カフェスペース

6) 「ふらっとスペースなみき」に参加してみたいかがでしたか。

とても満足 ・ やや満足 ・ やや不満 ・ とても不満

7) 「ふらっとスペースなみき」にまた参加したいと思いませんか。

参加したい ・ 分からない ・ 参加しない

8) 今後、「ふらっとスペースなみき」で参加してみたい取り組みはありますか。(自由記載)

9) その他、ご感想・ご意見をお聞かせください。(自由記載)

令和元年 10 月 23 日  
企画財務課

## 健康づくりができる交流スペース 「ふらっとスペースなみき」を開催

### 横浜市富岡東地域ケアプラザ×医学部看護学科地域看護学教室が協働

横浜市立大学 医学部看護学科 地域看護学教室は、一人暮らしの高齢者の「閉じこもり」による社会的孤立や認知症発生のリスクを予防するため、ふらっと立ち寄り健康づくりや交流ができる地域交流企画「ふらっとスペースなみき」を開催します。この事業は、横浜市立大学の教員地域貢献活動支援事業（協働型）※1の一環として行われ、横浜市富岡東地域ケアプラザと協働で実施します。

高齢期の要支援・要介護の原因の一つとして近年注目されている「ロコモティブシンドローム」の予防のため、40 cmの台から立ち上がれるかテストする「ロコモチェック」や、ガムを噛むことで口腔機能の衰えをチェックする「オーラルフレイルチェック」などの体験を実施予定です。

また、当日は看護学科の教員や学生も参加し、交流の場としてコーヒーを提供するカフェスペースの設置や、大きな地図を使った周辺地区の好きな場所調査なども企画しています。

#### ■ ふらっとスペースなみき開催概要 ■

日時 及び 場所：①令和元年 11 月 1 日（金）11 時～15 時 イド藻公園（並木中学校前）

②令和元年 11 月 7 日（木）11 時～15 時 イガイ根公園（並木第四小学校前）

内容：ロコモチェック、オーラルフレイルチェック、カフェスペース、大きな地図を使った周辺地区の好きな場所調査 など



（昨年の様子：平成 30 年 11 月 28、30、12 月 4 日の 3 日間で商業施設ピアレコハマ内にて試行し、約 130 名の方が来場しました。今回は地域の公園を会場として実施します。）

#### ※1 教員地域貢献活動支援事業（協働型）

教員の専門性や大学が持つ「知」の資源を活かしながら、自治体・企業等から提案される地域課題を解決する事業。

お問い合わせ先

横浜市立大学 企画財務課 企画担当課長 小松 利行 Tel 045-787-2405

神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙

ASKUL アス 最新ア ネット

会社案内 | IR情報 | 広告掲載 | 採用

ホーム 横浜 川崎 相模原・東京多摩 県央

金沢区・磯子区版 掲載号：2019年11月7日号

Twitter Facebook Messenger LINE

## 地域の気軽な交流場を

ケアプラと市大が協力

社会

一人暮らしの高齢者の社会的孤立を予防する「ふらっとスペースなみき」が11月1日にイド藻公園（金沢区並木）で行われた。これは福岡東地域ケアプラザと横浜市立大学医学部看護学科地域看護学教室が実施している取り組みで今年で3年目を迎える。誰でも気軽に立ち寄り、健康づくり



地域住民と学生が交流

や地域交流ができる場を目指す。昨年は商業施設「ピアレヨコハマ」内で開催。今年は地域の人に、よりいっそう「ふらっと」立ち寄ってほしいとの思いでオープンスペースの公園を会場にした。

当日は近年話題の「ロコモチェック」や口腔機能の衰えを診断する「オーラルフレイルチェック」などを実施。また、この企画に協力する横浜市国際教養学部都市学系の中西正彦准教授とそのゼミ生でまちづくりについて学ぶ学生らも参加。「地域の好きなおとこ」と題して訪れた地域住民にシーサイド・並木地区の中で好きなおとこを選び地図に書き込んだり、学生の卒論研究の一環として近接する産業団地への理解やイメージを聞くなどした。

「健康だけでなく、様々な視点から地域の方にふらっとスペースへの興味を持ってもらえたら」と市大担当者。地域住民には事前に自治会を通じてチラシを配るなどして周知。参加者の女性は「偶然通りかかり、チラシを思い出して立ち寄ってみた」と話す。

会場の公園がある並木3丁目会長会の石井克己会長（69）は「並木3丁目は地域で気軽に集まれる場所がほとんどない。最近では地域での交流も増えている。こういう場がどんどん増えれば嬉しい」と話す。

次回は11月7日（木）、イガイ根公園（金沢区並木）で午前11時から午後3時まで。雨天中止。

## ～地域のシニアの方々に対するニーズ調査～

横浜市富岡東地域ケアプラザ(成田真一、栗田理絵、三留健史、後藤三枝子)

横浜市立大学医学部地域看護学教室(田高悦子、有本梓、伊藤絵梨子、白谷佳恵、小野田真由美)

横浜市立大学国際総合科学部まちづくりコース(中西正彦、三輪律江)

### ニーズ調査の概要

**目的** 金沢区並木2・3丁目にお住まいの高齢者の皆様が気軽に立ち寄り、集い、自由に交流できる場づくり事業にむけた基礎資料とするための住民ニーズの把握

**対象** 金沢区並木2・3丁目在住の65歳以上の一人暮らしの方10世帯10名(男性5名、女性5名)および同住の65歳以上の夫婦のみ世帯の方5世帯10名、計20名

**方法・期間** 個別訪問面接調査(質問紙・GPS調査及びインタビュー)・2017年10月～2018年1月

### 結果

#### 質問紙・GPS調査の主な結果

	全体	独居	夫婦
年齢			
全体	79.2±4.7	82.3±3.7	76.1±3.3
男性	79.4±3.2	81.2±2.0	77.6±3.3
女性	79.0±6.0	83.4±4.9	74.6±3.0
居住年数			
全体	25.8±12.3	25.5±12.2	26.0±12.9
男性	25.2±3.2	24.4±12.3	26.0±13.7
女性	26.3±12.8	26.6±13.5	26.0±13.7
治療中の病気の有る者			
全体	90	100	80
男性	80	100	60
女性	100	100	100
地域愛着・帰属感(得点が高い⇒愛着・帰属感が高い) [注1]			
全体	15.6±4.6	12.5±3.2	18.6±3.7
男性	16.1±4.7	12.8±3.3	19.4±3.4
女性	15.0±4.7	12.2±3.6	17.8±4.2
一日あたりのテレビ・ラジオ視聴時間 [注2]			
全体	387	409	364
男性	469	490	448
女性	304	328	280
一日あたりのコミュニケーション(人と話す)時間 [注2]			
全体	37	30	43
男性	17	10	24
女性	56	50	62
平均的な一日の生活圏(最)			
並木1～3丁目	5(50%)	7(70%)	3(30%)
金沢区外	5(50%)	3(30%)	7(70%)

[注1] 65歳以上横浜市民平均: 14.0点

[注2] 70歳以上の国民平均 男性: 316分 女性: 329分

[注2] 10歳以上の国民平均 124分

注1横浜市: 高齢者実態調査, 注2 NHK: 国民生活時間調査, 2015

#### インタビュー調査の主な結果

##### 地域での活動が難しくなる原因

- ・年を取るにつれて身体的にも精神的にも動くことが難しくなっている
- ・周囲も高齢化で交流の機会が減り、活動にかかわるボランティアも少ない

##### 人付き合いをしない理由

- ・役割や顔見知りがないと交わりにくい
- ・性差・世代差があると付き合いにくい

##### 交流にかかわる場

- ・イオンは買い物や人との交流の場であり、生活する上では重要な場
- ・目的がなくてもふらっと行ける場所があるとよい
- ・街区や集会所に交流の場所が限られがち
- ・地縁を大事にしながらしみ共有できる集まりの場があるとよい

##### 生きがいや生活に作用するもの

- ・趣味や役割があることで前向きな生活を送ることができる
- ・子と孫の存在が生きがい

##### 地域づくりや関係づくりの方法

- ・役割や趣味は人間関係をつくるきっかけ
- ・近所の人への声掛けは地域を活性化する方法

##### 孤立や孤独にかかわる段階

- ・心身ともに年を取り、生活への影響を認識したら人に頼る段階
- ・独居の寂しさ・不安に気付く段階
- ・元気なうちから地域の人たちや公的機関とつながるのが基本
- ・自分自身の身体機能の変化に気が付く段階

##### 地域の人たちの特徴

- ・日頃の助け合いは大事だと思っているが、実際はさほど積極的でない
- ・互いに親密な関係にならなくとも、生活をしていくのに別に困らない
- ・自分のペースで関わりたい
- ・できるだけ他人の世話にならずに生活を送りたいと感じている

## ニーズ調査を踏まえた取組～ふらっとスペースなみき～

横浜市富岡東地域ケアプラザ×横浜市立大学医学部地域看護学教室  
地域貢献活動支援事業(協働型)

### ふらっとスペースなみき

並木地区の方々との健康づくりとつながりづくりを目指し  
「ふらっと立ち寄り交流できる自由な場所の設置に向け  
「ふらっとスペースなみき」をフレオープンしました。

日時 11/28(水) 11/30(金) 12/4(火)  
(いずれも 午前10:00～午後3:00)

会場 ビアレヨコハマ1階セントラルコート  
(1階正面玄関エスカレーター付近)

#### 内容

- ★簡単栄養レシピ
- ★脚年齢測定
- ★楽しく脳トレ

このほか、並木の情報交換  
&交流スペースや福祉相談  
コーナーも あります!



上記のとおり、当初計画(日時、会場、内容)に沿って順調に実施され、来場者数は、概ね130名程度となりました。  
うち、アンケート回答者は33名であり、27名(81.8%)の方が「とても満足」+「やや満足」と回答されました。  
なお、タウンニュース(2018年12月6日付)に本取組について記事掲載されました。  
ご協力いただきました皆様にお礼申し上げますとともに、本事業に関心のある方は、是非、お声がけください。

# 都市部と農村部における高齢夫婦のみ世帯の地域との関係性の意味

伊藤絵梨子, 田高悦子, 白谷佳恵, 有本梓  
横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野



## 背景・目的

### 背景

- ・高齢者と地域との関係性は、**地域特性**ならびに**世帯類型**によって異なる可能性がある。
- ・都市部は核家族化、地域での人間関係の希薄化が顕著、生活の利便性は高い、農村部は人口減少や地域経済の衰退、生活の利便性は低く、コミュニティの維持が困難。
- ・夫婦のみ世帯は、世帯として生活が成り立ち実態は見えにくく、世帯としての孤立リスクや今後は一方の死に伴う潜在的な孤立リスクを抱えている。

表1. 地域特性と世帯類型による高齢者と地域との関係性に関する枠組み

		地域特性	
		都市	農村
世帯類型	夫婦のみ		<b>本報告</b>
	一人暮らし		

地域特性に応じた夫婦のみ世帯における地域との関係性について明らかにし、それを踏まえた個別支援とともに、各々の地域における地域づくりへの検討が必要である。

**目的** 都市部と農村部における高齢夫婦のみ世帯の地域との関係性の意味を記述し、各々の地域特性に応じた高齢夫婦のみ世帯における社会的孤立予防に向けた地域づくりの示唆を得る。

## 方法

**デザイン** 半構造化面接による質的記述的研究

**対象者** 都市部：神奈川県A市a地域在住の高齢夫婦のみ世帯5組（人口約21,600人、世帯数約9,600世帯、高齢化率30.7%）  
農村部：秋田県B市b地域在住の高齢夫婦のみ世帯6組（人口約26,000人、世帯数約9,600世帯、高齢化率40.5%）

**リサーチクエスト** 「高齢夫婦のみ世帯における地域との関係性の意味」はどのようなものか

**インタビュー内容** 地域での他者との交流の状況や、交流に対する認識、交流する上での課題等

**分析方法** 逐語録を文脈ごとにコード化、意味ごとにサブカテゴリー、カテゴリー化

**倫理的配慮** 横浜市立大学医学研究倫理委員会の承認を得て実施（承認番号:A15326012）

## 結果

表2. 対象者の基本属性

<都市部>

	A		B		C		D		E	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
年齢(居住年数)	76(5)	71(5)	74(34)	72(34)	76(36)	76(36)	80(19)	78(19)	82(36)	76(36)
治療中疾患	脳卒中	高血圧	高血圧	心臓病 腎臓病	高血圧	心臓病		高血圧	視覚障害	筋骨 関節疾患

<農村部>

	A		B		C		D		E		F	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
年齢(居住年数)	71(40)	67(40)	83(83)	70(70)	79(79)	77(49)	85(59)	85(85)	79(39)	79(79)	80(52)	74(52)
治療中疾患		高血圧	高血圧	高血圧	大動脈瘤	気管狭窄	前立腺癌	骨粗鬆症	痛風	乳がん		パーキンソン

表3. 高齢夫婦のみ世帯の地域との関係性の意味

<都市部>

- カテゴリー サブカテゴリー
- 世帯の単位で成り立つ生活の営み
    - 隣近所とは挨拶でつながりをもつ
    - 近所の人を知らなくても不自由しない
    - お互いに顔見知り程度がちょうど良い
  - 自身の役割発揮や趣味の実現
    - 役回りが地域とのつながりをもたらす
    - 趣味やサークル活動を通して地域とつながる
    - 人付き合いは共通の話題がある
  - 互いに干渉することへのためらい
    - 間合いを保って付き合う
    - 相手の発信を待つ助ける
    - 近隣には生活を明かしたくない
  - 組織の一員としての地域への参画
    - 自治会組織の一員として孤立予防に取り組む
    - 相手の世代交代に課題を感じる

<農村部>

- カテゴリー サブカテゴリー
- 集落への調和による生活の営み
    - 自ら周囲に馴染もうとする
    - 近隣とのつながりが生活の一部になる
    - 互いに支え合い冬場を乗り切る
  - 地域の伝統や慣習の継承
    - 昔から続く行事に足を運ぶ
    - 地域の活性化を求め先導する
  - この地で迎える老いへの準備
    - 刺激を求めて人と付き合う
    - 世帯の行く末を案ずる
    - 子どもに頼らない生活を模索する
  - 衰退しゆくコミュニティとの共生
    - つながりの場の減少を受け入れる
    - 暮らしゆく地域への誇りをもつ
    - 厳しい自然の中で暮らし続ける

## 考察

<高齢夫婦のみ世帯における地域との関係性の意味>

**都市部**: 世帯の単位を中心に周囲との距離を保ちながら、役割の発揮や趣味の実現、組織の一員として地域へ参画  
**農村部**: 近隣との調和により生活は成り立ち、地域の伝統や慣習の継承とともに衰退しゆくコミュニティとの共生



<地域特性を踏まえた社会的孤立予防に向けた地域づくりへの示唆>

**都市部**: 緩やかに見守り合う関係性の構築、役割や趣味を通して地域と関わる多様な場や機会の創出と担い手の発掘が必要  
**農村部**: 人口減少が進む集落での生活を可能とするコミュニティの再編、新たな関係性を担う全世代を通じた人材発掘が必要

本研究は平成30科学研究費助成事業、基盤研究A(研究代表者田高悦子)により実施した。



白谷 佳恵 伊藤 絵梨子 有本 梓 小野田 真由美 田高 悦子  
横浜市立大学大学院医学研究科 地域看護学分野

背景・目的

■ 背景

- 高齢者と地域との関係性は、地域特性及び世帯類型により異なる可能性、個別支援とともに高齢者と地域との関係性を踏まえた地域づくりが必要。
- 一人暮らし高齢者は他者との交流が少なく、社会的孤立のリスクが高い。
- 都市部団地地域は人口の少子高齢化及び世帯構造縮小化が一層加速、一人暮らし高齢者の社会的孤立は地域全体における課題。

■ 目的

都市部団地における一人暮らし高齢者の地域との関係性の意味を記述し、社会的孤立予防を踏まえた地域づくりのあり方に関する示唆を得る。

表1 地域特性と世帯類型による高齢者と地域との関係性に関する枠組

		地域特性	
		都市	農村
世帯類型	夫婦のみ		
	一人暮らし	○ (本報告)	○ (細木, 2019)

方法

■ 研究協力者

首都圏政令市臨海部A地域在住の一人暮らし後期高齢者  
\* A地域: 1970年代団地に建立された集合住宅地域(人口21,600人、世帯数9,600世帯)、高齢化率30.7%、急速高齢化。

■ デザイン

一人60〜70分の半構造化面接による質的記述的研究。

■ 方法

日々の暮らしの状況、地域での他者との関わり合いの状況、近隣・地域から支援を受けることへの受け止め方等であり、逐語録内容を質的帰納的に分析。

■ 倫理的配慮

横浜市立大学医学研究倫理審査委員会の承認(A150326012)。

結果

表2 研究協力者の概要

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
性	女	男	男	男	女	女	女	女	男	男
年齢(居住年数)	75(35)	78(16)	83(35)	81(34)	85(28)	85(34)	84(33)	88(3)	81(7)	83(30)
治療中疾患	心疾患 筋・骨格障害	循環器・呼吸器疾患 筋・骨格障害	心疾患 筋・骨格障害	循環器疾患 筋・骨格障害	循環器疾患 がん	循環器疾患	循環器疾患	胃疾患	循環器疾患 筋・骨格障害	筋・骨格障害 循環器疾患

表3 都市部団地における一人暮らし高齢者の地域との関係性の意味

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
利便性と関係性の引き替え	合理的な住まいが老化とともに弊害となる	
	場所がいい、目の前の坂道を上がっていかば、橋を渡ってスーパーの2階に入り、すぐ向かいが中学校で、管理組合がすぐで全て用は足りる。歩けないので、バスがほとんどないです。バスが来たらいかな。マイクロバスみたいなのが出ていて、均一料金で乗れたらいいと思うくらいバスがないですね。	
	人びとの出入りにより地域の住人がわからなくなる	
	全く知らない土地にきたので、本当に知り合いはいない。顔が分かればあれなんだろうけど、顔も分からず、見たこともないので、引越したりする方も多いで、外国の方も見かけるんですよ。	
	人付き合いのストレスからつながりが落ちる	
	よくしてあげたのに、唾ついて泥をひっかけられた。人と喋らないで自分主義がいい。若い人とか外人が増えてきてわからない、自分がいいようにしたい。	
	地域を支える活動への責任感が落ちる	
	うちのほうは持ち回りなんです、もう順番、次のうちは決まっています。だから、みんなやることになっている。だから、こちらはちょっと大変。目立たないようにできるから、それならやりますよ。長年いると、何かやらざるを得なくなっちゃう。自治会に入っている方が本当に少ないんです。うちは入ったんですけども、全員が入っているわけではないので。前は自治会のバス旅行、じゃんけんあったんですけど、今は全然ないわね。なんでか。	
	地域のサポートを業とする者を頼りにする	
	住んでいる人たちも自治会とか管理組合とか、僕もずっと若いころは役員をやったけど…。今やっている役員が声をかけてくれる。毎日、掃除のおじさんの所までは歩いて行って、その歩くくらい。この○号棟と○号棟の周りを一回りしておじさんのところへ行って、挨拶。○○さんという人がレジにいるときには、混んでいてもその人がいるレジへ行っって一言二言(話をする)。とてもいい方がここにはいらっしやるので、安心して頼んだりしてください。ずっと役員をやられている方だと思っても、動かっています。	
他者との相違に基づく調整	病氣や障害を負った身の上を嘆く	
	健康な人がうらやましい、なんでこんな(病氣)になっちゃったんだろう。40年乗っていた運転免許証を返納した、車を諦めた。外もなくなる。駅のエスカレーターか、エレベーターを造ってくればありがたい。脚の筋肉がなくなって、よたよたかも。この階の人で、見ていて身体弱ってきたと思う人はいらぬ。みんな歳とってきて、臆病にはなっているかも。	
	暮らし方の蓄積によりニーズの多様化が広がる	
	自治会や管理組合がコミュニケーションをやっている、カラオケ大会とか、ダンスパーティーとか、行くかもしれない年代によっていろいろ活動が違っているし、興味のあることも違うので、高齢者だと(皆に合う活動は)なかなかないんです。1人でいると、対話できる場所、簡単なお昼を食べながらおしゃべりができてとかいう場所が、月に1回、集まってしゃべれるとか、あったらいいな。お餅つきときに、こんなことしたんだってびっくりしたぐらいなので、結構みんな出なかったり、出る時間が違って合わないのか。	
	何らかの活動に参加したくても意義を見出せなくなる	
	年とってきているから、怪病にはなっているかもね。やりたい人もいるけど、やりたくない人が多いかな。何があるというのは目は通して、そういう活動の方はなかなか参加できないのが現状です。階段のお掃除なんかみんな自分でしますよ。だから、やることもないし。いろんな案内が回ってきて、「こういうのがある」「こういうのがある」…。だけど、ほとんど「これは行かない」、「これは行かない」みたいな。	
	気後れから周囲との距離が広がっていく	
	普段この近所に住む人でよく話をする人はあまりいない。古い人はみんな顔はだいたい知ってるけど、名前と顔が合わない。(近所の人が気軽に集まる場) 面倒くさいなと思っちゃうね。そんなところに行ってもプラスにはならねえだろう。病氣になってから、行く暇ない。だから、忘年会や新年会やあるんだけど、最近行ってないわね。月水金って週に行きましょう。それ以外にやれ火曜日だ曜日は、洗濯があったり、だからあんまり行かない。	
	同じ立場の近隣者を心配する	
	隣の奥さんに10日会ってない、炊事場から覗くと電気がついていいるかわかるけど、10日もついてない、何かあったのかな。ちょっと遠いところは車で連れていっています。本当にそういう人がいない人は大変だと思います。この階の人で、同じ会に入っていたけど、今は全然来なくなっている。見ていて、体調弱ってきたと思う人はいらぬ。車椅子にお人形さんに乗せて、そのお人形さんとしゃべっているの。大丈夫かな。	

考察

都市部団地における一人暮らし高齢者の社会的孤立予防を踏まえた地域づくりとして、当事者の多様性を踏まえた活動ができる場と機会を創出とともに活動の支え手となる人材資源の開発が重要である。今後は他地域及び前期高齢者からも語り得ることで、早期からの一人暮らし高齢者の社会的孤立予防にむけた地域づくりへの示唆を得る必要がある。

ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。本研究は科学研究費助成事業、基礎研究A(研究代表者 田高悦子)により実施しました。開示COIはありません。

白谷佳恵, 伊藤絵梨子, 有本梓, 田高悦子  
横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野

目的

- 高度経済成長期以降に一挙建設された都市部団地は人口減少及び高齢化の加速によりコミュニティ衰退の危機。
- とりわけ、生活における大半の時間をコミュニティですごす高齢者のみ世帯は一層大きなリスクを負う。
- 対象の生活実態の把握には、当事者の認識だけでなく実際の生活時間・空間・行動の面等から検討する必要がある。

目的

都市部団地地域の高齢者のみ世帯における生活時間・空間・行動を記述し、都市部団地における社会的孤立予防を踏まえた地域づくりのあり方を検討する。

方法

デザイン

無記名自記式質問紙調査による横断調査  
及び半構造化面接による質的調査

対象

首都圏政令市南部臨海区における人口減少・高齢化が進行したA地域(高齢化率40.4%・2019年, 集合住宅割合98.8%・2015年)在住の高齢者のみ世帯20人



写真1 11階建てのない集合住宅群 写真2 各階11階建てのない集合住宅群

調査項目

- 人口学的特性 年齢, 世帯状況, 健康状態等
- 心理社会的特性 CCS, CSES, LSNS-6
- 生活時間 2日間(26時間)の生活時間の記載
- 生活空間 LSA(Life-space assessment)
- 生活行動 GPS装着による2日間の生活行動の測定
- 半構造化面接 地域に対する見方・捉え方

分析

記述統計の算出, 国民生活時間調査(2016, NHK)70歳代平均値との比較, 半構造化面接内容の質的分析。

倫理的配慮

倫理審査委員会承認(A150122012), 対象同意を得て実施。

結果

表1 対象者の特性(全体及び世帯別)

年齢 ごとも	全体(N=20)			男性(n=10)			女性(n=10)		
	Mean±SD (range)								
年齢	79.2±4.7 (71-88)	79.4±3.2 (74-83)	79.0±6.0 (71-88)	82.3±3.7 (75-88)	81.2±2.0 (78-83)	83.4±4.9 (75-88)	76.1±3.3 (71-82)	77.6±3.3 (74-82)	74.6±3.0 (71-78)
性別									
神奈川県内	14 15.0	7 20.0	7 10.0	8 10.0	4 20.0	4 0.0	6 20.0	3 20.0	3 20.0
神奈川県外	4 20.0	2 20.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 40.0	2 40.0	2 40.0
いない	2 10.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
居住年数	25.8±12.3 (3-36)	25.2±3.2 (5-36)	26.3±12.8 (3-36)	25.5±12.2 (3-35)	24.4±12.3 (3-35)	26.6±13.5 (3-35)	26.0±12.9 (5-36)	26.0±13.7 (5-36)	26.0±13.7 (5-36)
治療中の病名(複数回答)									
あり	18 90.0	8 80.0	10 100.0	10 100.0	5 100.0	5 100.0	8 80.0	3 60.0	5 100.0
高血圧	11 55.0	5 50.0	6 60.0	6 60.0	3 60.0	3 60.0	5 50.0	2 40.0	3 60.0
筋・骨・関節	11 55.0	5 50.0	6 60.0	6 60.0	4 80.0	2 40.0	5 50.0	1 20.0	4 80.0
心疾患	4 20.0	1 10.0	3 30.0	2 20.0	1 20.0	1 20.0	2 20.0	0 0.0	2 40.0
その他	4 20.0	4 40.0	0 0.0	2 20.0	2 40.0	0 0.0	2 20.0	2 40.0	0 0.0
介護認定									
要支援1	7 77.8	3 30.0	4 40.0	6 60.0	2 40.0	4 80.0	1 10.0	1 20.0	0 0.0
要支援2	1 11.1	1 10.0	0 0.0	1 10.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
CCS	15.6±4.6 (7-23)	16.1±4.7 (9-23)	15.0±4.7 (7-23)	12.5±3.2 (7-17)	12.8±3.3 (9-17)	12.2±3.6 (7-15)	18.6±3.7 (13-23)	19.4±3.4 (15-23)	17.8±4.2 (13-23)
CSES	9.4±3.6 (0-18)	10.9±5.0 (2-18)	7.8±6.0 (0-17)	5.8±4.3 (0-14)	8.4±4.6 (2-14)	3.2±2.0 (0-5)	13.4±3.8 (7-18)	13.4±4.5 (7-18)	13.5±3.3 (9-17)
LSNS6	12.0±6.0 (3-23)	12.5±5.8 (4-23)	11.5±6.6 (3-22)	8.1±4.1 (3-14)	9.4±3.8 (4-14)	6.8±4.3 (3-12)	15.9±5.1 (8-23)	15.6±6.0 (8-23)	16.2±4.8 (10-22)

CCS(Community Commitment Scale), CSES(Community's Self Efficacy Scale), LSNS6(Lubben Social Network Scale 短縮版)

表2 対象者の生活時間・行動

調査項目	全体			独居			夫婦		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
睡眠(夜/昼含む)	470	490	450	499	506	492	441	474	408
睡眠以外の休息(のんびり/ぼんやり含む)	42	21	62	60	30	90	23	12	34
朝食(朝食は夕食後の食事)	128	111	146	89	71	106	168	150	166
洗濯(洗濯/掃除/入浴等)	40	23	58	41	22	60	40	23	56
医療(受診/内服/ケアの手当等)/介護	13	2	24	24	0	48	2	3	0
小計	693	646	740	713	629	796	673	662	684
テレビ/ラジオ	323	375	270	372	444	300	273	306	240
読書(新聞/雑誌/カタログ含む)	31	33	29	25	22	28	37	44	30
インターネット	33	61	5	12	24	0	54	98	10
CD/テープ/ビデオ/DVD鑑賞	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	387	469	304	409	490	328	364	448	280
買物	57	55	59	85	84	86	29	26	32
理・美容院/マッサージ等	8	16	0	0	0	0	16	32	0
他(クリーニング/移動/清掃等)	67	73	61	43	63	22	91	82	100
小計	132	144	120	128	147	108	136	140	132
食事の用意/食付	68	51	84	78	66	90	57	36	78
家庭内外的掃除	20	7	32	23	12	34	16	2	30
洗濯/アイロンがけ/衣類の熨め等	21	0	42	22	0	44	20	0	40
原仕事/ガーデニング	1	1	0	0	0	0	1	2	0
他(ペットの世帯/家計簿管理/家庭修繕等)	13	15	10	8	4	12	17	26	8
小計	121	74	168	131	82	180	111	66	156
スポーツ観戦/習字・英字・映画鑑賞等	16	16	15	0	0	0	31	32	30
ハイキング/釣り/登山	7	14	0	0	0	0	14	28	0
散歩/体後/スポーツ	29	33	29	13	26	0	46	40	50
屋内活動(手芸/彫刻/絵/鑑賞/楽器等)	44	27	61	33	54	12	55	0	110
他	2	3	0	0	0	0	3	6	0
小計	96	90	101	46	80	12	145	100	190
講演会/講座会/講習	0	0	0	0	0	0	0	0	0
文化(執筆/学習等)	10	19	0	17	34	0	2	4	0
自治会/市民活動/宗教団体での活動	30	21	39	1	2	0	59	40	78
親族での活動(食事等含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他	13	24	2	0	0	0	26	48	4
小計	53	64	41	18	36	0	87	92	82
家族との会話	0	0	0	0	0	0	0	0	0
友人・知人との会話/パーティ/宴会	32	14	49	20	4	36	43	24	62
電話	3	3	3	6	6	6	0	0	0
メール/ライン/チャット	2	0	4	4	0	8	0	0	0
手紙を書く	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	37	17	56	30	10	50	43	24	62
親の世話(介護/相談含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
配偶者の世話	0	0	0	0	0	0	0	0	0
息子/孫の世話(介護/相談含む)	3	6	0	6	12	0	0	0	0
孫の世話(他国の手紙/送迎/送迎/受診含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の者の世話	7	0	13	0	0	0	13	0	26
小計	10	6	13	6	12	0	13	0	26
本読書/協力	13	17	8	10	20	0	15	14	16
空席	32	18	46	39	32	46	25	4	46
合計時間	1,571	1,544	1,597	1,529	1,538	1,520	1,612	1,550	1,674

国民生活時間調査(2016, NHK)70歳平均値: 生理行動(男性:678, 女性:665), メディア(男性:423, 女性:416)  
家事(男性:86, 女性:222), 趣味(男性:85, 女性:64), コミュニケーション(男性:15, 女性:20)  
単位は1分未満

考察

都市部団地地域の高齢者のみ世帯において、他者との関係性が十分でない中でも生活が成立することが考えられる。一方で、このような都市部団地地域における社会的孤立予防のためには、地域づくりとして、小規模範囲のコミュニティでの趣味や学習等の活動を複数箇所で開催する等、生活時間・空間・行動の実態を踏まえた取組が有効である。とくに地域の利便性を担保しつつ、他者との適度な関係性が可能となる地域活動を計画することが重要である。

本研究は平成29年度科学研究費助成事業、基盤研究A(研究代表者 田高悦子)により実施した。演題発表に関連し開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

# 写真 地域事業 I 候補商業施設内

① イオン1階 空き店舗 1/2



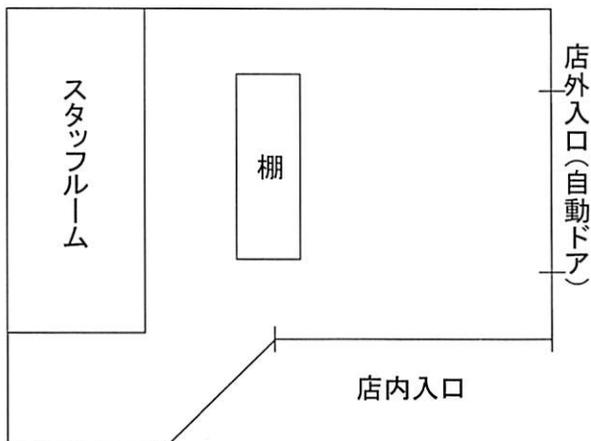
店内からの様子

① イオン1階 空き店舗 2/2

2018/10/16



店外からの様子

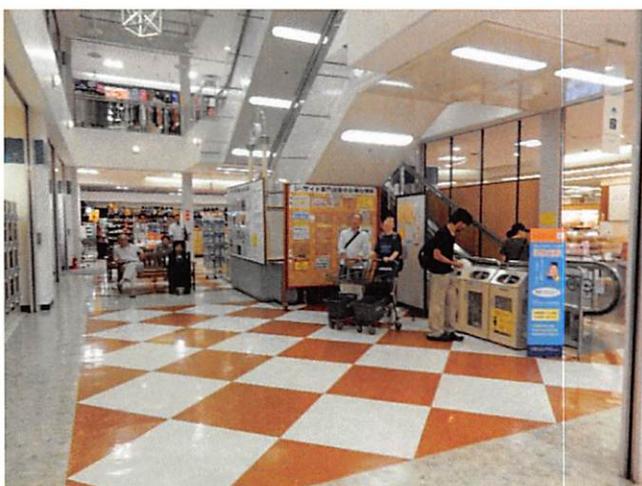


② ビアレ新館1階 マツキヨ前

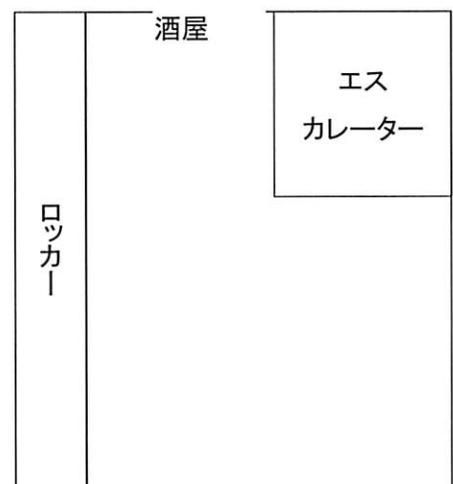


・ペットショップ、ドラッグストア等があり、人通りが見込める。

③ イオン1階 空きスペース

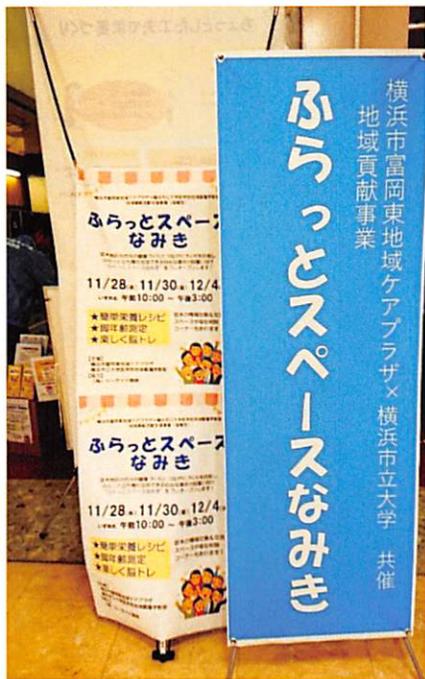


・休憩スペースと兼用  
・人通り多い(食品売場隣接)



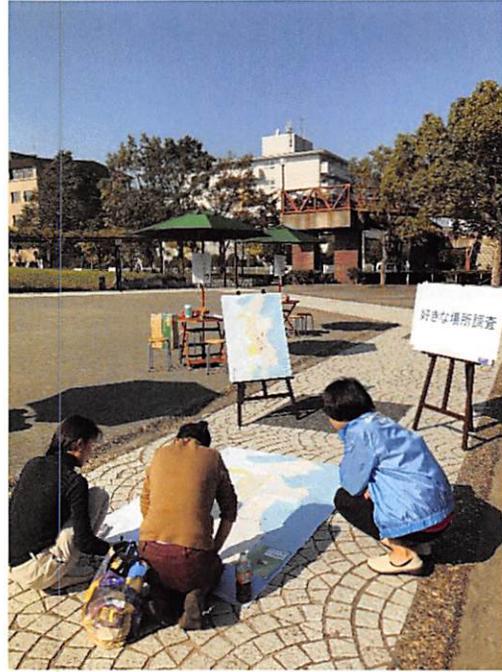
イオン入口

地域事業Ⅰ 実施写真 2018年12月4日イオン

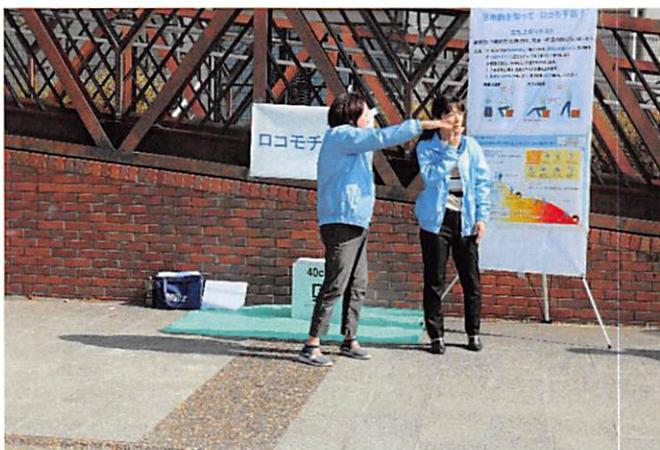
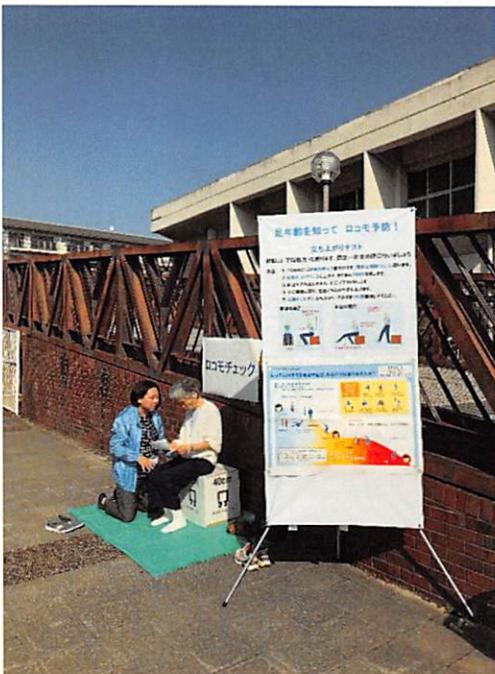
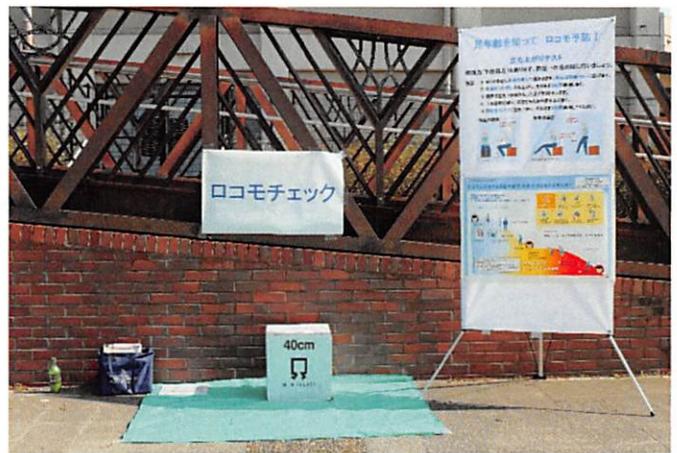




地域事業Ⅱ実施写真 2019年11月1日イド藻公園

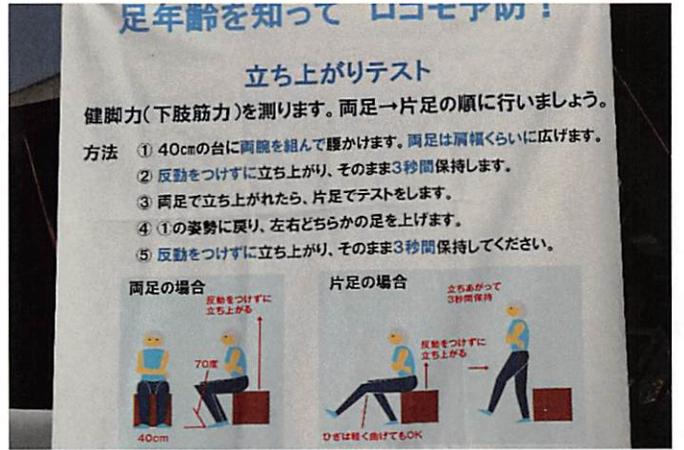


地域事業Ⅱ実施写真 2019年11月1日イド藻公園



地域事業Ⅱ実施写真 2019年11月1日イド藻公園





地域事業Ⅱ実施写真 2019年11月7日イガイ根公園



地域事業Ⅱ実施写真 2019年11月7日イガイ根公園



2017～2019(平成 29～令和元)年度 横浜市立大学地域貢献活動支援事業(協働型)  
**一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯の社会的孤立予防にむけた仕組みの開発 事業報告書**

---

編集 横浜市立大学医学部地域看護学教室  
発行 横浜市立大学医学部地域看護学教室  
〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9  
発行日 2020 年 3 月 27 日

印刷所 株式会社 ビーワイエス  
〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-23-2  
UBG 東池袋ビル 4 階

---